摂南大学国際学部

設置の趣旨等を記載した書類

目　　次

1. 設置の趣旨及び必要性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
2. 学部・学科等の特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 8
3. 学部・学科等の名称及び学位の名称・・・・・・・・・・・・・・・・ P 10
4. 教育課程の編成の考え方及び特色・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 11
5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件・・・・・・・・・・・・・・・ P 19
6. 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画 P 23
7. 編入学定員を設定する場合の具体的計画・・・・・・・・・・・・・・ P 25
8. 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 26
9. 取得可能な資格・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 34
10. 入学者選抜の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 35
11. 教員組織の編制の考え方及び特色・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 41
12. 施設、設備等の整備計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 43
13. 管理運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 46
14. 自己点検・評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 50
15. 情報の公表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 52
16. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等・・・・・・・・・・・ P 57
17. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制・・・・・・・・・・・・ P 59

１．設置の趣旨及び必要性

（１）国際学部の設置の趣旨

１）摂南大学の沿革と概要

摂南大学は、設置母体である学校法人常翔学園が、大正 11（1922）年に関西工学専修学校として開校したことに起源する。本学園の建学の精神「世のため、人のため、地域のため、理論に裏付けられた実践的技術をもち、現場で活躍できる専門職業人を育成する」のもと、時代と社会・地域の要請に応え、世の中に貢献できる人材を育成してきた。

本学園が発展する歴史の中で、本大学は昭和 50（1975）年に大阪府寝屋川市に工学部（現理工学部）5 学科を設置する大学として開学した。その後、時代と社会・地域の要請に応えるべく、国際言語文化学部（現 外国語学部）、経営情報学部（現 経営学部）、薬学部、法学部、経済学部、看護学部、農学部を設置し、現在の 8 学部 17 学科の総合大学として進展した。この間、一貫して本大学は、教育の理念「建学の精神に則り、全人の育成を第一義として、人間力・実践力・統合力を養い、自らが課題を発見し、そして解決することができる知的専門職業人を育成する」を基本に据えた、全人教育及び専門教育を行ってきた。

現在の学部・大学院構成は以下の通りである。

寝屋川校地（大阪府寝屋川市池田中町 17 番 8 号）

	学部・研究科名	学科・専攻名
学部	理工学部	生命科学科、住環境デザイン学科、建築学科、機械工学科、電気電子工学科、都市環境工学科
	外国語学部	外国語学科
	経営学部	経営学科、経営情報学科
	法学部	法律学科
	経済学部	経済学科
大学院	理工学研究科	社会開発工学専攻（博士前期課程）、生産開発工学専攻（博士前期課程）、生命科学専攻（博士前期・後期課程）、創生工学専攻（博士後期課程）
	経済経営学研究科	経済学専攻（修士課程）、経営学専攻（修士課程）
	法学研究科	法律学専攻（修士課程）
	国際言語文化研究科	国際言語文化専攻（修士課程）

枚方校地（大阪府枚方市長尾峠町 45 番 1 号）

	学部・研究科名	学科・専攻名
学部	薬学部	薬学科［6 年制］
	看護学部	看護学科
	農学部	農業生産学科、応用生物科学科、食品栄養学科、食農ビジネス学科
大学院	薬学研究科	医療薬学専攻（博士課程）
	看護学研究科	看護学専攻（修士課程）

２）国際学部の設置の経緯

本大学は昭和 57（1982）年に国際言語文化学部を開設し、外国語を中心とした国際的な教育研究を行ってきた。その後平成 17（2005）年に外国語学部に名称変更し、現在に至っている。このたび令和 4（2022）年に開設する国際学部は、既存の外国語学部の教育課程、教員組織を基盤として、それを発展的に改組するものであり、国際学部の設置と同時に外国語学部は学生募集を停止する。既存の外国語学部においても、その英語名称が Faculty of Foreign Studies であることからもわかるように、外国語だけでなくその社会や文化を学び研究することを目的としていたが、学びの重心を外国語の学修から、世界の社会や文化そのものにシフトさせ、教育研究内容と養成人材像をさらに幅広く深化させるため、このたび国際学部の設置に至ったものである。

３）国際学部の概要

今般設置する国際学部に国際学科の 1 学科を置き、概要は以下の通りとする。なお、本学部の設置の基礎となる学部である外国語学部外国語学科は入学定員 220 人、3 年次編入学定員 5 人であることから、学部設置と同時に入学定員を 30 人増員し 250 人とする。

国際学部の概要

学部名称	学科名称	修業年限	入学定員	3 年次編入学定員	収容定員	学位名称
国際学部	国際学科	4 年	250 人	5 人	1,010 人	学士（文学）

（２）国際学部の設置の必要性

21 世紀に入ってからの世界はグローバル化、ボーダーレス化のスピードを加速させている。2020 年のコロナ禍により、一時的に国際的な人とモノの交流が停滞する状況になっているものの、長期的な方向性としては、グローバル化は我が国を含む地球全体の不可避の潮流として、世界はその結びつきと相互の影響をますます強めている。邦人が外国に居住し就労することがもはや特別なことではなくなる一方で、我が国における外国人居住者の数も年々増加している。グローバル化が急速に進展する社会においては、外国語によるコミュニケーション能力は、従来のように一部の業種や職種に必要とされる能力ではなくなっており、多くの市民が生涯にわたって様々な場面で必要とされることが想定され、その能力の向上が課題となっている。産業・経済が急速に高度化し、世界のあらゆる分野においてボーダーレス化が進展している中、より実践的な外国語の能力、多様な人々の中でコミュニケーションを行う能力、また異文化に対する理解力を備えた人材の養成が求められている。

平成 22（2010）年に経済産業省の産学人材育成パートナーシップグローバル人材育成委員会が発表した報告書「産学官でグローバル人材の育成を」では、グローバル人材を「グローバル化が進展している世界の中で、主体的に物事を考え、多様なバックグラウン

ドをもつ同僚、取引先、顧客等に自分の考えを分かりやすく伝え、文化的・歴史的なバックグラウンドに由来する価値観や特性の差異を乗り越えて、相手の立場に立って互いを理解し、更にはそうした差異からそれぞれの強みを引き出して活用し、相乗効果を生み出して、新しい価値を生み出すことができる人材」と定義している。政府の「グローバル人材育成戦略」（平成 24 年）では、「豊かな語学力・コミュニケーション能力や異文化体験を身につけ、国際的に活躍できる『グローバル人材』を我が国で継続的に育てていかなければならない」との方針が示されている。そこではグローバル人材が保持する能力について、①語学力・コミュニケーション能力、②主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感、③異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティーの 3 つの要素を挙げた上で、グローバル人材を「幅広い教養と深い専門性、課題発見・解決能力、チームワークと（異質な者の集団をまとめる）リーダーシップ、公共性・倫理観、メディア・リテラシー等を併せ持つ者」と定義している。同書においては、外国語（英語）運用能力について、その水準を 5 段階に分類した上で、「業務上の文書・会話レベル」を超えた、「二者間折衝・交渉レベル」または「多数者間折衝・交渉レベル」の語学能力を持った人材が不足しており、継続的に育成する必要性があるとしている。平成 29（2017）年 7 月に発表された「グローバル人材育成の推進に関する政策評価」によると、海外進出企業 980 社のうち約 5 割の企業でグローバル人材にあてはまる新卒採用者は増加傾向にあるものの、依然約 7 割の企業が海外事業に必要な人材が不足していると回答し、企業から大学に対して求める取り組みとして、海外留学の促進、異文化理解に関する授業、ディベート等の対話型の授業の必要性等が挙げられている。

コロナ禍により一時的に落ち込んでいる観光業については、近年の我が国における観光分野の発展、特にインバウンドの外国人観光客の増加は特筆するべき事象であり、長期的にはさらなる産業としての成長が予想されている。インバウンド領域における幅広いホスピタリティ業界を支える人材も不足が指摘されており、外国語運用能力、コミュニケーション能力、情報発信能力を備えた人材が求められている。

さらに SDGs（持続可能な開発目標）に代表される、近年重要性を増している持続可能な発展のための様々な活動を行うためには、多国籍、多文化、多言語の理解とコミュニケーションと共同作業が欠かせない要素となっている。今や外国との直接的な関係がまったくない事業所や個人においても、国際的な水準でのリテラシーが求められるようになっていると言える。

本大学では、現代の世界において求められる外国語運用能力やコミュニケーション能力等の多岐に渡る様々な能力を「グローバルリテラシー」と一語にまとめた上で、上述した社会的な背景を理由に、グローバルリテラシーを持った人材、専門職業人が社会から求められているとの結論に至ったことから、その社会的要請に応えるため、令和 4（2022）年に新たに国際学部を開設することとした。

（３）国際学部において養成する人材像

本学部が掲げる養成する人材像は、「グローバル化・ボーダーレス化が進む世界における様々な課題について解決策を見出し、果敢に行動できる人材、世界の国や地域の歴史・地理・社会・文化等の基礎知識を基に、豊かな教養と広い視野を身につけ、多様な価値観を客観的に理解して判断・発信できるグローバルリテラシーを修得した、国際社会で活躍できる知的専門職業人を養成する」とする。

上記の「養成する人材像」を実現するため、学生には以下の能力を身につけさせる。

「知識・理解」においては、現代社会の諸問題に向き合う上で必要な人文・社会・自然科学系の基礎的な知識を修得させ、また、複雑化する社会情勢、国際情勢に対応するべく、特に文化的社会的視点から領域横断的な知識を修得させる。「思考・判断」においては、グローバル化する社会の中で、自ら課題を発見し、その解決に向けて必要な方法を提案できる力を修得させ、また、様々な課題の発見・解決において、新しい発想を生み出す柔軟な思考力・判断力を修得させる。「関心・意欲・態度」においては、国際社会や地域社会、様々な共同体が抱える問題に関心を持ち、複眼的・客観的にそれらを把握する態度を身につけさせ、また、文化的背景や価値観の異なる他者と関わる姿勢、協調して活動する意欲を身につけさせる。「技能・表現」においては、日本語による論理的な表現と正確な伝達ができる能力、さらに英語や他の言語を使用し、状況に応じたコミュニケーションが取れる能力を修得させ、さらに、情報リテラシー・ICT・文化リテラシーを高められるようにする。

（４）教育研究上の目的とディプロマ・ポリシー

本学部の「養成する人材像」を実現するための教育研究上の目的とディプロマ・ポリシーは以下に示す通りである。なお、本学部は１学部１学科の構成であるため、ディプロマ・ポリシーをはじめとする３ポリシーは、学部学科で同一とする。

国際学部の教育研究上の目的とディプロマ・ポリシー

国際学部の教育研究上の目的	
グローバル化・ボーダーレス化が進む世界における様々な課題について解決策を見出し、果敢に行動できる人材を育成する。世界の国や地域の歴史・地理・社会・文化等の基礎知識を基に、豊かな教養と広い視野を身につけ、多様な価値観を客観的に理解して判断・発信できるグローバルリテラシーを修得した、国際社会で活躍できる知的専門職業人を養成することを目的とする。	
国際学部のディプロマ・ポリシー	
本学部の課程を修め、所定の単位を修得した上で、次の要件を満たした者に学士（文学）の学位を授与する。	
●知識・理解	［DP1］　人文・社会・自然科学系分野の基礎知識を身につけるとともに、各分野の関連性についても理解できる。（一般教養と専門教育の基礎知識） ［DP2］　世界の国・地域の歴史、社会、文化についての個別的知識とともに、国・地域間の関係性等について学際的に理解できる。（人文・社会系分野の専門知識）

●思考・判断	［DP3］ グローバル化する社会の中で、国・地域に固有の課題と国・地域を越えた共通の課題とを識別し、その課題解決に向けて必要な情報を選別し、学術的な視点から妥当な解決方法を提案できる。（問題解決力） ［DP4］ 様々な課題を解決する際に、文化的価値観の多様性を視野に入れながら、既存の考え方の枠組みに捕らわれずに、柔軟な思考・判断ができる。（思考力・判断力）
●関心・意欲・態度	［DP5］ 日々刻々と変化する国際社会の動向に関心を持ち、複眼的な観点から、客観的に事態を把握しようとする態度を身につけている。（観察力） ［DP6］ 文化的背景・価値観の異なる他者と積極的に関わろうとする姿勢を持ち、協調して様々な活動を行う意欲を身につけている。（協調性）
●技能・表現	［DP7］ 日本語に加え、英語等の外国語も状況に合わせて使用することで、実践的なコミュニケーションを取ることができる。（言語コミュニケーション力） ［DP8］ 情報リテラシー（メディアリテラシー、ICT や AI の活用等）を身につけるとともに、文化的価値観、ジェンダー等にも配慮しながら、状況に合わせて適切に表現できる。（表現力）

＜養成する人材像とカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの相関＞

本学部の「養成する人材像」、身につける能力とカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーとの関係は以下の通りである。

本学部の「養成する人材像」である「グローバル化・ボーダーレス化が進む世界における様々な課題について解決策を見出し、果敢に行動できる人材、世界の国や地域の歴史・地理・社会・文化等の基礎知識を基に、豊かな教養と広い視野を身につけ、多様な価値観を客観的に理解して判断・発信できるグローバルリテラシーを修得した、国際社会で活躍できる知的専門職業人」のうち、「様々な課題について解決策を見出し、果敢に行動できる能力」は主に DP3（CP3）、DP4（CP4）、DP5（CP5）、DP6（CP6）と相関し、「世界の国や地域の歴史・地理・社会・文化等の基礎知識」は主に DP1（CP1）と DP2（CP2）に相関し、「豊かな教養と広い視野」は主に DP1（CP1）と DP8（CP8）に相関し、「多様な価値観を客観的に理解して判断・発信できるグローバルリテラシー」は主に DP3（CP3）、DP4（CP4）、DP5（CP5）、DP6（CP6）、DP7（CP7）、DP8（CP8）に相関する。

【資料１】養成する人材像とカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの相関図

（５）組織として研究対象とする中心的な研究分野

本学部では、基礎となる学部である外国語学部で積み重ねてきた外国語に重心を置いた教育研究から、さらに世界の国や地域の社会や文化にもその対象を広げる形で研究を進めていくことから、研究分野は人文科学系を中心として多岐に渡っている。具体的には、言

語学、言語教育学、文学、歴史学、地理学、哲学、文化人類学、社会学、宗教学等文学関係の分野をその対象とする。

（６）卒業後の進路

本学部の卒業後の進路については、外国語能力とグローバルリテラシーを修得した人材として、外国での就業も含めた幅広い分野・業界に進むと考えている。具体的には、以下の8種類の分野を想定している。現在では多くの企業や事業所が国際的な業務に関係しており、英語のみならず、中国語、スペイン語、インドネシア語・マレー語話者の需要も拡大していることから、語学面のみに着目しても、本学部の卒業生の社会的人材需要は大きいと考える。

①新時代のメディアに関わる仕事

マスコミ、インターネット関係等

②国際社会と地域をつなぐ仕事

ホスピタリティ関連、オフショア開発に携わる仕事、貿易や製造業等国際的な業務を行う全ての業種

③国際貢献・ボランティアに関わる仕事

国際機関、政府機関、公的団体、NPO 等

④日本文化の発信と国際交流に関わる仕事

学芸員、自治体、政府機関、公的団体等

⑤ヒトと AI の関係を取りもち整える人材系の仕事

人材業、企業の人事部、IT 企業

⑥地域社会における多文化の共生を目指す仕事

自治体、ソーシャルワーカー、NPO 職員等

⑦日本語教育現場での仕事

日本語教員

⑧英語による高度なコミュニケーション能力を要する仕事

英語教員（中学・高校）、通訳士、翻訳士等

２．学部・学科等の特色

（１）国際学部が担う重点的な機能

本大学は今般設置する国際学部において、グローバルリテラシーを身につけた人材を養成することで、今後さらにグローバル化が進み多文化のコミュニケーションが求められる地域社会及び国際社会に貢献していく。本学部は、このような人材の養成を通じて、中央教育審議会の答申「我が国の高等教育の将来像」に提言された「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえ、幅広い職業人養成、総合的教養教育、社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）の機能を重点的に担い、高等教育機関としてその社会的使命を果たしていく。

（２）国際学部の教育の特色

１）グローバルリテラシーを身につけるカリキュラム

グローバルリテラシーとは、相互の文化と多様性を理解する能力で、現在では「英語力」に替わって必要とされる能力であるとされている。本学部では、以下のような独自の特色あるカリキュラムと取り組みにより、現代社会で求められるグローバルリテラシーを身につける。

①協働学習で取り組む 3 領域にわたる多彩なプロジェクト科目を開講
②SDGs と関連した科目を多数開講
③実習科目による国際体験（国内・海外を問わず。原則として学生全員）
④英語＋α の言語学修
⑤外国語で学ぶ科目を多数開講（特に「協働学習プロジェクト科目」の「接続科目」）

２）ストリーム型学習

「ストリーム型学習」とは、隔週で講義と演習を交互に繰り返す学修方法で、前週に講義で学んだ内容を、次週には演習形式で学生がアウトプットする形式の学修形態である。講義と演習のそれぞれの長所を活かした上で、より大きな教育効果が期待できる手法として、本学独自の特色ある教育に位置づけ編成する。講義と演習を組み合わせた「ストリーム型学習」で、必要な知識を確実に身につけながら、グループでの議論を通して、アウトプットも重視した実践的な学びを行う。「ストリーム型学習」を採用する科目として、1 年次は必修科目の「世界を学ぶ」「日本を学ぶ」を配置し、2 年次前期に「文化構想領域」、2 年次後期に「国際共生領域」、3 年次前期に「社会協創領域」のそれぞれのプロジェクト科目を配置する。さらに「協働学習プロジェクト科目」として、プロジェクト科目（ストリーム型学習）＋基幹科目（講義）＋接続科目（外国語で学ぶ科目）を互いに連携させるように配置し、学生が専攻したい分野を半期ごとに学ぶカリキュラムとする。

３）外国語の学修方法

「外国語を学ぶ」科目（語学科目）は最少限に留め、「外国語で学ぶ」科目を増やし、外国語で専門的な内容を学ぶことで活きた語学力を身につける。英語教育については、4 年間を通した重点的な英語科目の履修により、英語教員等英語のスペシャリストを養成する「English Language Honors Track」も設ける。英語以外の 3 外国語群（中国語、スペイン語、インドネシア語・マレー語）は、1 年次前期に「諸言語輪講」（必修科目）で触れ、1 年次後期に選択必修の語学科目で基礎を学ぶ。その後は、「外国語（英語及び 3 外国語群）で学ぶ」科目である「協働学習プロジェクト科目」の接続科目に移行する。接続科目は、3 領域に 8 科目ずつの合計 24 科目を配置する。

３．学部・学科等の名称及び学位の名称

（１）学部・学科の名称

学部は、「グローバル化・ボーダーレス化が進む世界における様々な課題について解決策を見出し、果敢に行動できる人材を育成し、世界の国や地域の歴史・地理・社会・文化等の基礎知識を基に、豊かな教養と広い視野を身につけ、多様な価値観を客観的に理解して判断・発信できるグローバルリテラシーを修得した、国際社会で活躍できる知的専門職業人を養成する」ことを目的とすることから、学部名称を「国際学部」とする。学科は１学科とし「国際学科」とする。

英訳名称については、国際的な通用性に鑑み、学部については「Faculty of International Studies」、学科については「Department of International Studies」とする。

学部・学科の名称	英訳名称
国際学部	Faculty of International Studies
国際学科	Department of International Studies

（２）学位の名称

本学部の学位の名称は、外国語を中心とした言語学とともに世界の国や地域の文化、社会、歴史を主要な教育研究の対象とし、その学びの範囲は人文科学系の分野において多岐にわたることから、「学士（文学)」とする。

英訳名称は、国際的な通用性に鑑み、「Bachelor of Arts」とする。

学部学科	学位の名称	学位の英訳名称
国際学部国際学科	学士（文学）	Bachelor of Arts

４．教育課程の編成の考え方及び特色

（１）教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

国際学部では、本大学の教育の理念である「建学の精神に則り、全人の育成を第一義として、人間力・実践力・統合力を養い、自らが課題を発見し、そして解決することができる知的専門職業人を育成する」を基本に据えた全人教育及び専門教育を行うことで、「グローバル化・ボーダーレス化が進む世界における様々な課題について解決策を見出し、果敢に行動できる人材、世界の国や地域の歴史・地理・社会・文化等の基礎知識を基に、豊かな教養と広い視野を身につけ、多様な価値観を客観的に理解して判断・発信できるグローバルリテラシーを修得した、国際社会で活躍できる知的専門職業人を養成する」ことを目的とする。本学部では、先に示したディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけた人材を養成するための教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）を以下の通り設定する。なお、「養成する人材像」やディプロマ・ポリシーとの相関については【資料１】の通り。

国際学部のカリキュラム・ポリシー

●知識・理解	［CP1］	現代社会の諸問題に向き合う上で必要となる基礎的な知識を習得するために、人文・社会・自然科学系等の教養科目を配当する。さらに、専門科目として「世界を学ぶ」「日本を学ぶ」等の文化社会科目を段階的に配当する。
	［CP2］	複雑化する国際社会情勢に対応するべく、特に文化的・社会的視点から領域横断的な知識を習得するために、「エリアスタディーズ」「共同体論」「言語学」等の文化社会科目（地域文化科目・一般学芸科目・言語学芸科目）、また「環境と社会」「グローバルスタディーズ」「ジェンダーとマイノリティ」等の協働学習プロジェクト科目（基幹科目）を段階的に配当する。
●思考・判断	［CP3］	グローバル化する社会の中で、自ら課題を発見し、その解決に向けて必要な方法を提案できる力を習得するために、2 年次から 3 年次にかけて文化構想・国際共生・社会協創の 3 領域にわたる協働学習プロジェクト科目（プロジェクト科目）、また「課題解決型ワークショップ」「ホスピタリティ実習演習」等の協働学習プロジェクト科目（実習・演習科目）を配当する。さらに、1 年次から 4 年次にかけてゼミおよび卒業研究を段階的に配当する。
	［CP4］	様々な課題の発見・解決において、新しい発想を生み出す柔軟な思考力・判断力を習得するために、2 年次から 3 年次にかけて文化構想・国際共生・社会協創の 3 領域にわたる協働学習プロジェクト科目（プロジェクト科目）、また「課題解決型ワークショップ」「体験型特別実習」等の協働学習プロジェクト科目（実習・演習科目）を配当する。さらに、1 年次から 4 年次にかけてゼミおよび卒業研究を段階的に配当する。

●関心・意欲・態度	［CP5］ 国際社会や地域社会、様々な共同体が抱える問題に関心を持ち、複眼的・客観的にそれらを把握する態度を身につけるために、2 年次から 3 年次にかけて文化構想・国際共生・社会協創の 3 領域にわたる協働学習プロジェクト科目（プロジェクト科目）、また「英語で考える社会問題」「中国語圏の地域と共生」「スペインから世界を見る」「インドネシア語で世界を知る」等の協働学習プロジェクト科目（接続科目）を配当する。さらに、1 年次から 4 年次にかけてゼミおよび卒業研究を段階的に配当する。 ［CP6］ 文化的背景・価値観の異なる他者と関わる姿勢、協調して活動する意欲を身につけるために、2 年次から 3 年次にかけて文化構想・国際共生・社会協創の 3 領域にわたる協働学習プロジェクト科目（プロジェクト科目）、また「英語圏異文化交流論」「中国語と生活文化」「スペインの言語と文化」「インドネシア語と生活文化」等の協働学習プロジェクト科目（接続科目）を配当する。さらに、1 年次から 4 年次にかけてゼミおよび卒業研究を段階的に配当する。
●技能・表現	［CP7］ 日本語による論理的な表現と正確な伝達ができるように「日本語表現」を配当し、英語による基本的な表現と伝達ができるように「Reading」「Japanese Society and Culture」等の英語基礎科目を配当する。また、英語や他の言語を使用し、状況に応じたコミュニケーションが取れるように、「Business English」「中国語で会話する」「スペイン語会話」「インドネシア語会話」等の英語、中国語、スペイン語、インドネシア語・マレー語の科目を地域言語科目として配当する。さらに、報告・発表を通してコミュニケーション能力を高めるため、1 年次から 4 年次にかけてゼミおよび卒業研究を配当する。 ［CP8］ 情報リテラシー・ICT を身につけるため、「情報リテラシー」を配当し、1・2 年次のゼミでもこれらを実践する。また、文化リテラシーを高められるように、「世界を学ぶ」「日本を学ぶ」「エリアスタディーズ」「地域研究プロジェクト」「グローバルスタディーズ」の他、「Studies in Media and Communication」「中国語で読み解く地域社会」「スペイン語を通して学ぶヨーロッパ社会」「インドネシア語で考える現代社会」等の協働学習プロジェクト科目（接続科目）を配当する。さらに、報告・発表を通してこれらのリテラシーを高めるため、1 年次から 4 年次にかけてゼミおよび卒業研究を配当する。

（２）教育課程の編成の特色

１）教育課程の編成

本学部の教育課程は、大きくは専門科目と教養科目に区分し、以下のように編成する。

専門科目は「協働学習プロジェクト科目」と「文化社会科目」の２つに区分する。「協働学習プロジェクト科目」は、「文化構想領域」「国際共生領域」「社会協創領域」の３領域と「実習・演習科目」に区分する。それぞれの領域は、「プロジェクト科目」「基幹科目」「接続科目」の３つの科目群から構成する。「文化社会科目」は、「地域文化科目」「一般学芸科目」「言語学芸科目」「エアライン・ホスピタリティ科目」「学芸員科目」「日本語教員科目」「英語基礎科目」「地域言語科目」の 8 科目区分で構成する。さらに「地域言語科目」は、「英語」「諸言語」「中国語」「スペイン語」「インドネシア語・マレー語」に区分する。4 年間を通したゼミ授業として、「ゼミ・卒業研究」の科目群を置く。

教養科目は「人文科学系」「社会科学系」「自然・科学技術系」「英語系」「外国語系」「日本語系」「数理・情報系」「キャリアデザイン系」「スポーツ系」「地域志向系」「共通基礎系」「教養特別系」「外国人留学生対象科目」「帰国学生対象科目」の 14 分野を置く。

上述した教育課程の構成図を以下に示す。なお、本学部では、コースや専攻は特に設定せず、履修条件や卒業要件の範囲において、学生の自由度を最大限に尊重したカリキュラムとする。

【資料２】国際学部国際学科の教育課程のチャート図

国際学部の教育課程の構成図

<table>
<tr><th>▼大区分</th><th>▼中区分</th><th>▼領域</th><th colspan="6">▼詳細区分</th></tr>
<tr><td rowspan="13">専門科目</td><td colspan="7">協働学習プロジェクト科目</td></tr>
<tr><td rowspan="4"></td><td>文化構想領域</td><td rowspan="3">プロジェクト科目</td><td rowspan="3">基幹科目</td><td colspan="2" rowspan="3">接続科目</td></tr>
<tr><td>国際共生領域</td></tr>
<tr><td>社会協創領域</td></tr>
<tr><td>実習・演習科目</td></tr>
<tr><td colspan="7">文化社会科目</td></tr>
<tr><td rowspan="8"></td><td colspan="6">地域文化科目</td></tr>
<tr><td colspan="6">一般学芸科目</td></tr>
<tr><td colspan="6">言語学芸科目</td></tr>
<tr><td colspan="6">エアライン・ホスピタリティ科目</td></tr>
<tr><td colspan="6">学芸員科目</td></tr>
<tr><td colspan="6">日本語教員科目</td></tr>
<tr><td colspan="6">英語基礎科目</td></tr>
<tr><td>地域言語科目</td><td>英語</td><td>諸言語</td><td>中国語</td><td>スペイン語</td><td>インドネシア語・マレー語</td></tr>
<tr><td colspan="7">ゼミ・卒業研究</td></tr>
</table>

教養科目	人文科学系
	社会科学系
	自然・科学技術系
	英語系
	外国語系
	日本語系
	数理・情報系
	キャリアデザイン系
	スポーツ系
	地域志向系
	共通基礎系
	教養特別系
	外国人留学生対象科目
	帰国学生対象科目
教職課程の設置により開設する授業科目	

2）各科目区分の編成

本学部の学びの流れは以下の通りである。1 年次に「世界を学ぶ」「日本を学ぶ」で学部の学びの基礎と方法を体得すると同時に、英語及び他の外国語（3 言語から 1 つを選択）の基礎を身につける。2 年次、3 年次では、半期ごとに「プロジェクト」を達成しつつ、「プロジェクト」と連動する「外国語で学ぶ科目」を履修し、実習科目を通しての国際体験（海外・国内問わず）を行う。4 年次は、自らの専攻における「卒業研究」の成果へとつなげる。

＜専門科目＞

●協働学習プロジェクト科目

「協働学習プロジェクト科目」は、教員と学生が協働しプロジェクトを推進することで学びを深めることを目的とし、「文化構想領域」「国際共生領域」「社会協創領域」の 3 領域から構成する。それぞれの領域に、講義と演習を交互に行う「プロジェクト科目」、領域に必要な知識を身につける「基幹科目」、発展的・応用的な位置づけの「接続科目」の 3 区分の科目を置く。「文化構想領域」科目は 2 年次前期、「国際共生領域」科目は 2 年次後期、「社会協創領域」科目は 3 年次前期の配当年次とし、年次進行による段階的なカリキュラム構成とする。

3 領域それぞれにおいて、「プロジェクト科目」の中から 1 科目（2 単位）、対応する「基幹科目」1 科目（2 単位）、「接続科目」2 科目（4 単位）の合計 8 単位×3 領域＝24 単位の修得が必要である。他に「実習・演習科目」の中から 1 科目（2 単位）以上を修得するものとする。

それぞれの領域に配置する科目は以下の通りである。

（文化構想領域）

「プロジェクト科目」として、「表象と感性プロジェクト」「歴史学プロジェクト」「地理学プロジェクト」「比較文化プロジェクト」「人間存在論プロジェクト」「都市と周縁プロジェクト」「国際社会と日本語プロジェクト」を配置する。「基幹科目」として、「表象文化論」「地域と歴史」「環境と社会」「思想と文化」「テクノロジーと人間」「異文化の理解」「多文化社会と日本語」を配置する。「接続科目」として、「英語圏異文化交流論」「英語圏比較文化論」「中国語と生活文化」「中国語圏の言語文化」「スペインの言語と文化」「ラテンアメリカの言語と文化」「インドネシア語と生活文化」「インドネシア語と現代文化」を配置する。「接続科目」では、当該言語も使用しながら授業を行う。

（国際共生領域）

「プロジェクト科目」として、「地域研究プロジェクト（英語と諸地域）」「地域研究プロジェクト（東アジア世界）」「地域研究プロジェクト（スペイン語と諸地域）」「地域研究プロジェクト（東南アジア世界）」「海外特別プロジェクトⅠ」を配置する。「基幹科目」として、「グローバルスタディーズ（英語と諸地域）」「グローバルスタディーズ（東アジア世界）」「グローバルスタディーズ（スペイン語と諸地域）」「グローバルスタディーズ（東南アジア世界）」を配置する。「接続科目」として、「英語で考える環境問題」「英語で考える社会問題」「中国語を通して見る世界」「中国語圏の地域と共生」「スペインから世界を見る」「ラテンアメリカから世界を見る」「インドネシア語で世界を知る」「マレー語圏の地域を知る」を配置する。「接続科目」では、当該言語で授業を行う。

（社会協創領域）

「プロジェクト科目」として、「言語コミュニケーションプロジェクト」「メディアと現代社会プロジェクト」「マイノリティ研究プロジェクト」「地域研究・国際政治プロジェクト」「地域とビジネスプロジェクト」「国際貢献・ボランティアプロジェクト」「海外特別プロジェクトⅡ」を配置する。「基幹科目」として、「ことばと社会」「メディア文化論」「ジェンダーとマイノリティ」「比較政治学」「国際ビジネス論」「国際貢献論」を配置する。「接続科目」として、「Studies in Media and Communication」「Studies in Hospitality and Tourism」「中国語で読み解く地域社会」「中国語圏から社会を考える」「スペイン語を通して学ぶヨーロッパ社会」「スペイン語を通して学ぶラテンアメリカ社会」「インドネシア語で考える現代社会」「マレー語で考える国際社会」を配置する。「接続科目」では、当該言語で授業を行う。

●文化社会科目

「文化社会科目」は、「地域文化科目」「一般学芸科目」「言語学芸科目」「エアライン・ホスピタリティ科目」「学芸員科目」「日本語教員科目」「英語基礎科目」「地域言語科目」の８科目区分で構成し、その中でも「地域言語科目」は、「英語」「諸言語」「中国語」「スペイン語」「インドネシア語・マレー語」に区分する。

「地域文化科目」「一般学芸科目」「言語学芸科目」の中から必修科目を含む 13 科目（26 単位）以上、「英語基礎科目」から必修科目を含む 3 単位以上、「地域言語科目」から必修科目及び選択必修科目を含む 11 単位以上を修得する。選択必修科目は、「中国語」「スペイン語」「インドネシア語・マレー語」のうち、いずれかの言語から 3 単位以上を修得する。「English Language Honors Track」は「地域文化科目」「一般学芸科目」「言語学芸科目」の中から 10 科目（20 単位）以上、「英語基礎科目」から 9 科目（9 単位）以上、「地域言語科目」のうち「英語」から 7 単位以上を修得する。

「地域文化科目」には、「世界を学ぶ」「日本を学ぶ」「エリアスタディーズ　北アメリカ」「エリアスタディーズ　ラテンアメリカ」「エリアスタディーズ　東アジア」「エリアスタディーズ　西アジア・南アジア」「エリアスタディーズ　東南アジア」「エリアスタディーズ　アフリカ」「エリアスタディーズ　ヨーロッパ」「エリアスタディーズ　オセアニア」を配置する。このうち「世界を学ぶ」（2 単位）、「日本を学ぶ」（2 単位）を必修科目とする。

「一般学芸科目」には、「共同体論」「多文化共生論」「風土と地理」「国際関係論」「国際社会と経済」「メディアリテラシー論」「現代社会論」「地域と観光」「生物と環境」「ナショナリズム論」「視覚文化論」「Studies in Popular Culture」「Studies in Language and Society」を配置する。全て選択科目とする。

「言語学芸科目」には、「音声学」「英語学概論」「言語学」「日本語史概説」「英語意味論・語用論」「日本語音韻論」「英語構造論」「日本語語彙論」「日本語文法論」「日本の文学」「中国の文学」「英語圏の文学」を配置する。全て選択科目とする。

「エアライン・ホスピタリティ科目」には、「ホテルビジネス論」「ホスピタリティ基礎論」「ホスピタリティスキル論」「エアラインサービス論」「エアラインビジネス論」を配置する。全て選択科目とし、主にエアライン・ホテル等の業界を志望する学生のための科目として設定する。

「学芸員科目」には、「ミュージアムへの招待」「ミュージアムコレクション論」「博物館資料保存論」「ディスプレイ論」「生涯学習論」「ミュージアムマネジメント論」「博物館情報・メディア論」「博物館教育論」「博物館実習」を配置する。全て選択科目とし、主に学芸員資格取得を目指す学生のための科目として設定する。

「日本語教員科目」には、「日本語教授法Ⅰ」「日本語教授法Ⅱ」「日本語教授法Ⅲ」「日本語教育実習演習」を配置する。全て選択科目とし、主に日本語教員資格取得を目指す学生のための科目として設定する。

「英語基礎科目」には、「Speaking & Writing a」「Reading a」「TOEIC a」「Communicative English Grammar」「Speaking & Writing b」「Reading b」「TOEIC b」「Drama」「Japanese Society and Culture」「Academic Reading & Listening」「Academic Writing Workshop」「Debate」「Presentation」を配置する。このうち「Reading a」（1 単位）、「Reading b」（1 単位）、「Japanese Society and Culture」（1 単位）を必修科目とする。

「地域言語科目」には、「英語」「諸言語」「中国語」「スペイン語」「インドネシア語・マレー語」の各区分に科目を配置する。

「英語」には、「Topic Studies Ⅰa」「Topic Studies Ⅰb」「Discussion a」「Topic Studies

Ⅱa」「Discussion b」「Topic Studies Ⅱb」「Advanced Academic Writing Workshop a」「Lecture a」「Film Making」「Business English a」「Topic Studies Ⅲa」「Advanced Academic Writing Workshop b」「Lecture b」「Business English b」「Topic Studies Ⅲb」「Comprehensive Studies a」「Comprehensive Studies b」を配置する。全て選択科目とする。

「諸言語」には、「諸言語輪講」（1 単位）を必修科目として配置する。

「中国語」には、「中国語で読み解くⅠ」「中国語で表現するⅠ」「中国語で会話するⅠ」「中国語で読み解くⅡ」「中国語で表現するⅡ」「中国語で会話するⅡ」「中国語で読み解くⅢ」「中国語で表現するⅢ」「中国語で会話するⅢ」「中国語プレゼンテーション」を配置する。

「スペイン語」には、「スペイン語文法Ⅰ」「スペイン語表現」「スペイン語会話Ⅰ」「スペイン語文法Ⅱ」「スペイン語読解」「スペイン語会話Ⅱ」「スペイン語圏社会講読（南欧）」「スペイン語圏社会講読（ラテンアメリカ）」「スペイン語文章構成」「スペイン語プレゼンテーション」を配置する。

「インドネシア語・マレー語」には、「インドネシア語文法」「インドネシア語表現Ⅰ」「インドネシア語会話Ⅰ」「総合インドネシア語」「インドネシア語表現Ⅱ」「インドネシア語会話Ⅱ」「総合マレー語」「実践インドネシア語」「旅行インドネシア語」「インドネシア語・マレー語プレゼンテーション」を配置する。

「中国語」「スペイン語」「インドネシア語・マレー語」のうち、いずれかの言語から選択必修科目を含む 3 単位以上を修得する。

●ゼミ・卒業研究

4 年間を通じたゼミナール科目として、「初年次ゼミナール」「基礎ゼミナール」「基礎演習Ⅰ」「基礎演習Ⅱ」「文化演習Ⅰ」「文化演習Ⅱ」「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」の 8 科目（16 単位）を配置する。8 科目全てを必修科目とする。

＜教養科目＞

平成 14（2002）年 2 月 21 日の中央教育審議会の答申「新しい時代における教養教育の在り方について」において示されている通り、変化が大きい現代においてこそ、新しい時代の教養が必要とされている。新しい時代に求められる教養とは、個人が社会とかかわり、経験を積み、体系的な知識や知恵を獲得する過程で身につける、ものの見方、考え方、価値観の総体であり、変化の激しいこれからの新しい時代に求められる教養であり、地球規模の視野、歴史的な視点、多元的な視点で物事を考え、未知の事態や新しい状況に的確に対応していく力であり、こうした教養を獲得する過程やその結果として、品性や品格等の徳性も身につくと考えられる。

本学部においては、これらの答申や本大学における教養教育の蓄積を踏まえた上で、適切な教養科目を編成した。教養科目は、「人文科学系」「社会科学系」「自然・科学技術系」「英語系」「外国語系」「日本語系」「数理・情報系」「キャリアデザイン系」「スポーツ系」「地域

志向系」「共通基礎系」「教養特別系」「外国人留学生対象科目」「帰国学生対象科目」の 14 分野に 74 科目を配置する。教養科目の中には、日本語学習を中心とした、「外国人留学生対象科目」「帰国学生対象科目」も配置する。

教養科目では、「基礎英語Ⅰa」(1 単位)、「基礎英語Ⅱa」(1 単位)、「情報リテラシーⅠ」(1 単位)、「情報リテラシーⅡ」(1 単位)、「キャリアデザインⅠ」(1 単位)、「キャリアデザインⅡ」(1 単位) の 6 単位を必修科目とする。選択科目として、「人文科学系」「社会科学系」「自然・科学技術系」「地域志向系」「教養特別系」から 16 単位以上、「外国語系」「日本語系」「キャリアデザイン系」「スポーツ系」「共通基礎系」から 10 単位以上とし、教養科目からは合計 32 単位以上を修得する。

＜教職課程の設置により開設する授業科目＞

本学部では、教員免許（中学・高校教員Ⅰ種（英語））の取得が可能な教職課程を設置することから、教職課程科目として 22 科目を配置する。教職課程科目は、教員免許の取得を目指す学生が履修する科目のため、履修し修得した単位は卒業要件には含まれない。

５．教育方法、履修指導方法及び卒業要件

（１）授業の方法、学生数、配当年次の設定

１）授業の方法

国際学部の授業は、講義科目、演習科目、実習科目で構成する。本学部の科目の多くが講義科目で構成しているが、「協働学習プロジェクト科目」の「プロジェクト科目」においては、講義と演習を隔週で組み合わせた「ストリーム型学習」を行う。専門科目の演習科目は、一部の外国語科目及び 4 年間を通じたゼミナール科目等を設定する。実習科目は、「協働学習プロジェクト科目」の実習・演習科目として、「海外実習」「体験型特別実習」等 5 科目を配置する。

２）学生数の設定

本学部の入学定員は、社会的ニーズと最適な教育効果を考慮し、250 人を設定している。講義科目においては、選択科目が多いことから、履修人数により変化はするものの、40 人～100 人程度の学生数での授業を実施する。80 人以上の大教室、中教室の授業では、マイク、スピーカー、板書が後方座席でも確実に見えるディスプレイの設置等、授業の補助機器を確実に整備し、授業の質と効果を担保する。講義科目においても少人数グループに分け、アクティブ・ラーニングである対話的学びや課題解決型の学びを多く取り入れる。演習科目、ゼミナール科目では、複数教員の配置も含め、学生をいくつかのグループに分けた、15 人～40 人程度の少人数の授業を実施する。機器の整備と並行し、学生からの授業アンケート調査や自己点検の実施により、授業が適正に実施されているかを常に確認する。

３）配当年次の設定

本学部の教育課程の配当年次は以下の通り配置している。

教養科目は主に 1 年次に履修する。専門科目では、「文化社会科目」の内、「地域文化科目」「英語基礎科目」「地域言語科目」の基礎的な科目を 1 年次に履修する。2 年次前期に「協働学習プロジェクト科目」の「文化構想領域」、2 年次後期に「国際共生領域」、3 年次前期に「社会協創領域」の科目を履修する。「地域言語科目」を含む「文化社会科目」の多くの科目は、2 年次から 3 年次にかけて、段階的に履修する。ゼミナール科目は、1 年次の「初年次ゼミナール」「基礎ゼミナール」から 4 年次の「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」に至るまで、4 年間途切れることなく続いていく。

以上の配当年次の設定により、4 年間を通じ、教養科目と専門科目である「協働学習プロジェクト科目」「文化社会科目」「ゼミ・卒業研究」が体系的かつ段階的に学べる教育課程としている。

４）履修指導方法

本学部では、入学時及び各学年が始まる前に、履修指導のオリエンテーションを実施し、授業科目の履修方法等を説明するほか、個別相談を受けながら、専任教員全員が指導にあたり、学生の目標に沿った履修指導を行う。また、授業の目的や内容の進め方、成績評価基準等はシラバスに明記し、学生自らの学習歴や学習意欲に合致した授業科目を選択受講できるよう履修指導体制を整備する。

（２）卒業要件

本学部の卒業要件は以下の通り設定している。なお、本学部ではコースや専攻は特に設定せず、履修条件や卒業要件の範囲において、学生の自由度を最大限に尊重したカリキュラムとしている。

＜卒業要件＞

本大学に 4 年以上在学し、所定の授業科目について、専門科目 92 単位以上［必修科目 24 単位、選択必修科目 29 単位以上（注 1)、選択科目 29 単位以上（注 2)、選択必修科目・選択科目から 10 単位以上]、教養科目 32 単位以上［必修科目 6 単位、選択科目 26 単位以上（注 3)］の合計 124 単位以上を修得し、かつ入学時からの累積 GPA が 1.3 以上であること。

（注 1）［専門科目の選択必修科目］

1 協働学習プロジェクト科目 26 単位以上修得（文化構想領域、国際共生領域、社会協創領域の各領域において､選択したプロジェクト科目 1 科目と対応する基幹科目 1 科目、及び接続科目 2 科目の合計 4 科目 8 単位以上、実習演習科目 2 単位以上を修得)。

2 文化社会科目 3 単位以上修得（地域言語科目の中国語、スペイン語、インドネシア語・マレー語のうち、いずれかの言語から 3 単位を修得)。

（注 2）［専門科目の選択科目］

地域文化科目、一般学芸科目及び言語学芸科目から 22 単位以上、地域言語科目から 7 単位以上を修得。

ただし、「English Language Honors Track」は地域文化科目、一般学芸科目及び言語学芸科目から 16 単位以上、英語基礎科目から 6 単位以上、地域言語科目のうち英語科目から 7 単位以上を修得。

（注 3）［教養科目の選択科目］

人文科学系、社会科学系、自然・科学技術系、地域志向系、教養特別系から 16 単位以上、外国語系、日本語系、キャリアデザイン系、スポーツ系、共通基礎系から 10 単位以上を修得。

国際学部の卒業要件

<table>
<tr><th>▼大区分</th><th>▼中区分</th><th>▼領域</th><th>▼詳細区分</th><th>▼必要単位数</th><th></th><th></th></tr>
<tr><td rowspan="25">専門科目</td><td colspan="4">協働学習プロジェクト科目</td><td></td><td rowspan="25">92単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="4">文化構想領域</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>プロジェクト科目</td><td>2単位以上</td><td rowspan="3">8単位以上</td></tr>
<tr><td></td><td>基幹科目</td><td>2単位以上</td></tr>
<tr><td></td><td>接続科目</td><td>4単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="4">国際共生領域</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>プロジェクト科目</td><td>2単位以上</td><td rowspan="3">8単位以上</td></tr>
<tr><td></td><td>基幹科目</td><td>2単位以上</td></tr>
<tr><td></td><td>接続科目</td><td>4単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="4">社会協創領域</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>プロジェクト科目</td><td>2単位以上</td><td rowspan="3">8単位以上</td></tr>
<tr><td></td><td>基幹科目</td><td>2単位以上</td></tr>
<tr><td></td><td>接続科目</td><td>4単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="3">実習・演習科目</td><td>2単位以上</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="5">文化社会科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">地域文化科目</td><td>必修4単位</td><td rowspan="3">26単位以上
※「English Language Honors Track」は20単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">一般学芸科目</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">言語学芸科目</td></tr>
<tr><td colspan="4">エアライン・ホスピタリティ科目</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4">学芸員科目</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4">日本語教員科目</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">英語基礎科目</td><td>必修3単位</td><td>「English Language Honors Track」は9単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="4">地域言語科目</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>英語</td><td></td><td rowspan="5">11単位以上
※「English Language Honors Track」は英語科目から7単位以上</td></tr>
<tr><td></td><td>諸言語</td><td>必修1単位</td></tr>
<tr><td></td><td>中国語</td><td rowspan="3">いずれかの言語から3単位以上</td></tr>
<tr><td></td><td>スペイン語</td></tr>
<tr><td></td><td>インドネシア語・マレー語</td></tr>
<tr><td colspan="3">ゼミ・卒業研究</td><td>必修16単位</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="14">教養科目</td><td colspan="3">人文科学系</td><td></td><td rowspan="14">人文科学系、社会科学系、自然・科学技術系、地域志向系、教養特別系から16単位以上、外国語系、日本語系、キャリアデザイン系、スポーツ系、共通基礎系から16単位以上</td><td rowspan="14">32単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="3">社会科学系</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">自然・科学技術系</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">英語系</td><td>必修2単位</td></tr>
<tr><td colspan="3">外国語系</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">日本語系</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">数理・情報系</td><td>必修2単位</td></tr>
<tr><td colspan="3">キャリアデザイン系</td><td>必修2単位</td></tr>
<tr><td colspan="3">スポーツ系</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">地域志向系</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">共通基礎系</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">教養特別系</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">外国人留学生対象科目</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">帰国学生対象科目</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4">教職課程の設置により開設する授業科目</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="4">合　計</td><td colspan="3">124単位以上</td></tr>
</table>

＜履修科目の登録上限＞

履修科目の登録の上限（CAP 制）は、年間 48 単位とする。ただし、教職課程を履修するものについてはこの限りではない。

CAP 制の導入は、4 年間に渡る体系的かつ段階的な学修と、大学設置基準で求められる単位当たりの学修時間を確保するために導入するものであり、CAP 制により本学部の学生はより効果的な学修が可能になると考えている。

（３）履修モデル

本学部は、卒業後の就職先により、以下の通り合計 8 種類の履修モデルを設定している。

①新時代のメディアに関わる仕事を志向するモデル
②国際社会と地域をつなぐ仕事を志向するモデル
③国際貢献・ボランティアに関わる仕事を志向するモデル
④日本文化の発信と国際交流に関わる仕事を志向するモデル
⑤ヒトと AI の関係を取りもち整える人材系の仕事を志向するモデル
⑥地域社会における多文化の共生を目指す仕事を志向するモデル
⑦日本語教育現場での仕事を志向するモデル
⑧高度な言語コミュニケーション能力を要する仕事を志向するモデル

それぞれのモデルにおける履修科目の目安は、【資料３】の通り。

【資料３】履修モデル

６．多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

国際学部では以下の科目において、海外留学中の学生を対象にオンライン双方向型のメディア授業を実施する。

（１）「海外特別プロジェクトⅠ」

講義と演習を交互に組み合わせた「ストリーム型学習」により、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。本科目では、2 年次後期に海外留学中の学生を対象に、メディア授業を実施する。学生はまず留学先の地域を知るための方法を学びつつ、発表し相互に意見交換をすることで、その地域の特性についての理解を深め、今後日本とどのような関係を築いていけるのかを提案する。

ア）実習先の確保の状況

本学部では、設置の基礎となる学部である外国語学部からの連携体制として、英語圏（アメリカ合衆国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、イギリス、マレーシア）、中国語圏（中国、台湾）、スペイン語圏（スペイン、メキシコ）、インドネシア語・マレー語圏（インドネシア、マレーシア）の大学との提携を継続し、現地で語学を中心とした学習を行っている。受け入れ先大学の留学プログラムの受け入れ枠には特に上限はない。ただし、本学部が定める学業成績等に係る基準を満たした上で、さらに志望動機や学習内容等を問う面接選考に合格しなければ留学に参加することはできない。

イ）実習先との連携体制

本科目は Microsoft 社の Teams を利用して、本学部専任教員が直接学生を指導する。授業上における連携体制は特に設定しない。

ウ）成績評価体制及び単位認定方法

授業への取り組み姿勢（授業中の発言、コメントの提出等）（30%）、途中経過のレポート（30%）、最終レポート（40%）で評価し、60%で合格とする。

エ）その他特記事項

留学中においても留学先での学習に留まらず、本学部のプロジェクト科目に取り組むことを意図した科目である。Microsoft 社の Teams を利用して、オンライン双方向型で行う。授業内容は録画し、事情によりリアルタイムで授業に参加できなかった学生も、録画で視聴することを可能とする。学生同士が相互のレポートに対してコメントをする等、協働で課題に取り組めるように工夫する。

（２）「海外特別プロジェクトⅡ」

講義と演習を交互に組み合わせた「ストリーム型学習」により、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。本科目では、3 年次前期に海外留学中の学生を対象に、メディア授業を実施する。学生は、まず留学先の地域を知るための方法を学ぶ。その上で地域で調査した内容を発表し相互に意見交換をすることで、その地域が抱える社会的課題についての理解を深め、日本社会とも比較しながら、課題解決の方法を模索し提案する。

ア）実習先の確保の状況

「海外特別プロジェクトⅡ」の実習先は、先述「海外特別プロジェクトⅠ」と同じ。留学先の大学所蔵の図書を活用するほか、同大学の学生へのインタビュー等を行う。

イ）実習先との連携体制

本科目は Microsoft 社の Teams を利用して、本学部専任教員が直接学生を指導する。授業上における連携体制は特に設定しない。

ウ）成績評価体制及び単位認定方法

授業への取り組み姿勢（授業中の発言、コメントの提出等）（30%）、途中経過のレポート（30%）、最終レポート（40%）で評価し、60%で合格とする。

エ）その他特記事項

留学中においても留学先での学習に留まらず、本学部のプロジェクト科目に取り組むことを意図した科目である。Microsoft 社の Teams を利用して、オンライン双方向型で行う。授業内容は録画し、事情によりリアルタイムで授業に参加できなかった学生も、録画で視聴することを可能とする。学生同士が相互のレポートに対してコメントをする等、協働で課題に取り組めるように工夫する。

７．編入学定員を設定する場合の具体的計画

国際学部では、学則及び編入学規定に準拠し、編入学を受け入れる。3 年次編入学定員として 5 人を設定する。編入学の出願資格は以下とし、選考を経て編入学を許可する。

イ　大学を卒業した者

ロ　大学における 2 年以上の課程を履修して退学した者

ハ　外国において、学校教育における 14 年の課程を修了した者

ニ　短期大学、高等専門学校、旧国立工業教員養成所または国立養護教諭養成所を卒業した者

ホ　学校教育法施行規則(昭和 22 年文部省令第 11 号)附則第 7 条に定める従前の規定による高等学校、専門学校または教員養成諸学校等の課程を修了し、または卒業した者

ヘ　専修学校の専門課程(修業年限が 2 年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る)を修了した者

ト　高等学校の専攻科の課程(修業年限が 2 年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る)を修了した者

（ア）既修得単位の認定方法

入学を許可された者が入学以前に他の大学または短期大学等において修得した単位は、学部長が教授会の議を経て、卒業の要件となる単位として認めることができる。卒業の要件となる単位として認めることができる単位数は、60 単位を限度とする。単位の認定方法については、それぞれ科目ごとに個別に認定する。出身大学等の講義要綱等の照会により、修学内容が本学部の開講科目と同等及び同水準であることを確認する。なお、個別認定であるため、既修得単位の読み替え表等は作成せず、相互のシラバス等を照らし合わせ判定する。

（イ）履修指導方法

編入学者に対して、履修ガイダンス及び個別の履修指導を、教務課及び担当教員により編入学時及び毎年度始めに実施する。【資料４】の通りの履修モデルを設定するが、認定科目及び認定単位数の状況により、編入学年次に配当される科目だけでなく、必要に応じて下位年次の科目の履修を求めることも想定している。編入学生の個々の状況を踏まえたきめ細かい個別の履修指導を行う。

【資料４】3 年次編入学後の履修モデル

（ウ）教育上の配慮等

編入学生が新しい大学の環境に慣れ親しみ、適切な履修計画を立てることができるよう早期の履修指導を行う体制を設ける。また、編入学生の理解度状況によっては、学生個々の学力や状況に応じた個別修学指導を行う等の配慮を行う。

８．企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

国際学部では、以下（１）～（６）及び（８）の科目において、国内外での学外実習を実施する。また、（７）の通り海外留学を実施する。

（１）「海外特別プロジェクトⅠ」

本科目では、講義と演習を交互に組み合わせた「ストリーム型学習」により、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。2 年次後期に海外留学中の学生（「（７）海外留学」を参照）を対象に、メディア授業を実施する。学生はまず留学先の地域を知るための方法を学びつつ、発表し相互に意見交換をすることで、その地域の特性についての理解を深め、今後日本とどのような関係を築いていけるのかを提案する。なお、実習先の確保の状況、実習先との連携体制、成績評価体制及び単位認定方法等は、前項「６．多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画」の「（１）「海外特別プロジェクトⅠ」」の通り。

（２）「海外特別プロジェクトⅡ」

本科目では、講義と演習を交互に組み合わせた「ストリーム型学習」により、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。3 年次前期に海外留学中の学生（「（７）海外留学」を参照）を対象に、メディア授業を実施する。学生はまず留学先の地域を知るための方法を学びつつ、発表し相互に意見交換をすることで、その地域が抱える社会的課題についての理解を深め、日本社会とも比較しながら、課題解決の方法を模索し提案する。なお、実習先の確保の状況、実習先との連携体制、成績評価体制及び単位認定方法等は、前項「６．多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画」の「（２）「海外特別プロジェクトⅡ」」の通り。

（３）「ホスピタリティ実習演習」

観光立国を目指す日本において、エアラインの役割はますます重要となってきている。本科目では、まず交通インフラの拠点である空港の役割を把握する。航空機を運航するための機能と多様な職種の役割、協力を理解し、さらにお客様満足「安全」「安心」「定時制」「快適性」「顧客満足」を得るための努力を理解する。その後、授業の一環として行う学外での空港実習により、授業で得た知識を実際の目で確認するとともに、将来の就業意識を高める。

ア）実習先の確保の状況

国内空港接客部門及びホテル接客部門を対象に実習を行う。実習先との実施可否を調整し、可能な場合は希望する学生への説明会、応募、選考を経て実習に参加させる。

イ）実習先との連携体制

毎年 5 月末を目途に受入先企業と実習の開催について調整する。実習に先立ち、事前学習（授業）を実施し、受入れ先企業の業務内容、実習注意点、参加姿勢を講義し実習効果を高めるとともに、受け入れ先企業の業務に支障が出ないよう留意する。インターンシップ保険等に加入させ、実習期間中の安全性確保とリスク軽減に努める。実習期間中は、指導教員が同行し実習先説明者と協力しつつ、参加学生の実務理解の向上に努めるが、これが不可能なホテル実習は事後、実習先より参加学生の状況を詳細に把握する。

ウ）成績評価体制及び単位認定方法

演習への参加姿勢・理解度（25%）、事前課題レポート内容（20%）、事後発表の内容・発表姿勢（25%）、実習先及び実習中の評価（30%）として評価し、60%以上で合格とする。

エ）その他特記事項

夏期休暇中に空港実習は 2 日ないし 3 日、ホテル実習は 2 週間の実習を集中して実施する。これに加え、事前学習（授業）と自主研究課題に取り組ませる。また実習参加後は各自実習を通じて学んだ自らの成果と課題を発表する機会を課し、自らの振り返りの機会を与えるとともにプレゼンテーション能力の向上につなげる。

＜ホスピタリティ実習演習のスケジュール＞

時期	内容
5 月末	実習の開催可否判断
6 月上旬	実習説明会の開催と参加希望者の把握
6 月中旬	実習参加学生の選考と発表
8 月中旬	事前学習（授業）と事前課題の付与
8 月下旬	実習参加
9 月上旬	事後学習（授業）［参加後の発表・プレゼンテーション］

（4）「海外インターンシップ」

本学部では、国際的な仕事で活躍できる人材の育成を目指している。本科目は、将来、語学力を生かして、主に旅行・観光業界のビジネスに携わることを目標としている。具体的には、海外企業の現場を視察したり、実際に就業体験をしたりすることによって、ビジネスの現場での言葉遣いやマナーを学ぶとともに、そこで働く人々の現状や意識を正しく認識することを目的としている。また、日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、それらを尊重できる態度を身につけるとともに、自分の考えを明確に表現し、コミュニケーション能力を向上させることも目的の一つである。

ア）実習先の確保の状況

本科目では、旅行会社（兼エージェント）との共同企画による独自のインターンシップを行う。グアム（アメリカ合衆国）の旅行会社とホテルが受け入れ先企業で、毎年 20 人程度の受け入れ枠を設け、参加学生が自ら希望する企業において職業体験が可能である。

イ）実習先との連携体制

インターンシップの実施に先立ち、活動の内容や安全性の確保対策等について、本学部と受け入れ先（旅行会社）との間で協議する。参加学生には、事前学習（授業）において安全に関する注意喚起を行うとともに、インターンシップ保険等に加入させ、実習期間中の安全性確保とリスク軽減に努める。実習期間中は、参加学生、担当教員、学部事務室、エージェント及びグローバル教育センターとの間で緊急連絡網を構築し、不測の事態に対応できる体制を確保する。

ウ）成績評価体制及び単位認定方法

事前・事後学習（授業）、実習の取り組み（70%）、レポート・提出物等の評価（30%）で評価し、60%以上で合格とする。

エ）その他特記事項

本科目は、春期休暇中に 8 日間程度の実習を集中して実施する。実習の前後に、事前学習（授業）と事後学習（授業）を組み込み、十分に実習成果が達成されるように工夫する。事前学習（授業）では、①インターンシップの目的理解、②特にホスピタリティビジネスに関する基礎知識、③効果的なコミュニケーション、④社会人のマナー等を学習する。事後学習（授業）では、体験報告書の作成と成果報告発表等を行う。インターンシップ先とのマッチングについては、基本的に学生の希望に基づいて決定するが、定員に対して希望者が超過する場合には、参加理由・目的や面談等を実施して選抜する。

＜海外インターンシップのスケジュール＞

時期	内容
10 月	参加希望学生への説明会を実施
11～12 月	出願、学生とインターンシップ先のマッチング
翌年 2 月	事前学習（授業）
3 月上旬	春期休暇中に現地実習
3 月下旬	事後学習（授業）、成果報告発表

（５）「海外実習」

本科目は、「世界の中の日本を理解し、国際的な立場で活躍する人材を育成する」という教育理念を実行に移す最も有効な手段の一つとして実施する。実習先大学において独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言語表現を学び、語学力に磨きをかけることを目的とする。日本と実習先の国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身につける。同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図ることができるコミュニケーション能力を育成する。

ア）実習先の確保の状況

本科目では、中国語圏、インドネシア語・マレー語圏、スペイン語圏の海外実習をそれぞれ行う。「（７）海外留学」と同じ提携大学を受け入れ先とし、特に受け入れ枠の上限はない。対象言語を半年以上学んだ学生であれば、その語圏の実習に参加することが可能である。

イ）実習先との連携体制

海外実習の実施に先立ち、活動の内容や安全性の確保対策等について、本学部と受け入れ先との間で協議する。参加学生には、事前学習（授業）において安全に関する注意喚起を行うとともに、海外旅行保険等に加入させ、実習期間中の安全性確保とリスク軽減に努める。実習期間中は、参加学生、担当教員、学部事務室及びグローバル教育センターとの間で緊急連絡網を構築し、不測の事態に対応できる体制を確保する。

ウ）成績評価体制及び単位認定方法

事前・事後学習（授業）、実習での現地講師による授業評価、全体の受講態度に基づき、担当教員が総合的に評価を行い、60%以上で合格とする。

エ）その他特記事項

本科目では、夏期休暇中に中国語圏とインドネシア語・マレー語圏の海外実習を 2～3 週間、春期休暇中にスペイン語圏の海外実習を約 4 週間、集中的に実施する。実習の前後に、事前学習と事後学習を組み込み、十分に実習成果が達成されるように工夫する。事前学習（授業）では、①海外実習の目的理解、②生活に密着した言語表現の修得（向上）、③効果的なプレゼンテーション、④海外生活における異文化理解等を学習する。授業での学びを通して、海外実習の心構え、スケジュールの確認、異文化コミュニケーションの手法、国際的なマナー等の最終確認を行う。事後学習（授業）では、体験報告書の作成と成果報告発表を行う。対象言語を半年以上学んだ学生であることを参加の要件とするため、特に定員を設定しない。

＜中国語圏、インドネシア語・マレー語圏の海外実習のスケジュール＞

時期	内容
5 月	参加希望学生への説明会を実施
5～6 月	出願及び手続き
6~7 月	事前学習（授業）
8 月	春期休暇中に現地実習
9 月	事後学習（授業）、成果報告発表

＜スペイン語圏の海外実習のスケジュール＞

時期	内容
10 月	参加希望学生への説明会を実施
10～11 月	出願及び手続き
12～1 月	事前学習（授業）
2 月	春期休暇中に現地実習
3 月	事後学習（授業）、成果報告発表

（６）「体験型特別実習」

本科目は、学生が主体性・自主性をもって活動計画を立て、実行し、報告を行うプロセスを通して、将来のキャリアについて体系的に学ぶことを目的とする。まず、担当教員の指導の下、学生自身が主体的に計画を立て、社会的活動（授業外の研究活動やインターンシップ、ボランティア活動等）に参加する。活動中は指導に基づいて日誌をつけて活動内容を記録するとともに、活動後に成果や反省点をプレゼンテーション形式で報告し、学生相互及び複数の教員からの審査を受ける。

ア）実習先の確保の状況

本科目では、実習計画の立案、実習先の選定等を全て学生自身が行う。実習の申し込みにあたっては、先方に直接コンタクトする場合と、本大学のグローバル教育センターや各種ボランティア団体、民間の留学派遣業者等を介する場合がある。

イ）実習先との連携体制

学生による自主的な活動がこの科目の趣旨であることから、活動内容や活動時間の証明も学生自身が実習先や派遣団体の窓口に請求する。

ウ）成績評価体制及び単位認定方法

学生が活動終了後に提出する日誌（活動期間の長さにより週報や月報の形式をとること

もある）（60%）と、レポート及び報告会でのプレゼンテーション（40%）により評価する。報告会は複数の教員が審査に当たり、活動内容や発表での表現力を基準に評価する。担当教員はこれらを総合して成績を評価し、60%で合格とする。

エ）その他特記事項

前期と後期それぞれ 1 回開催する事前学習（授業）への出席を本科目に単位申請するための条件とする。事前学習（授業）では、本科目の対象となる活動内容（学部の DP に適合しているかどうか等）、活動時間、申請の手順等とともに、リスクマネジメントの重要性についても多くの時間を割いて講義する。

（7）海外留学

本学部では、学部において指定した海外大学への留学を推奨する。留学先での修得単位は、1 年間の留学で最大 30 単位までを本学部での単位として読み替えることができるものとする。本学部が指定する大学での半年または 1 年間の留学の場合は、4 年間での卒業が可能である。

ア）実習先の確保の状況

本学部では、英語圏（アメリカ合衆国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、イギリス、マレーシア）、中国語圏（中国、台湾）、スペイン語圏（スペイン、メキシコ）、インドネシア語・マレー語圏（インドネシア、マレーシア）の大学と提携しており、現地で語学を中心とした学習を行う。受け入れ先大学の留学プログラムに特に受け入れ枠の上限はない。ただし、本学部が定める学業成績等に係る基準を満たした上で、さらに志望動機や学習内容等を問う面接選考に合格しなければ留学に参加することはできない。

イ）実習先との連携体制

海外留学の実施に先立ち、活動の内容や安全性の確保対策等について、本学部と受け入れ先との間で協議する。参加学生には、事前学習（授業）を義務づけ、安全に関する注意喚起を行うとともに、海外旅行保険等に加入させ、実習期間中の安全性確保とリスク軽減に努める。実習期間中は、参加学生、担当教員、学部事務室及びグローバル教育センターとの間で（英語圏の場合はエージェントも交えて）緊急連絡網を構築し、不測の事態に対応できる体制を確保する。

ウ）成績評価体制及び単位認定方法

留学先の大学が正式に発行する「成績証明書」に基づいて、本学部が定める単位認定基準（授業時間数を含む）に照らし合わせて客観的に評価を行う。

エ）その他特記事項

本科目は、1 セメスター（半年）または 2 セメスター（1 年）を基本とし、2 年次後期ま

たは 2 年次後期から 3 年次前期を標準的な留学期間として設定する。実習の前後に、事前学習（授業）と事後学習（授業）を組み込み、十分に実習成果が達成されるように工夫する。事前学習（授業）では、①海外留学の目的理解、②現地の授業及び生活において必要となる言語表現の修得（向上）、③異文化理解の重要性とその工夫、④海外生活における注意点や国際的なマナー等を学習する。事後学習（授業）では、留学体験に係る報告資料を作成し、それに基づく成果報告会を行う。本学部が定める学業成績等に係る基準を満たすことが条件となるが、特に定員を設定しない。

（８）「インターンシップ」（教養科目・キャリアデザイン系）

本科目は、実際の仕事現場の一員として業務を担当することで社会人の方々がどのような考え方で働いているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることを目的とする。事前学習として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得した上で、インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性を広げること、職業観の涵養に努めることを目標とする。

ア）実習先の確保の状況

本大学では、夏期休暇中に実施する一般の企業・組織・団体を受け入れ先とした全学的な協定型のインターンシップ制度において、毎年 100 社以上（平成 30（2018）年度実績で 130 社程度）の受け入れ企業がある。その提携先企業等及び学生が自ら応募した企業等において、学生はインターンシップが可能である。

イ）実習先との連携体制

インターンシップの実施に先立ち、活動の内容や安全性の確保対策等について、本大学と受け入れ先で協議する。参加学生には、事前学習において安全に関する注意を喚起するとともに、インターンシップ保険等に加入させ、実習期間中の安全性確保とリスク軽減に努める。実習期間中は、参加学生と担当教員間で緊急連絡網を作成し、不測の事態に対応できる体制を確保する。

ウ）成績評価体制及び単位認定方法

事前学習（レポート等の提出物）（30%）、インターンシップの取り組み姿勢（40%）、事後学習（レポート等の提出物、ルーブリックによる発表態度）（30%）で評価し、60%で合格とする。

エ）その他特記事項

本科目は、夏期休暇中に 2 週間程度の実習を集中的に実施する。実習の前後に、事前学習と事後学習を組み込み、十分に実習成果が達成されるように工夫していく。事前学習では、①インターンシップの目的理解、②実習参加企業を含め、企業組織・ビジネスの理解、③効

果的なプレゼンテーション、④社会人のマナー等を学習する。直前学習での学びを通して、インターンシップの心構え、スケジュールの確認、報告書の書き方、マナー、身だしなみ等の最終確認を行う。事後学習では、体験報告書の作成、成果報告会に向けたプレゼンテーション指導、成果報告会等を行う。インターンシップ先とのマッチングについては、基本的に学生の希望に基づいて決定するが、定員に対して希望者が超過する場合には、参加理由・目的や面談等を実施して選抜する。

＜インターンシップのスケジュール＞

時期	内容
4 月	参加希望学生への説明会を実施
5～6 月	学生とインターンシップ先のマッチング
7 月	事前学習
8～9 月	夏期休暇中に現地実習
10 月	事後学習、成果報告会

【資料５】主な実習予定先一覧
【資料６】海外大学との協定書

９．取得可能な資格

国際学部において、本大学の学則に規定する科目を履修し、その単位を修得することで取得可能な資格等は以下を予定している。なお、下記の教職免許等については、本学部の開設に合わせて当該免許に必要な申請を行う予定である。

（１）中学・高校教員１種（英語）

本免許は国家資格であり、本学部において必要な単位を修得することで資格取得が可能である。本学部の卒業要件 124 単位に含まれる科目のほかに、教職関連科目 33 単位（高校免許）、37 単位（中学免許）の履修が必要である。

（２）学芸員

本資格は国家資格であり、本学部において必要な単位を修得することで資格取得が可能である。本学部の選択科目である学芸員科目 19 単位の他に選択科目の履修が必要である。

（３）日本語教員養成課程

本課程は国家資格ではないが、日本語教育機関の告示基準（法務省入国管理局平成 28 年 7 月 22 日策定）第 1 条第 1 項 13 号ロで求められた教育課程で、文化審議会国語分科会の「日本語教員人材の養成・研修の在り方について（報告）改訂版」（平成 31 年 3 月）に従って科目を定めている。本学部の選択科目である日本語教員科目 9 単位の他に選択科目の履修が必要である。

１０．入学者選抜の概要

（１）国際学部の受け入れる学生像（アドミッション・ポリシー）

国際学部では、「グローバル化・ボーダーレス化が進む世界における様々な課題について解決策を見出し、果敢に行動できる人材、世界の国や地域の歴史・地理・社会・文化等の基礎知識を基に、豊かな教養と広い視野を身につけ、多様な価値観を客観的に理解して判断・発信できるグローバルリテラシーを修得した、国際社会で活躍できる知的専門職業人を養成する」ことを目的とするため、次に示す学生の入学を求める。

本大学のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲等を備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求める。

国際学部のアドミッション・ポリシー

●知識・理解	［AP1］ 国際学部で学ぶ諸科目の前提となる、「英語」、「国語」、「地理歴史」、「公民」等、高等学校の教育課程を幅広く習得し、基礎的素養を有している。
●思考・判断	［AP2］ 論理的な文章を読解し、その内容を把握して、自分の考えを適切に表現するための論理的な思考力を身につけている。
●関心・意欲・態度	［AP3］ 世界の情勢や社会のニュースに関心があり、これらに対する探究心を持っている。 ［AP4］ 他人の考えを尊重し、価値観や文化の多様性を受け入れることができる。 ［AP5］ 課外活動やボランティア活動等、他者との協働に主体的に取り組むことができる。
●技能・表現	［AP6］ 聞く・話す・読む・書くという基礎的なコミュニケーション能力を身につけている。

（２）入学者選抜の実施計画

本学部の入学者選抜は「大学入学者選抜実施要項」に基づき、大学教育を受けるに相応しい能力・適性等を多面的に判定し、公正かつ妥当な方法で次の趣旨に沿って実施する。

入学者選抜の実施にあたっては、本学部のアドミッション・ポリシーに基づき学力試験、適性検査をはじめ、大学入学共通テスト、小論文、面接、外国語（英語）の資格検定試験の結果等を入試ごとに組み合わせ実施する。

入学者選抜の多様化を図るため、次の選抜を取り入れ、本学部で学ぶに相応しい学生を選抜できるよう計画する。また、高等学校の教育の進度に混乱が生じないよう実施時期・内容（出題範囲を含む）等について配慮し、合格者の決定にあたっては、学科ごと、選抜方式ごと

に出身学校調査書、学校長推薦書、志望理由書、学修計画書の評価も組み合わせて多面的な合否判定を行う。

①総合型選抜（AO 入試）
②学校推薦型選抜
（指定校推薦、内部推薦、高大連携協定校推薦、指定特別強化クラブ推薦）
③学校推薦型選抜（専門学科・総合学科推薦入試、課外活動優秀者推薦入試）
④学校推薦型選抜（公募制推薦入試）
⑤一般選抜
⑥大学入学共通テスト利用入試
⑦外国人留学生入試
⑧帰国生徒入試
⑨社会人入試

（３）入学者選抜の種類等

前述の趣旨に従い、次の通り入学者を選抜する。

①総合型選抜（AO 入試）

出身学校調査書、面接（志望理由書、学修計画書、卒業後の進路目標)、プレゼンテーション、実技等により、入学後も特段の成長が期待できるかどうかを判定する。出願資格は、次の a～d に該当し、出身学校長が推薦した者とする。

a. 本学の教育理念及び国際学部の 3 つのポリシーを十分に理解し、本学国際学部で学びたい強い意欲と情熱がある者
b. 外国語及び日本や外国の文化や社会に強い興味・関心がある者
c. 本学国際学部を専願する者
d. 高等学校又は中等教育学校を当該入学者選抜試験年度の前々年度末までに卒業した者又は当該入学者選抜試験年度の前年度末に卒業見込みの者

②学校推薦型選抜
（指定校推薦、内部推薦、高大連携協定校推薦、指定特別強化クラブ推薦）

出身学校調査書、学校長推薦書、面接（志望理由書、学修計画書、卒業後の進路目標）等により、入学後も特段の成長が期待できるかどうかを判定する。出願資格は、次の a～d のいずれかに加えて、e に該当し、出身学校長が推薦した者とする。

a. 本大学が指定する高等学校を当該入学者選抜試験年度の前年度末に卒業見込みの者（指定校推薦）
b. 常翔学園高校、常翔啓光学園高校を当該入学者選抜試験年度の前年度末に卒業見込みの者（内部推薦）
c. 高大連携協定校を当該入学者選抜試験年度の前年度末に卒業見込みの者（高大連携協定校推薦）

d. 本大学が指定するクラブ活動において、高度な能力もしくは資質を有する者で、当該入学者選抜試験年度の前年度末に卒業見込みの者（指定特別強化クラブ推薦）
e. 本大学国際学部を専願する者

③学校推薦型選抜（専門学科・総合学科推薦入試、課外活動優秀者推薦入試）

出身学校調査書、学校長推薦書、面接・口頭試問（志望理由書、学修計画書、卒業後の進路目標）、適性検査等により、本大学に入学するに相応しい基礎的能力を有するかを判定する。出願資格は、次の a～b のいずれかに加えて、学業成績・人物ともに良好で、出身学校長が推薦した者とする。

a. 高等学校又は中等教育学校の専門学科、総合学科を当該入学者選抜試験年度の前年度末に卒業見込みの者（専門学科・総合学科推薦）
b. 高等学校又は中等教育学校の課外活動において所定の活動実績をおさめ、当該入学者選抜試験年度の前年度末までに卒業した者又は当該入学者選抜試験年度の前年度末に卒業見込みの者（課外活動優秀者推薦）

④学校推薦型選抜（公募制推薦入試）

出身学校調査書、学校長推薦書、適性検査等により、本大学に入学するに相応しい基礎的能力を有するかを判定する。出願資格は、次の a～b のいずれかに該当し、学業成績・人物ともに良好で、出身学校長が推薦した者とする。

a. 高等学校又は中等教育学校を当該入学者選抜試験年度の前々年度末までに卒業した者又は当該入学者選抜試験年度の前年度末に卒業見込みの者
b. 在外教育施設（文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定したもの）、高等専門学校第 3 学年、韓国高等学校または朝鮮高級学校を当該入学者選抜試験年度の前々年度末までに修了した者又は当該入学者選抜試験年度の前年度末に修了見込みの者

⑤一般選抜

学力試験により合否を判定する。出題教科、科目については、本学部の特性を考慮して決定する。出願資格は、次の a～d のいずれかに該当する者とする。

a. 高等学校又は中等教育学校を卒業した者又は当該入学者選抜試験年度の前年度末までに卒業見込みの者
b. 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者又は当該入学者選抜試験年度の前年度末までに修了見込みの者
c. 学校教育法施行規則第 150 条第 1 号から第 6 号の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び当該入学者選抜試験年度の前年度末までにこれに該当する見込みの者、並びに韓国高等学校または朝鮮高級学校を修了した者及び当該入学者選抜試験年度の前年度末までにこれに該当する見込みの者

d. 上記以外の者で、学校教育法施行規則第 150 条第 7 号の規定により、本大学において、個別の入学資格審査により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び当該入学者選抜試験年度の前年度末までにこれに該当する見込みの者で 18 歳に達する者

⑥大学入学共通テスト利用入試

大学入学共通テストの得点を本大学の配点に換算し合否を判定する。利用教科、科目については、本学部の特性を考慮して決定する。出願資格は、次の a～d のいずれかに該当する者とする。

a. 高等学校又は中等教育学校を卒業した者又は当該入学者選抜試験年度の前年度末までに卒業見込みの者
b. 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者又は当該入学者選抜試験年度の前年度末までに修了見込みの者
c. 学校教育法施行規則第 150 条第 1 号から第 6 号の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び当該入学者選抜試験年度の前年度末までにこれに該当する見込みの者、並びに韓国高等学校または朝鮮高級学校を修了した者及び当該入学者選抜試験年度の前年度末までにこれに該当する見込みの者
d. 上記以外の者で、学校教育法施行規則第 150 条第 7 号の規定により、本大学において、個別の入学資格審査により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び当該入学者選抜試験年度の前年度末までにこれに該当する見込みの者で 18 歳に達する者

⑦外国人留学生入試

学力試験、面接（志望理由書、学修計画書、卒業後の進路目標）等により、本大学に入学するに相応しい基礎的能力を有するかを判定する。出願資格は、次の a～c に該当する者とする。

a. 外国籍を有する者で、当該入学者選抜試験年度の前年度末までに満 18 歳に達する者
b. 外国において、学校教育における 12 年以上の課程を修了した者、またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者（当該入学者選抜試験年度の前年度末修了見込みの者を含む）
c. 入学後の在留資格が原則として「留学」である者

（注意）1.出願後、出願資格に該当しないことが判明した場合は出願または合格を取消すことがある。
2.大学での講義は日本語で行われるため、受講に差し支えない程度の日本語能力を有することが必要
3.志願者本人に連絡がとれない場合等のために、本学からの連絡事項を確

実に伝達できる代理連絡人が必要。代理連絡人は日本国内（京阪神が望ましい）に在住し、独立した生計を営む成年者とする。

⑧帰国生徒入試

学力試験、面接（志望理由書、学修計画書、卒業後の進路目標）等により、本大学に入学するに相応しい基礎的能力を有するかを判定する。出願資格は、次の a～e のいずれかに該当する者とする。

a. 外国において、高等学校に原則として 2 年以上継続して在学し、当該入学者選抜試験年度の前年度末までに通常の課程による 12 年以上の学校教育を修了見込みの者または修了してのち 2 年以内の者。
   ただし、日本の高等学校の在学期間が原則として 1 年半以内の者
b. 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局より国際バカロレア資格を取得した者
c. ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者
d. フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者
e. 上記 a～d に準ずると本大学において認めた者

（注意）1.高等学校の教育課程に相当する課程を有する在外教育施設は、出願を認める。
2.本入試は、保護者の海外在留に伴う「帰国生徒」に限らず、単身留学者にも適用する。

⑨社会人入試

学力試験、面接（志望理由書、学修計画書）等により、本大学に入学するに相応しい基礎的能力を有するかを判定する。出願資格は、当該入学者選抜試験年度初めにおいて、次の a～d のいずれかに該当し、社会人としての経験を有する者とする。ただし、職業経験（正社員、アルバイト、家事等）は問わない。

a. 高等学校または中等教育学校を卒業し、4 年以上経過した者
b. 通常の課程による 12 年の学校教育を修了し、4 年以上経過した者
c. 学校教育法施行規則第 150 条第 1 号から 6 号の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められ、4 年以上経過した者
d. 学校教育法施行規則第 150 条第 7 号の規定により、本学において、個別の入学資格審査により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者

（４）入学者選抜の方法等

本学部における、前述「入試種別」ごとの「募集人数」「試験科目」は次表の通り設定する。

＜国際学部の選抜方法別の実施時期、試験科目等一覧＞

入試種別	募集人数（予定）	試験科目（利用教科）
①総合型選抜（AO 入試）	15 人	プレゼンテーション、面接
②学校推薦型選抜（指定校推薦、内部推薦、高大連携協定校推薦、指定特別強化クラブ推薦）	27 人	口頭試問
③学校推薦型選抜（専門学科・総合学科推薦入試、課外活動優秀者推薦入試）	8 人	小論文、面接（専門学科・総合学科推薦）、口頭試問
④学校推薦型選抜（公募制推薦入試）	71 人	英語、国語
⑤一般選抜	112 人	英語、国語、数学、地理歴史・公民
⑥大学入学共通テスト利用入試	17 人	外国語、国語、地理歴史・公民、数学、理科
⑦外国人留学生入試	若干名	日本語、英語、面接
⑧帰国生徒入試	若干名	日本語、英語、小論文、面接
⑨社会人入試	若干名	小論文、面接
合 計	250 人	

（５）科目等履修生

科目等履修は、全ての学部・学科において実施しており、年 1 回、学生募集を行っている。各学期前に事前相談を受け付け、履修科目が確定した段階で出願をさせ、受け入れ学部の教授会で審査を行い入学となる。また、受け入れ人数については特に定めていないが、教育上、支障のない範囲で受講を認めることとしている。出願資格は、次の各項に該当する者とする。

a. 高等学校を卒業した者又はそれと同等以上の学歴を有する者

【外国人留学生の場合】

b. 外国人留学生の場合は外国籍を有し、外国における学校教育において 12 年以上の課程を修了した者又はそれと同等以上の学歴を有する者

c. 講義は日本語で行うので、十分な日本語能力（特に聴き取る能力）を有する者

１１．教員組織の編制の考え方及び特色

（１）学部における教員組織の編制の考え方及び特色

１）教員組織編制の基本方針

国際学部では、「グローバル化・ボーダーレス化が進む世界における様々な課題について解決策を見出し、果敢に行動できる人材、世界の国や地域の歴史・地理・社会・文化等の基礎知識を基に、豊かな教養と広い視野を身につけ、多様な価値観を客観的に理解して判断・発信できるグローバルリテラシーを修得した、国際社会で活躍できる知的専門職業人を養成する」という目的を達成するため、それを可能とする豊富な教育研究業績を持った教員を中心とした教員組織を構築した。

本学部に国際学科（入学定員 250 人、収容定員 1,010 人）を置き、大学設置基準上の必要教員数（14 人）を上回る 37 人の専任教員（うち教授は 14 人）を配置する。職位別には、教授 14 人、准教授 10 人、講師 13 人で構成する。専任教員 37 人のうち 22 人（59.5%）が博士学位を保有している。他に、兼担・兼任教員として 94 人を配置する。

２）年齢構成

専任教員 37 人について、学部開設時の年齢構成は、「30 歳以上 39 歳以下」が 5 人、「40 歳以上 49 歳以下」が 16 人、「50 歳以上 59 歳以下」が 9 人、「60 歳以上 69 歳以下」が 7 人となっており、40 代の教員を中心として、若手教員からベテラン教員までバランスの取れた年齢構成となっている。本学部では若手の研究者も積極的に配置し、研究面での活性化を図る。

（定年年齢）

本大学の定年は満 64 歳であり、「学校法人常翔学園 就業規則」（【資料７】）により規定している。「特任教員規定」（【資料９】）は、専任に準じて、教育・研究・大学運営の内、特に任じられた職務を行う場合には、「満 70 歳を超えない者を特任教員として採用することができる」と定めている。なお、人事計画上の必要性があれば、満 70 歳を超えても学長の申請に基づき、理事長が特に認めたときは採用することができる。本学部の教員組織も、これらの規定を踏まえ編制する。本学部において、完成年度の 3 月末に本大学の定年である満 64 歳を超える専任教員は 5 人であり、本大学の特任教員規定の適用等により対応を図る。

【資料７】学校法人常翔学園就業規則
【資料８】任用規定
【資料９】特任教員規定
【資料１０】摂南大学教員選考基準

３）研究分野と研究体制

本学部の中心的な研究分野は、人文科学系分野の言語学、言語教育学、文学、歴史学、地理学、哲学、文化人類学、社会学、宗教学等多岐にわたる。本学部では、学部内での共同研究も推進するとともに、総合大学の利点を生かした、他学部の研究者との連携による共同研究も積極的に推奨する。このため、教員には一人当たり 862 千円／開設年度の研究費を予算化する。これは国内研究旅費や海外出張旅費あるいは学会費補助等も含んだものであり、大学として教員の研究を経済面で支援する。また、本大学は科学研究費補助金等外部からの研究費を獲得することで、研究活動の活性化を図っている。科学研究費補助金への応募者の内、不採択者に対して、次年度も科学研究費補助金を申請すること等を条件に、申請奨励金を交付する制度も整備する等、研究活動を積極的に奨励し支援している。本大学は、教員の研究活動活性化を推進するため、全学共通の組織として、「研究支援・社会連携センター」を設置している。

１２．施設、設備等の整備計画

（ア）校地、運動場の整備計画

国際学部は、寝屋川校地に設置する。寝屋川校地は大阪府寝屋川市に立地し、京阪電鉄本線の寝屋川市駅よりバスで約 15 分の所要時間となっている。寝屋川校地の総面積は 135,018.48 ㎡で、校舎敷地が 88,261.15 ㎡、運動場用地が 46,757.33 ㎡であり、枚方校地と合わせた大学全体の校地面積は 316,137.99 ㎡であり、基準面積の 3.20 倍を有している。寝屋川校地には、学生が休息できる空地も十分に整備している。また、以下の運動場、体育館を整備している。運動場は、東グラウンド（35,718.36 ㎡）、総合体育館の中にスポーツ振興センター、アリーナ、柔道場、剣道場、トレーニングセンターを設けている。これらの運動場と体育館では、教育課程内外の学生の活動において、各種スポーツ活動を行うことが可能である。

（イ）校舎等施設の整備計画

本学部は、教育研究に必要な施設・設備を以下の内容で整備する。

１）施設の整備

本学部は、基礎となる学部である外国語学部の拠点としていた寝屋川校地の 7 号館（8 階建て、床面積 7,273.35 ㎡）を主に使用する。教室については、授業科目の配置状況や授業形態・履修者数等を踏まえた上で、本学部の定員（入学定員 250 人、収容定員 1,010 人）を無理なく収容できる教室を 7 号館及び共用する他の校舎において確保している。教室の使用実績は、【資料１１】の通りである。

また、900 台以上のコンピュータを備えた情報メディアセンター（情報処理室、CALL 教室を配置）を利用し、語学教育等で活用する。ラーニングコモンズは、学生の主体的な学びを支援する施設であり、学生が自習を行うとともに、プレゼンテーションやグループディスカッション等にも活用している。

教室以外の施設として、ラーニングセンター、グローバル教育センター、保健室、学生相談室、食堂、資格サポートセンター、学生談話室、コンビニエンスストア、総合サービスセンターを整備している。

【資料１１】摂南大学寝屋川校地の教室使用実績（令和 2 年度）

２）設備の整備

本学部は人文科学分野の教育研究を行うため、実験機器等の特殊な設備は特に整備する予定はないが、教育研究に必要な設備は、基礎となる学部である外国語学部から継承する設備を含めて十分に整備する。特にコロナ禍以降、オンライン授業は、大学における重要な教育インフラストラクチャーとなっているが、本学部では、海外留学中の本学部学生とも、オンラインでの授業やコミュニケーションを想定していることから、本学部及び大学全体に

おけるインターネットを利用したオンライン教育に関連する設備については、引き続き整備に努める。

（ウ）図書等の資料及び図書館の整備計画

①図書館の整備状況

本大学の図書館は、寝屋川校地の本館と、枚方校地の分館で構成している。各図書館は、ネットワークにより情報を共有し、学内外からの相互貸借の依頼・受付を可能としている。寝屋川校地と枚方校地を合わせた、本大学の図書館全体の総蔵書数は 540,118 冊（内国書 345,228 冊、外国書 194,890 冊）（令和 2（2020）年 11 月末現在）である。学術雑誌は 4,005 種（内国書 1,482 種、外国書 2,438 種、電子ジャーナル 85 種を含む）を所蔵している。

本学部が主に利用する寝屋川校地図書館本館（延床面積 6,622 ㎡、座席数 882 席）は、10 号館（地下 1 階、地上 2～3 階）に設置しており、蔵書数は 458,093 冊、学術雑誌は 3,084 種（令和 2（2020）年 11 月末現在）に上り、これらは館内にある蔵書検索用端末で検索することができる。また、インターネットを通じて電子ジャーナルやデータベースの利用ができるように整備している。保存書庫、貴重図書室、マルチメディアフロア、ラーニングコモンズ、グループ閲覧室、プチテアトルを備えている。

1 階はマルチメディアフロアとし、ラーニングコモンズ（うち 138 席）を備え、新着・テーマ企画展示コーナー、新書・文庫コーナー、情報検索コーナー、視聴覚コーナー、就職・資格・基礎教養等のコーナー等がある。2 階は普通図書フロアとし、専門書から一般教養にいたる図書を分野ごとに配架しているほか、入門書・シラバスコーナー、教員推薦図書コーナー等がある。3 階は学術雑誌・参考図書フロアとし、各分野の学術雑誌及び辞書や事典、年鑑、目録、統計、白書等の参考図書を配架しているほか、英語・中国語・スペイン語・インドネシア語を中心に児童書や絵本等外国語に親しみやすい図書を配架するリーディングラウンジや、研究発表や講演、視聴覚資料の視聴等の各種行事に利用できるプチテアトル（120 席）を隣接して設置している。

図書館の開館時間は、平日の月曜日から金曜日は 9 時から 19 時 30 分、土曜日は 9 時から 19 時である。定期試験期では、日曜日・祝日の休日開館を実施している。

図書館枚方分館（延床面積 1,608 ㎡、閲覧座席数 281 席）は、閲覧室及び普通図書・参考図書コーナーを備え、蔵書数は 82,025 冊、学術雑誌は 836 種（ともに令和 2（2020）年 11 月末現在）であり、本学部の学生も利用可能である。

その内、本学部に関連する国際・言語・語学・文化・社会・地域系の図書について、大学全体の現在の蔵書数は、図書 139,936 冊（内国書：104,479 冊、外国書：35,457 冊）、学術雑誌 864 種（内国雑誌 276 種、外国雑誌 588 種）、視聴覚資料 5,128 点であり、十分な質量の図書等を所蔵している。既存の図書と併せて、本学部の教育研究を行う上で十分な冊数・種類の整備を進めていく。

本学部で購読する学術雑誌、電子ジャーナルの主な一覧は【資料１２】の通りである。

データベースは、既に「理科年表プレミアム」「ジャパンナレッジ Lib」「日経テレコン 21」「聞蔵Ⅱビジュアル」「ブリタニカ・オンライン・ジャパン」「SciFinder」等 37 種を導入し

ている。また、リンクリゾルバにより、文献情報へのナビゲートも提供している。

【資料１２】国際学部 主な購読予定雑誌一覧

②他の大学図書館との協力体制

本法人は、本大学のほか、大阪工業大学、広島国際大学を設置している。本大学図書館（寝屋川校地本館・枚方校地分館）と、大阪工業大学図書館（大宮校地本館・枚方校地分館）、広島国際大学図書館（東広島校地本館・呉校地分館）は、学園内ネットワークを通じて、同一図書館内システムで情報を共有し、円滑に相互利用が可能となっている。

本大学図書館は、平成 4（1992）年 4 月から国立情報学研究所（参加当時は学術情報センター）の ILL システム（NACSIS-ILL）に参加し、全国の大学図書館、国立国会図書館、各研究機関等と相互利用を行っている。書誌情報作成についても、NACSIS-CAT に参加し、相互利用業務における図書所蔵館検索時のデータ作成に協力している。また、私立大学図書館協会に加盟しており、他大学図書館との情報交換等により、新たな情報を得て図書館運営に活かしている。

１３．管理運営

（１）学部の組織体系と管理運営体制

本大学は現在、理工学部、外国語学部、経営学部、薬学部、法学部、経済学部、看護学部、農学部の 8 学部を設置している。その運営を掌る会議として、全学に共通する重要事項を協議・審議する「摂南大学大学・大学院運営会議」、各学部の教育研究上に関する重要事項について審議・報告する「摂南大学学部教授会」を設けている。今般設置する国際学部においては、新たに「摂南大学国際学部教授会」を設置する。

本大学における各会議の協議事項、審議事項等は次の通りである。

１）大学・大学院運営会議

「摂南大学学則」第 6 条に基づき、大学の管理運営に関する重要事項を審議するため、全学組織として「摂南大学大学・大学院運営会議」を設置している。学長が会議を招集し議長となる。本会議は夏期休業期間中の 8 月を除き、原則、毎月開催している。

【組織（大学・大学院運営会議規定第 2 条)】

大学・大学院運営会議は、次の者をもって組織する。

イ 学長

ロ 副学長、学部長、教務部長、学生部長、事務局長、図書館長、情報メディアセンター長、入試部長及び就職部長

【審議事項（大学・大学院運営会議規定第 3 条)】

大学・大学院運営会議は、次の事項を審議する。

イ 学則及び重要な教学に係る規定に関すること

ロ 学生の入学ならびに卒業及び課程修了に係る基本方針に関すること

ハ 年間行事予定及び教育課程の編成に係る基本方針に関すること

ニ 教育研究上の重要な事項及び教育研究の振興に関すること

ホ 教員の留学に関すること

ヘ 名誉教授の称号授与等に関すること

ト その他学長が諮問した事項に関すること

チ その他管理運営上の重要な事項に関すること

【報告事項（大学・大学院運営会議規定第 4 条)】

大学・大学院運営会議には、大学及び大学院に係る次の事項を報告するものとする。

イ 理事会決定事項に関すること

ロ 学長が大学・大学院運営会議への報告を必要と認めた事項に関すること

２）教授会

「摂南大学学則」第７条に基づき、各学部に関する重要な事項を審議・報告する組織として、各学部に「摂南大学学部教授会」を設置している。本会議は、学部ごとに当該学部長が招集し議長となる。本会議は、各学部とも夏期休業期間中の８月を除き、原則、毎月開催している。

３）国際学部教授会

本学部の設置のあたり、本学部に関する重要な事項を審議・報告する組織として、「国際学部教授会」を設ける。

【組織（国際学部教授会規定第２条)】

教授会は、次の者をもって組織する。

イ 国際学部長（以下「学部長」という）

ロ 国際学部教授（専任に準じる職務を行う特任教授を含む）

【審議事項（国際学部教授会規定第３条)】

教授会は、国際学部の教育研究上の次の事項を審議する。

イ 学則及び重要な教学に係る規定に関すること

ロ 学生の入学、卒業及び学位の授与に関すること

ハ 単位の認定に関すること

ニ 学生の転学部に関すること

ホ 研究生、科目等履修生、特別聴講学生、外国人留学生及び帰国学生の入学に関すること

ヘ 授業時間割の編成及び授業計画、その他大学及び国際学部の教育方針に関すること

ト 教員の留学に関すること

チ 名誉教授の称号授与等に関すること

リ 学長または学部長が諮問した事項に関すること

ヌ その他国際学部の教育研究に関すること

【報告事項】

学部長は、教授会に組織規定第 72 条第１項に定める大学・大学院運営会議及び各委員会で審議された、国際学部に関する事項を報告するものとする。

４）各種委員会

「摂南大学学則」第８条に基づき、本大学に関する重要な事項を審議する組織として、次の委員会を置く。

イ 評価委員会

自己点検・評価及び第三者評価に必要な教育研究目標の設定、教育研究活動の改善、将

来計画の策定その他重要な事項を審議する。

ロ 教員選考・活動評価委員会

教員の採用及び昇任の資格審査、研修ならびに教員活動評価に関する事項を審議する。

ハ 入試委員会

学長の諮問に応じて各学部の入学者選抜についての企画調整、合否判定その他重要な事項を審議する。

ニ 教務委員会

学長の諮問に応じて教務に関する重要な事項の審議及び教務に関する各学部間の連絡調整を行う。

ホ FD 委員会

学長の諮問に応じて本大学の授業内容と授業方法の改善に関する事項を審議する。

ヘ 学生委員会

学長の諮問に応じて学生の厚生補導、表彰、懲戒その他重要な事項の審議及びそれらに関する各学部間の連絡調整を行う。

ト 図書館運営委員会

学長の諮問に応じて図書館の運営に関し必要な事項を審議する。

チ 就職委員会

学長の諮問に応じて就職に関する重要な事項の審議及び就職に関する各学部間の連絡調整を行う。

リ 情報メディアセンター運営委員会

学長の諮問に応じて情報メディアセンターの運営に関し必要な事項を審議する。

ヌ 人権侵害防止委員会

本大学における人権侵害の防止に関し必要な事項を審議する。

ル 個人情報保護委員会

本大学における個人情報の保護に関し必要な事項を審議する。

ヲ グローバル教育センター運営委員会

学長の諮問に応じてグローバル教育センターの運営に関し必要な事項を審議する。

（２）学部における教育・管理運営体制

１）学部長及び学科長の選出並びに掌理内容

学部長は、学長を補佐し、その命を受けて本大学の教学運営業務を遂行し、学部内の業務を掌理するとともに、学部に所属する教員を指揮監督する。学部長の任命は、学部の教授の内から学長の意見を聴き、理事長が行う。学科長は学部長の命を受けて業務にあたり、当該学科の教育研究及び管理運営に関する業務を処理する。学科長の任命は、教授の内から学部長の意見を聴き、学長が申請し理事長が行う。

本学部の設置にあたり、既設学部と同様の体制で学部における教育・管理運営体制を整備する。

２）管理運営体制の整備

今般設置する本学部は、既設学部と同様、学部長、学科長の管理運営の下に、本学部の教育研究の目的や内容に対応した事業展開とその管理運営体制を整備していく。教学面は「摂南大学学則」等に、教員人事等に係る運営面は「摂南大学教員選考基準」（【資料１０】）等を準拠しながら運営する。予算については、収容定員に応じた必要経費を当該学部に計上し、本学部独自の教育研究における事業展開に対応した計画を策定・執行できるよう配慮する。また、学部長裁量予算を設け、教育研究の活性化を図っていく。

【資料１０】摂南大学教員選考基準

３）事務体制

今般設置する本学部は、寝屋川校地において教育研究を行うことから、事務については、国際学部事務室が学長室、教務部、学生部、入試部、就職部、図書館、情報メディアセンター、グローバル教育センター、研究支援・社会連携センター等と連携して対応する。本学部事務室の担当者は、学部長の指示の下、学部内における管理運営の庶務（予算執行・管理を含む）及び教務事務のほか、学部内における会議や関係部署との連絡調整等を行う。

１４．自己点検・評価

（１）実施方法

本大学では、教育研究の高度化・活性化と質的向上を図るための組織として、「摂南大学評価委員会」（以下、評価委員会）を設置している。教育研究活動等の状況について、自ら点検及び評価を実施するとともに、教育研究の質向上に資する全学的な自己点検・評価に努めている。平成 21（2009）年度及び平成 28（2016）年度には、公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審し、同財団が定める大学評価基準を満たしていると認定された。

平成 30（2018）年度は、自己点検・評価内容の客観性・信頼性を高めるため、9 月に『学生代表者からの意見・評価会』を、10 月に『外部評価員からの意見・評価会』及び 3 月に『外部評価員によるアンケート調査』を実施し、多面的視点から大学評価を受けている。

令和 2（2020）年度から、内部質保証における PDCA サイクルの実効性の充実化を図るため、評価委員会の実質的な活動組織として、「自己点検・評価活動ワーキングチーム」を編成している。本ワーキングチームを教学部門と経営部門に分け、それぞれの部門の観点から自己点検・評価の実施や大学機関別認証評価受審に向けた検討等を行うことで、本大学の内部質保証体制の改善・再構築を図っている。

さらに、将来にわたって継続的に「成長しつづける大学・選ばれる大学」の基盤となる『50 周年（2025 年）に向けた教育改革・大学改革』を進めている。それを成功させるためには、多くの教職員・学生との意見交換やそれを通した課題解決のためのアクションプランの策定と共有などが極めて重要であるとの考えから、「大学改革のための学長ワークショップ」を月 2 回程度開催している。現状課題に対するさまざまなテーマを教職員をはじめ学生、外部関係者等でディスカッション等を図る機会を通じて、自己点検・評価を恒常的に実施している。

上述のような様々な活動を通して、本大学の内部質保証の観点から自己点検・評価活動における体制の強化を図っている。

（２）実施体制

本大学の自己点検・評価は、高度な教育研究を目指した自己点検・評価を実施していくことを目的に、平成 20（2008）年 4 月から学長が指名した「リエゾンオフィサー」を中心に実施計画を策定している。対象となる各学部及びその他の部門が点検・検証を組織に行うとともに、実践的かつ効率的な実施が行える体制を図っている。

平成 16（2004）年 4 月からは、「摂南大学評価委員会」を学長の下に設置し、本大学の自己点検・評価及び認証評価機関による第三者評価に関する次の事項を審議している。

【審議事項】

イ 教育研究活動等の改善及び将来計画の策定に関すること

ロ 評価項目の策定に関すること
ハ 評価の実施に関すること
ニ 評価結果の活用に関すること
ホ 評価に関する報告書の作成及び公表に関すること
ヘ その他評価に関する事項

本委員会は、学長、副学長、学部長、教務部長、学生部長、事務局長、図書館長、情報メディアセンター長、入試部長及び就職部長で構成する。任期は学長、副学長を除き2年である。その他必要に応じて学長が任命した者を構成員に含めることができることから、第三者的視点からの意見を求められるよう外部評価員を指名し出席させる等、多面的かつ客観的な点検・評価の体制を整備している。

（３）結果の活用・公表

自己点検・評価の結果は、上述の評価委員会を通じて学内での共有を図っている。学内教職員で大学の現状を共有し、よりよい自己点検・評価の実現を目指すため、実施体制と方法、対象項目、結果の活用等について定期的に見直し、改善方策を打ち出すとともに実行へとつなげる体制を構築し、継続的な教育・研究、大学運営の改善を図っている。

また、今後も自己点検・評価結果を本大学ホームページ等に掲載することで、大学の現状を広く学外に公表し認識してもらうとともに、外部の意見も積極的に聴取する。

（４）評価項目

令和2（2020）年度は、評価項目として以下の項目を設定し、自己点検・評価を実施している。

①各学部実施の自己点検・評価に基づく3ポリシーの適切性
②ディプロマ・ポリシー（DP）を踏まえた学修成果評価のための学部別アセスメントプランの適切性
③全学アセスメントプラン策定
④本大学の自己点検・評価体制
⑤本大学の教育・学修環境及びキャンパスの施設・設備

１５．情報の公表

（１）情報公表の理念

今日の大学に求められる役割は、人材の養成はもちろんのこと、教育研究活動の成果を広く社会に提供し、社会の発展に寄与することである。本大学においても、学術文化や科学技術の振興、産業や地域社会の発展、生涯学習の推進等を通じて社会に貢献していくことは、高等教育機関の重要な使命であると認識している。また、学校教育法には、「教育研究活動の状況を公表するものとする」と規定されている。この理念に基づき、本大学では、教育研究活動やその成果を積極的に公表していく。

（２）情報公表の具体的な手段

本大学における主な情報公表の方法は、本大学ホームページ上での公表を基本としているが、紙媒体の発行等、対象者に応じて情報を公表している。

１）ホームページの開設

学内外からアクセスが可能なホームページを開設しており、在学生の閲覧はもちろんのこと受験生、卒業生、保護者、企業等の採用担当者、その他一般市民向けにも対応したコンテンツを用意し、最新の情報をリアルタイムに提供している。なお、次の項目を掲載しているホームページのアドレス等は次の通りである。

ア 大学の教育研究上の目的に関すること

［掲載場所］

ホーム ＞ 大学紹介 ＞ 教育の理念・方針・方法

https://www.setsunan.ac.jp/aboutus/rinen.html

ホーム ＞ 大学紹介 ＞ 教育研究上の目的と 3 ポリシー

https://www.setsunan.ac.jp/aboutus/policy/

イ 教育研究上の基本組織に関すること

［掲載場所］

ホーム ＞ 学部・大学院

https://www.setsunan.ac.jp/gakubu-in/

ウ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

［掲載場所］

ホーム ＞ 大学紹介 ＞ 情報の公表 ＞ 所属別教員数

https://www.setsunan.ac.jp/aboutus/openinfo/kyoin.html

研究者総覧

http://gyoseki.setsunan.ac.jp/

エ 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する

こと

［掲載場所］

ホーム ＞ 大学紹介 >教育研究上の目的と 3 ポリシー

https://www.setsunan.ac.jp/aboutus/policy/

ホーム ＞ 大学紹介 ＞ 情報の公表

https://www.setsunan.ac.jp/aboutus/openinfo/

ホーム ＞ 大学紹介 ＞ 学則

https://www.setsunan.ac.jp/aboutus/gakusoku.html

ホーム ＞ 就職・キャリア ＞ 就職状況（学部・大学院）

https://www.setsunan.ac.jp/shushoku/support/joukyou.html

オ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

カ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

［掲載場所］

学部シラバス

https://portal.setsunan.ac.jp/CAMJWEB/slbsskgr.do

ホーム ＞ 学部・大学院 ＞ 教育システム ＞ 教養・基礎科目

https://www.setsunan.ac.jp/kenkyu/kyoiku/kyoyo.html

ホーム ＞ 学部・大学院 ＞ 理工学部 ＞ 生命科学科 ＞ カリキュラム

https://www.setsunan.ac.jp/gakubu-in/rikogaku/seimei/curriculum.html

ホーム ＞ 学部・大学院 ＞ 理工学部 ＞ 住環境デザイン学科 ＞ カリキュラム

https://www.setsunan.ac.jp/gakubu-in/rikogaku/jukankyo/curriculum.html

ホーム ＞ 学部・大学院 ＞ 理工学部 ＞ 建築学科 ＞ カリキュラム

https://www.setsunan.ac.jp/gakubu-in/rikogaku/kenchiku/curriculum.html

ホーム ＞ 学部・大学院 ＞ 理工学部 ＞ 機械工学科 ＞ カリキュラム

https://www.setsunan.ac.jp/gakubu-in/rikogaku/kikai/curriculum.html

ホーム ＞ 学部・大学院 ＞ 理工学部 ＞ 電気電子工学科 ＞ カリキュラム

https://www.setsunan.ac.jp/gakubu-in/rikogaku/denkidenshi/curriculum.html

ホーム ＞ 学部・大学院 ＞ 理工学部 ＞ 都市環境工学科 ＞ カリキュラム

https://www.setsunan.ac.jp/gakubu-in/rikogaku/toshikankyo/curriculum.html

ホーム ＞ 学部・大学院 ＞ 経営学部 ＞ 経営学科 ＞ カリキュラム

https://www.setsunan.ac.jp/gakubu-in/keiei/keiei/curriculum.html

ホーム ＞ 学部・大学院 ＞ 薬学部 ＞ カリキュラム

https://www.setsunan.ac.jp/gakubu-in/yakugaku/curriculum.html

ホーム ＞ 学部・大学院 ＞ 法学部 ＞ カリキュラム

https://www.setsunan.ac.jp/gakubu-in/hogaku/curriculum.html

ホーム ＞ 学部・大学院 ＞ 経済学部 ＞ カリキュラム

https://www.setsunan.ac.jp/gakubu-in/keizai/curriculum.html

ホーム ＞ 学部・大学院 ＞ 看護学部 ＞ カリキュラム

https://www.setsunan.ac.jp/gakubu-in/kango/curriculum.html

ホーム > 学部・大学院 > 農学部 > 農業生産学科 > カリキュラム

https://www.setsunan.ac.jp/gakubu-in/nogaku/seisan/curriculum.html

ホーム > 学部・大学院 > 農学部 > 応用生物科学科 > カリキュラム

https://www.setsunan.ac.jp/gakubu-in/nogaku/seibutsu/curriculum.html

ホーム > 学部・大学院 > 農学部 > 食品栄養学科 > カリキュラム

https://www.setsunan.ac.jp/gakubu-in/nogaku/eiyo/curriculum.html

ホーム > 学部・大学院 > 農学部 > 食農ビジネス学科 > カリキュラム

https://www.setsunan.ac.jp/gakubu-in/nogaku/business/curriculum.html

キ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

［掲載場所］

ホーム >キャンパスマップ

https://www.setsunan.ac.jp/aboutus/campusmap/

ホーム > 教育施設

https://www.setsunan.ac.jp/sisetsu/

ク 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

［掲載場所］

ホーム > 学生生活 > 入学金・学費

https://www.setsunan.ac.jp/gakusei/gakuhi.html

ケ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

［掲載場所］

ホーム > 教育・研究 > 教育システム > ラーニングセンター

https://www.setsunan.ac.jp/kenkyu/kyoiku/gakushusien-center/

ホーム > 就職・キャリア > 就職サポート体制

https://www.setsunan.ac.jp/shushoku/support/index.html

ホーム > 学生生活 > 学生相談室

https://www.setsunan.ac.jp/gakusei/sodanshitsu.html

コ その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果等）

［掲載場所］

ホーム > 大学紹介 > 教育研究上の目的と 3 ポリシー

https://www.setsunan.ac.jp/aboutus/policy/

ホーム > 大学紹介 > 学則

https://www.setsunan.ac.jp/aboutus/gakusoku.html

ホーム > 大学紹介 > 設置認可・届出関係

https://www.setsunan.ac.jp/aboutus/secchi.html

ホーム > 大学紹介 > 自己点検・評価への取り組み

https://www.setsunan.ac.jp/aboutus/jikotenken.html

このほか、文部科学省「大学における教育情報の活用支援と公表の促進に関する協力者会議」の提言に基づき、日本私立学校振興・共済事業団が運営する大学ポートレート（私学版）において、各種情報を提供している。

（https://up-j.shigaku.go.jp/school/category01/00000000525801000.html）

２）大学案内の発行

毎年度、紙媒体である大学案内を発行し、建学の精神、教育の理念・方針・方法、学部・学科及び大学院研究科・専攻の概要、教育研究活動の特色やキャリア形成支援の体制、主な施設・設備、学生のキャンパスライフ、その他のトピックス等、大学に関する情報を詳細かつ体系的に公表している。大学案内のほか、本大学の学部への入学希望者を主たる対象として、入試ガイド、入試問題集等の刊行物を発行し、入学試験要項、前年度入学試験結果、進学相談会開催案内、入学手続案内等、入学のために必要な情報を逐次公表している。これらの情報の一部は、本大学ホームページにも掲載している。

３）学術機関リポジトリの設置

平成 26（2014）年 2 月から摂南大学学術機関リポジトリを設置し、本大学で創造される研究・教育成果（博士学位論文、紀要等）を電子的な学術情報として保存・公開を行っている。

４）広報誌の発行

本法人の学園広報誌「FLOW」を、年 4 回発行している。同誌には、本法人の将来計画、財務状況、設置各大学教員の教育研究活動の状況のほか、各設置学校における教育研究活動、学生生徒の諸活動等全般にわたる幅広い情報を掲載している。本誌は、官公庁をはじめ、全国の主要大学、近隣の学校及び官公庁、マスコミ各社等、広く関係各方面に送付するほか、適宜在学生の保護者や卒業生にも送付する等、本大学の現状を伝えている。

大学広報誌として、「さやけき」を年 2 回発行している。学部・学科の教育研究活動の状況、学生の課外活動、キャンパスのトピックスや就職支援体制の状況を主に保護者を対象にした内容で公表している。本誌は、本大学ホームページにも掲載している。

［掲載場所］

ホーム ＞ 大学紹介 ＞ 広報活動 ＞ 広報誌

https://www.setsunan.ac.jp/aboutus/info/magazine/

５）学生への成績評価情報の公表

学生に対する成績評価基準を、毎年度シラバスによって学生に周知している。今般設置する本学部においても同様に提示し、学生の資質向上に資するための情報公表を積極的に進めていく。

（３）今後の計画

平成 23（2011）年 4 月から施行された改正学校教育法施行規則に定める公表すべき教育研究活動等の状況についての情報はもちろんのこと、本大学の社会貢献活動や自己点検・評価結果等についても、本大学ホームページ等の媒体を活用して、在学生、教職員はもとより、社会に対して随時情報を公表すべく整備している。今般設置する本学部の設置届出申請書についても、本大学ホームページに掲載する予定である。

１６．教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

（１）大学全体における FD 活動への取組

本大学では平成 14（2002）年度に、本大学教員の教育活動の質的向上・能力開発（FD）に関して恒常的に検討を行い、学部・大学院の授業内容と授業方法の改善を図ることを目的に、全学組織として「摂南大学 FD 委員会」を設置している。学長の諮問・指示に応じて各学部・研究科と連絡調整するとともに、同じく全学組織である教務委員会と連携を図りながら FD 活動を進めている。

１）FD 委員会

FD 委員会の目的は、「本大学の教育改革、教育の質向上の一環として、本大学の FD 活動を積極的に推進する」ことであり、学長の諮問・指示に応じて、既存の全学的組織や教務委員会あるいは各学部の FD 委員会等との連携を図りながら主に次の活動を行う。

① FD 活動の意義を認識し、教員間の理解を得るための情宣活動の展開
② FD ニュースの発行
③ 学部・学科間の調和の取れた連携を図るための教育目標の検討
④ 学生による授業評価を実施し、授業改善の方策を検討
⑤ 学生の基礎学力の分析と教授法の開発

２）教員対象の研修会の実施

教員の教育力向上のため、平成 14（2002）年度から継続的に全学的な FD フォーラムを開催している。近年は、「効果的なアクティブ・ラーニングのコツ」「研究倫理教育をどう授業・指導のなかに取り入れるか」「ルーブリック評価入門」「授業改善に資する新たな授業アンケートへ」等のテーマで研修会や講演会を開催している。

３）学生による授業評価の実施

平成 14（2002）年度から「学生による授業アンケート」を前期・後期の年 2 回実施している。本アンケートは、無記名による Web 形式で回答させ、加えて自由記述欄を設けている。集計結果は各教員にフィードバックしており、各教員はそれらを自己分析し、授業運営に反映することとしている。また、教員自らのコメントを付したアンケート結果を、本大学ホームページにより学生も含め公表している。

４）新たな教育環境の整備

新たな教育環境の整備として、できるだけ多くの教室へマルチメディア設備を追加して設置し、より分かりやすい授業が行えるよう、最新の機材を用いた AV 設備の整備を進めている。近年、アクティブ・ラーニング型授業の導入を積極的に進めており、より授業運営がしやすいように、可動式の什器を配置した教室の整備を進めている。また、平成 31（2019）

年度からは、遠隔授業システムの導入を行い、寝屋川校地と枚方校地を含む最大 6 教室を結ぶことができ、インタラクティブな授業運営を可能としている。

５）教員活動評価制度の導入

本大学の教員に期待する活動を明示し、個々の教員の活動記録を明らかにすることを目的に、平成 21（2009）年度の教育研究業績から教員活動評価制度を導入している。これにより、教員が自己の活動を点検し、自己評価することでその活性化に役立てるとともに、自己の活動と改善の向上に努めることを促進する。また、評価の結果を大学が総合的に分析し、もって本大学及び各学部の教育、研究、大学運営、社会貢献の改善を図ることで、全学的な教員の資質の維持・向上に役立てる。

（２）国際学部での FD 活動への取組

国際学部では、基礎となる学部である外国語学部での取組を継承し、学部内に「国際学部 FD 委員会」（仮称）を設置する。全学の FD 委員会と連携しながら、FD 活動（FD フォーラムの実施等）を展開していく。また同時に設置する「国際学部教務委員会」（仮称）とも連携を図り、FD 活動を進める。

（３）SD 活動への取組

本大学では平成 29（2017）年度に、教職員として必要な知識・技能の習得並びにその能力・資質の向上に組織的に取り組むことを目的に、全学組織として「摂南大学 SD 委員会」を設置している。本大学における教育研究活動の適切かつ効果的な運営実現に向けて本大学主催の各種研修を実施しているほか、学外の各種団体が主催する研修についても、SD 活動の目的に沿う内容であれば積極的に参加を促している。

１７．社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

本学園の建学の精神、並びに本大学の教育の理念に掲げる「知的専門職業人の育成」を第一義に、学生一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる人間力、すなわち社会人基礎力を育むため、教育課程の内外において次の通りキャリア形成を促す教育を行っている。

（１）教育課程内の取組

授業科目を通じて、「自分を知ること」とともに、コミュニケーションの手段の修得に重点を置き、社会人基礎力の醸成に努めている。全学共通科目であり、教養科目のキャリアデザイン系に配置した「キャリアデザインⅠ」（1 年次前期・1 単位・必修）、「キャリアデザインⅡ」（1 年次後期・1 単位・必修）では、自己分析、自己適性、自己表現等について理解を深め、将来の自己実現に向け自分を知ることを考えさせる。「インターンシップ」（3 年次通年・2 単位・選択）では、インターンシップ先で実務に触れると同時に、専門職業人としての責務を自覚させる。さらに、日々発生する課題への対応を通じて、社会的・職業的自立に必要な能力の養成も涵養する。

今般設置する国際学部においても、全学での取組の一環として実施していく。

（２）教育課程外の取組

学生のキャリア形成支援については、就職部が中心となって行っている。令和元（2019）年以降は with コロナの支援として WEB を利用したガイダンスや面談の対応も行っている。

その支援の内容としては、低年次で各学科の基礎ゼミナール等の意向に沿う形でキャリアガイダンスや情報提供等を行い、学生の志向と学びの先にある将来の進路がイメージできるよう意識づけを図っている。3 年次からは、学生自身が将来の目標の具体化に向けて自己理解や進路先理解を段階的により深めていけるよう、就職ガイダンス、企業採用担当者による業界・企業研究会、若手卒業生との交流会等の集合形式の行事実施と、個別面談を重視した支援を行っている。また、TOEIC の学内団体受験や、資格取得・公務員受験サポート講座等、検定や資格試験対策の機会も資格サポートセンターが安価で提供しており充実している。

今般設置する本学部においても、学生に対し同様の支援を実施していく。

（３）適切な体制の整備

本大学では、大学独自のキャリア形成支援体制を構築し、学生の進路実現に向けてきめ細かな支援を行っている。こうした取組が結果として、平成 29（2017）年度から平成 31（2019）年度の 3 年間の就職率〔就職者数÷就職希望者×100〕は、98.0%、98.3%、98.5%に、同じく就職満足度は、98.4%、98.3%、98.3%が「満足」という結果につながっている。就職

部が中心となり、企業等とのネットワークも構築し、学生の就職につなげている。

今般設置する本学部においても、基礎となる学部である外国語学部でこれまで実績のある就職先となる企業や事業所等に対して、就職先の確保のための関係構築の取組を開設１年目から展開していく。

本大学の就職部が中心となり、上記に示した就職支援のためのガイダンスや各種セミナーを開催する。就職担当の専任職員は、国際学部所属教員と連携して、就職先開拓を進め、既存学部学科で就職実績のある企業も進路先候補として関係性を強化していく計画である。

なお、全ての求人情報や来校企業との面談記録は、株式会社ジェイネットが管理運営しているシステム「求人検索 NAVI」に取り込み、インターネット回線を利用して、事務室内のパソコンはもとより、学生はスマートフォンや自宅のパソコンからリアルタイムな求人情報をいつでも閲覧することができる環境を構築しており、本学部学生も同様に利活用できるよう整える。

以 上

設置の趣旨等を記載した書類

資料目次

【資料１】　養成する人材像とカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの相関図

【資料２】　国際学部国際学科の教育課程のチャート図

【資料３】　履修モデル

【資料４】　3 年次編入学後の履修モデル

【資料５】　主な実習予定先一覧

【資料６】　海外大学との協定書（抜粋）

【資料７】　学校法人常翔学園就業規則

【資料８】　任用規定

【資料９】　特任教員規定

【資料１０】　摂南大学教員選考基準

【資料１１】　摂南大学寝屋川校地の教室使用実績（令和 2 年度）

【資料１２】　国際学部 主な購読予定雑誌一覧

■養成する人材像とカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの相関図

養成する人材像

グローバル化・ボーダーレス化が進む世界における

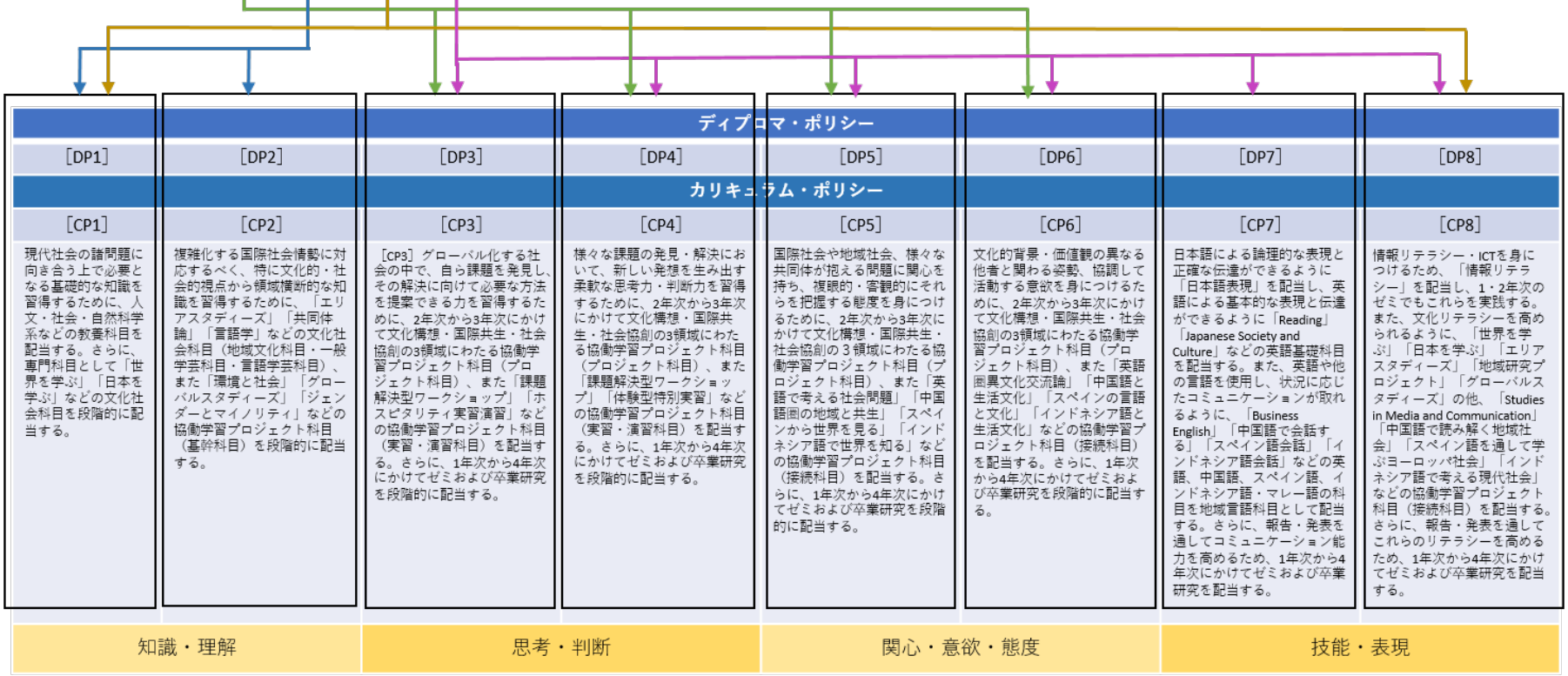
①様々な課題について解決策を見出し、果敢に行動できる人材、

②世界の国や地域の歴史・地理・社会・文化などの基礎知識を基に、

③豊かな教養と広い視野を身につけ、

④多様な価値観を客観的に理解して判断・発信できるグローバルリテラシーを修得した、

国際社会で活躍できる知的専門職業人



設置の趣旨等（資料）- 2

【資料１】

国際学部国際学科の教育課程のチャート図

1年次 → 2年次 → 3年次 → 4年次

専門科目

協働学習プロジェクト科目

	文化構想領域	国際共生領域	社会協創領域
【プロジェクト科目】	「表象と感性ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」 「歴史学ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」 「地理学ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」 「比較文化ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」 「人間存在論ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」 「都市と周縁ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」 「国際社会と日本語ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」	「地域研究ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ（英語と諸地域）」 「地域研究ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ（東ｱｼﾞｱ世界）」 「地域研究ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ（ｽﾍﾟｲﾝ語と諸地域）」 「地域研究ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ（東南ｱｼﾞｱ世界）」 「海外特別ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄⅠ」	「言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」 「メディアと現代社会ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」 「ﾏｲﾉﾘﾃｨ研究ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」 「地域研究・国際政治ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」 「地域とﾋﾞｼﾞﾈｽﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」 「国際貢献・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」 「海外特別ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄⅡ」
【基幹科目】	「表象文化論」 「地域と歴史」 「環境と社会」 「思想と文化」 「テクノロジーと人間」 「異文化の理解」 「多文化社会と日本語」	「ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｽﾀﾃﾞｨｰｽﾞ（英語と諸地域）」 「ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｽﾀﾃﾞｨｰｽﾞ（東ｱｼﾞｱ世界）」 「ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｽﾀﾃﾞｨｰｽﾞ（ｽﾍﾟｲﾝ語と諸地域）」 「ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｽﾀﾃﾞｨｰｽﾞ（東南ｱｼﾞｱ世界）」	「ことばと社会」 「メディア文化論」 「ｼﾞｪﾝﾀﾞｰとﾏｲﾉﾘﾃｨ」 「比較政治学」 「国際ﾋﾞｼﾞﾈｽ論」 「国際貢献論」
【接続科目】	「英語圏異文化交流論」「英語圏比較文化論」 「中国語と生活文化」「中国語圏の言語文化」 「ｽﾍﾟｲﾝの言語と文化」「ﾗﾃﾝｱﾒﾘｶの言語と文化」 「ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ語と生活文化」「ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ語と現代文化」	「英語で考える環境問題」「英語で考える社会問題」 「中国語を通してみる世界」「中国語圏の地域と共生」 「ｽﾍﾟｲﾝから世界を見る」「ﾗﾃﾝｱﾒﾘｶから世界を見る」 「ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ語で世界を知る」「ﾏﾚｰ語圏の地域を知る」	「Studies in Media and Communication」「Studies in Hospitality and Tourism」 「中国語で読み解く地域社会」「中国語圏から社会を考える」 「ｽﾍﾟｲﾝ語を通して学ぶﾖｰﾛｯﾊﾟ社会」「ｽﾍﾟｲﾝ語を通して学ぶﾗﾃﾝｱﾒﾘｶ社会」 「ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ語で考える現代社会」「ﾏﾚｰ語で考える国際社会」

【実習・演習科目】
「課題解決型ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ」
「ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ実習演習」
「海外ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ」
「海外実習」
「体験型特別実習」

文化社会科目

【地域文化科目】「●世界を学ぶ」「●日本を学ぶ」 ↔ 「ｴﾘｱｽﾀﾃﾞｨｰｽﾞ 北ｱﾒﾘｶ,ﾗﾃﾝｱﾒﾘｶ,東ｱｼﾞｱ,西ｱｼﾞｱ・南ｱｼﾞｱ,東南ｱｼﾞｱ,ｱﾌﾘｶ,ﾖｰﾛｯﾊﾟ,ｵｾｱﾆｱ」

【一般学芸科目】「共同体論」「多文化共生論」「風土と地理」「国際関係論」「国際社会と経済」「ﾒﾃﾞｨｱﾘﾃﾗｼｰ論」「現代社会論」「地域と観光」「生物と環境」「ナショナリズム論」「視覚文化論」「Studies in Popular Culture」「Studies in Language and Society」

【言語学芸科目】「音声学」「英語学概論」「言語学」「日本語史概説」「英語意味論・語用論」「日本語音韻論」「英語構造論」「日本語語彙論」「日本語文法論」日本の文学」「中国の文学」「英語圏の文学」

【英語基礎科目】「Speaking & Writing a,b」「●Reading a,b」「TOEIC a,b」「Communicative English Grammar」「Drama」
「●Japanese Society and Culture」「Academic Reading & Listening」「Academic Writing Workshop」「Debate」「Presentation」

【地域言語科目】「●諸言語輪講」
（英語）「Topic Studies Ia,b/Ⅱa,b/Ⅲa,b」「Discussion a,b」「Advanced Academic Writng Workshop a,b」「Lecture a,b」「Film Making」「Business English a,b」「Comprehensive Studies a,b」
（中国語）「中国語で読み解くⅠ」「中国語で表現するⅠ」「中国語で会話するⅠ」「中国語で読み解くⅡ」「中国語で表現するⅡ」「中国語で会話するⅡ」「中国語で読み解くⅢ」「中国語で表現するⅢ」「中国語で会話するⅢ」「中国語ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ」
（ｽﾍﾟｲﾝ語）「ｽﾍﾟｲﾝ語文法Ⅰ」「ｽﾍﾟｲﾝ語表現」「ｽﾍﾟｲﾝ語会話Ⅰ」「ｽﾍﾟｲﾝ語文法Ⅱ」「ｽﾍﾟｲﾝ語読解」「ｽﾍﾟｲﾝ語会話Ⅱ」「ｽﾍﾟｲﾝ語圏社会講読（南欧）」「ｽﾍﾟｲﾝ語圏社会講読（ﾗﾃﾝｱﾒﾘｶ）」「ｽﾍﾟｲﾝ語文章構成」「ｽﾍﾟｲﾝ語ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ」
（ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ語・ﾏﾚｰ語）「ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ語文法」「ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ語表現Ⅰ」「ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ語会話Ⅰ」「総合ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ語」「ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ語表現Ⅱ」「ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ語会話Ⅱ」「総合ﾏﾚｰ語」「実践ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ語」「旅行ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ語」「ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ語・ﾏﾚｰ語ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ」

【学芸員科目】「ﾐｭｰｼﾞｱﾑへの招待」「ﾐｭｰｼﾞｱﾑｺﾚｸｼｮﾝ論」「博物館資料保存論」「ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ論」「生涯学習論」「ﾐｭｰｼﾞｱﾑﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論」「博物館情報・ﾒﾃﾞｨｱ論」「博物館教育論」「博物館実習」

【ｴｱﾗｲﾝ・ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ科目】「ﾎﾃﾙﾋﾞｼﾞﾈｽ論」ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ基礎論」「ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨｽｷﾙ論」「ｴｱﾗｲﾝｻｰﾋﾞｽ論」「ｴｱﾗｲﾝﾋﾞｼﾞﾈｽ論」

【日本語教員科目】「日本語教授法Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ」「日本語教育実習演習」

ゼミ・卒業研究

「●初年次ゼミナール」「●基礎ゼミナール」 → 「●基礎演習Ⅰ」「●基礎演習Ⅱ」 → 「●文化演習Ⅰ」「●文化演習Ⅱ」 → 「●卒業研究Ⅰ」「●卒業研究Ⅱ」

教養科目

（人文科学系）「人間の探究」「文学から学ぶ」「歴史に学ぶ」「心理学」

（社会科学系）「法学入門」「世界の政治」「日本国憲法」「経済学入門」「経営学入門」

（自然・科学技術系）「住まいとﾃﾞｻﾞｲﾝ」「食品機能学」「人体の構造と機能」「公衆衛生学」「科学技術教養」

（英語系）「●基礎英語Ⅰa」「●基礎英語Ⅱa」

(外国語系)「韓国語Ⅰ/Ⅱa,b/Ⅲa,b」

(日本語系)「日本語表現Ⅰ,Ⅱ」「ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ」

（数理・情報系）「●情報ﾘﾃﾗｼｰⅠ」「●情報ﾘﾃﾗｼｰⅡ」

（ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ系）「●キャリアデザインⅠ,Ⅱ」「ｴﾝﾌﾟﾛｲﾒﾝﾄﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ,Ⅱ」「インターンシップ」「ﾋﾞｼﾞﾈｽ実務」

（スポーツ系）「ｽﾎﾟｰﾂ科学実習Ⅰ,Ⅱ」「ｽﾎﾟｰﾂと健康」

（地域志向系）「地域と私」「北河内を知る」「ｿｰｼｬﾙ・ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ実務総論」「摂南大学PBLﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄⅠ,Ⅱ」「地域貢献実践演習」」

（共通基礎系）「大学教養入門」「大学教養実践」「数的能力開発Ⅰ」「就職実践基礎」「時事問題Ⅰ,Ⅱ」

※科目名の前に●印があるのは必修科目

設置の趣旨等（資料）- 3

【資料2】

■履修モデル

国際学部　国際学科

●：必修科目　◇：選択必修科目　○：選択科目

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択必修	単位数 選択	①新時代のメディアに関わる仕事を志向するモデル	②国際社会と地域をつなぐ仕事を志向するモデル	③国際貢献・ボランティアに関わる仕事を志向するモデル	④日本文化の発信と国際交流に関わる仕事を志向するモデル	⑤ヒトとAIの関係を取りもち整える人材系の仕事を志向するモデル	⑥地域社会における多文化の共生を目指す仕事を志向するモデル	⑦日本語教育現場での仕事を志向するモデル	⑧英語による高度なコミュニケーション能力を要する仕事を志向するモデル
								1年次 2年次 3年次 4年次	1年次 2年次 3年次 4年次	1年次 2年次 3年次 4年次	1年次 2年次 3年次 4年次	1年次 2年次 3年次 4年次	1年次 2年次 3年次 4年次	1年次 2年次 3年次 4年次	1年次 2年次 3年次 4年次
								前期 後期 前期 後期 前期 後期 前期 後期	前期 後期 前期 後期 前期 後期 前期 後期	前期 後期 前期 後期 前期 後期 前期 後期	前期 後期 前期 後期 前期 後期 前期 後期	前期 後期 前期 後期 前期 後期 前期 後期	前期 後期 前期 後期 前期 後期 前期 後期	前期 後期 前期 後期 前期 後期 前期 後期	前期 後期 前期 後期 前期 後期 前期 後期
協働学習プロジェクト科目	文化構想領域	プロジェクト科目	表象と感性プロジェクト	2		2		◇							
			歴史学プロジェクト	2		2			◇						
			地理学プロジェクト	2		2				◇					
			比較文化プロジェクト	2		2					◇				
			人間存在論プロジェクト	2		2						◇			
			都市と周縁プロジェクト	2		2							◇		◇
			国際社会と日本語プロジェクト	2		2								◇	
		基幹科目	表象文化論	2		2		◇			◇				
			地域と歴史	2		2			◇	◇					
			環境と社会	2		2			◇	◇					
			思想と文化	2		2		◇			◇				
			テクノロジーと人間	2		2						◇	◇	◇	
			異文化の理解	2		2						◇	◇		◇
			多文化社会と日本語	2		2								◇	
		接続科目	英語圏異文化交流論	2		2		◇							◇
			英語圏比較文化論	2		2		◇							◇
			中国語と生活文化	2		2			◇			◇			
			中国語圏の言語文化	2		2			◇			◇			
			スペインの言語と文化	2		2				◇			◇		
			ラテンアメリカの言語と文化	2		2				◇			◇		
			インドネシア語と生活文化	2		2					◇			◇	
			インドネシア語と現代文化	2		2					◇			◇	
	国際共生領域	プロジェクト科目	地域研究プロジェクト（英語と諸地域）	2		2		◇							◇
			地域研究プロジェクト（東アジア世界）	2		2			◇			◇			
			地域研究プロジェクト（スペイン語と諸地域）	2		2				◇			◇		
			地域研究プロジェクト（東南アジア世界）	2		2					◇			◇	
			海外特別プロジェクトⅠ	2		2									
		基幹科目	グローバルスタディーズ（英語と諸地域）	2		2		◇							◇
			グローバルスタディーズ（東アジア世界）	2		2			◇			◇			
			グローバルスタディーズ（スペイン語と諸地域）	2		2				◇			◇		
			グローバルスタディーズ（東南アジア世界）	2		2					◇			◇	
		接続科目	英語で考える環境問題	2		2		◇							◇
			英語で考える社会問題	2		2		◇							◇
			中国語を通して見る世界	2		2			◇			◇			
			中国語圏の地域と共生	2		2			◇			◇			
			スペインから世界を見る	2		2				◇			◇		
			ラテンアメリカから世界を見る	2		2				◇			◇		
			インドネシア語で世界を知る	2		2					◇			◇	
			マレー語圏の地域を知る	2		2					◇			◇	
	社会協創領域	プロジェクト科目	言語コミュニケーションプロジェクト	3		2								◇	◇
			メディアと現代社会プロジェクト	3		2		◇				◇			
			マイノリティ研究プロジェクト	3		2							◇		
			地域研究・国際政治プロジェクト	3		2			◇						
			地域とビジネスプロジェクト	3		2					◇				
			国際貢献・ボランティアプロジェクト	3		2				◇					
			海外特別プロジェクトⅡ	3		2									
		基幹科目	ことばと社会	3		2								◇	◇
			メディア文化論	3		2		◇				◇			
			ジェンダーとマイノリティ	3		2			◇				◇		
			比較政治学	3		2			◇		◇		◇		
			国際ビジネス論	3		2				◇	◇				
			国際貢献論	3		2				◇		◇		◇	
		接続科目	Studies in Media and Communication	3		2		◇							◇
			Studies in Hospitality and Tourism	3		2		◇							◇
			中国語で読み解く地域社会	3		2			◇			◇			
			中国語圏から社会を考える	3		2			◇			◇			
			スペイン語を通して学ぶヨーロッパ社会	3		2				◇			◇		
			スペイン語を通して学ぶラテンアメリカ社会	3		2				◇			◇		
			インドネシア語で考える現代社会	3		2					◇			◇	
			マレー語で考える国際社会	3		2					◇			◇	
	実習・演習科目		課題解決型ワークショップ	3		2		◇ 2単位	◇ 2単位	◇ 2単位	◇ 2単位	◇ 2単位	◇ 2単位	◇ 2単位	◇ 2単位
			ホスピタリティ実習演習	3		2									
			海外インターンシップ	1-2-3-4		2									
			海外実習	1-2-3-4		2									
			体験型特別実習	1-2-3-4		2									
	地域文化科目		世界を学ぶ	1	2			●	●	●	●	●	●	●	●
			日本を学ぶ	1	2			●	●	●	●	●	●	●	●
			エリアスタディーズ　北アメリカ	1			2	○							
			エリアスタディーズ　ラテンアメリカ	1			2			○			○		
			エリアスタディーズ　東アジア	1			2	○	○		○	○			
			エリアスタディーズ　西アジア・南アジア	1			2		○				○	○	
			エリアスタディーズ　東南アジア	1			2		○		○			○	
			エリアスタディーズ　アフリカ	1			2			○	○	○			
			エリアスタディーズ　ヨーロッパ	1			2			○			○		
			エリアスタディーズ　オセアニア	1			2	○				○			

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択必修	単位数 選択	①新時代のメディアに関わる仕事を志向するモデル								②国際社会と地域をつなぐ仕事を志向するモデル							
								1年次		2年次		3年次		4年次		1年次		2年次		3年次		4年次	
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門科目	文化社会科目	一般学芸科目	共同体論	1			2																
			多文化共生論	1			2									○							
			風土と地理	1			2																
			国際関係論	1			2										○						
			国際社会と経済	2			2																
			メディアリテラシー論	2			2				○												
			現代社会論	2			2																
			地域と観光	2			2												○				
			生物と環境	3			2																
			ナショナリズム論	3			2								○								
			視覚文化論	3			2						○		○								
			Studies in Popular Culture	3			2						○										
			Studies in Language and Society	3			2						○		○								
		言語学芸科目	音声学	1			2									○							
			英語学概論	1			2	○															
			言語学	1			2		○							○							
			日本語史概説	1			2									○							
			英語意味論・語用論	2			2			○													
			日本語音韻論	2			2											○					
			英語構造論	2			2				○												
			日本語語彙論	3			2																
			日本語文法論	3			2																
			日本の文学	2			2												○				
			中国の文学	2			2												○				
			英語圏の文学	3			2																
		エアライン・ホスピタリティ科目	ホテルビジネス論	2			2																
			ホスピタリティ基礎論	2			2																
			ホスピタリティスキル論	3			2																
			エアラインサービス論	2			2																
			エアラインビジネス論	3			2																
		学芸員科目	ミュージアムへの招待	1			2																
			ミュージアムコレクション論	2			2																
			博物館資料保存論	2			2																
			ディスプレイ論	2			2																
			生涯学習論	3			2																
			ミュージアムマネジメント論	3			2																
			博物館情報・メディア論	3			2																
			博物館教育論	3			2																
			博物館実習	4			3																
		日本語教員科目	日本語教授法Ⅰ	3			2																
			日本語教授法Ⅱ	3			2																
			日本語教授法Ⅲ	3			2																
			日本語教育実習演習	4			3																
		英語基礎科目	Speaking & Writing a	1			1									○							
			Reading a	1	1			●								●							
			TOEIC a	1			1	○															
			Communicative English Grammar	1			1									○							
			Speaking & Writing b	1			1																
			Reading b	1	1				●								●						
			TOEIC b	1			1		○														
			Drama	1			1		○														
			Japanese Society and Culture	2	1					●			●						●				
			Academic Reading & Listening	2			1																
			Academic Writing Workshop	2			1																
			Debate	2			1																
			Presentation	2			1																
		地域言語 英語	Topic Studies Ⅰa	1			1	○															
			Topic Studies Ⅰb	1			1		○														
			Discussion a	2			1			○													
			Topic Studies Ⅱa	2			1			○													
			Discussion b	2			1				○												
			Topic Studies Ⅱb	2			1				○												
			Advanced Academic Writing Workshop a	3			2																
			Lecture a	3			2																
			Film Making	3			2					○											
			Business English a	3			2					○											
			Topic Studies Ⅲa	3			2					○											
			Advanced Academic Writing Workshop b	3			2																
			Lecture b	3			2																
			Business English b	3			2																
			Topic Studies Ⅲb	3			2																
			Comprehensive Studies a	4			2																
			Comprehensive Studies b	4			2																
		諸言語	諸言語輪講	1	1			●								●							
		地域言語 中国語	中国語で読み解くⅠ	1		1			◇								◇						
			中国語で表現するⅠ	1		1			◇								◇						
			中国語で会話するⅠ	1		1			◇								◇						
			中国語で読み解くⅡ	2			1											○					
			中国語で表現するⅡ	2			1											○					
			中国語で会話するⅡ	2			1											○					
			中国語で読み解くⅢ	2			1												○				
			中国語で表現するⅢ	2			1												○				
			中国語で会話するⅢ	2			1												○				
			中国語プレゼンテーション	3			2													○				

科目区分			授業科目の名称	③国際貢献・ボランティアに関わる仕事を志向するモデル								④日本文化の発信と国際交流に関わる仕事を志向するモデル								⑤ヒトとAIの関係を取りもち整える人材系の仕事を志向するモデル							
				1年次		2年次		3年次		4年次		1年次		2年次		3年次		4年次		1年次		2年次		3年次		4年次	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門科目	文化社会科目	一般学芸科目	共同体論	○																○							
			多文化共生論									○								○							
			風土と地理	○								○															
			国際関係論		○																○						
			国際社会と経済				○																				
			メディアリテラシー論										○														
			現代社会論																			○					
			地域と観光																				○				
			生物と環境																								
			ナショナリズム論						○								○								○		
			視覚文化論						○								○								○		
			Studies in Popular Culture														○								○		
			Studies in Language and Society						○																○		
		言語学芸科目	音声学	○																○							
			英語学概論																								
			言語学		○								○									○					
			日本語史概説																								
			英語意味論・語用論																								
			日本語音韻論		○																						
			英語構造論																								
			日本語語彙論												○												
			日本語文法論						○																○		
			日本の文学																								
			中国の文学																								
			英語圏の文学														○										
		エアライン・ホスピタリティ科目	ホテルビジネス論																								
			ホスピタリティ基礎論																								
			ホスピタリティスキル論																								
			エアラインサービス論																								
			エアラインビジネス論																								
		学芸員科目	ミュージアムへの招待																								
			ミュージアムコレクション論																								
			博物館資料保存論																								
			ディスプレイ論																								
			生涯学習論																								
			ミュージアムマネジメント論																								
			博物館情報・メディア論																								
			博物館教育論																								
			博物館実習																								
		日本語教員科目	日本語教授法Ⅰ																								
			日本語教授法Ⅱ																								
			日本語教授法Ⅲ																								
			日本語教育実習演習																								
		英語基礎科目	Speaking & Writing a																	○							
			Reading a																	●							
			TOEIC a																								
			Communicative English Grammar	○																							
			Speaking & Writing b																								
			Reading b		●								●								●						
			TOEIC b																								
			Drama										○														
			Japanese Society and Culture			●								●								●					
			Academic Reading & Listening																								
			Academic Writing Workshop																								
			Debate																								
			Presentation																								
		地域言語 英語	Topic Studies Ⅰa																								
			Topic Studies Ⅰb																								
			Discussion a																								
			Topic Studies Ⅱa																								
			Discussion b																								
			Topic Studies Ⅱb																								
			Advanced Academic Writing Workshop a																								
			Lecture a																								
			Film Making																								
			Business English a																								
			Topic Studies Ⅲa																								
			Advanced Academic Writing Workshop b																								
			Lecture b																								
			Business English b																								
			Topic Studies Ⅲb																								
			Comprehensive Studies a																								
			Comprehensive Studies b																								
		諸言語	諸言語輪講	●								●								●							
		地域言語 中国語	中国語で読み解くⅠ																		◇						
			中国語で表現するⅠ																		◇						
			中国語で会話するⅠ																		◇						
			中国語で読み解くⅡ																			○					
			中国語で表現するⅡ																			○					
			中国語で会話するⅡ																			○					
			中国語で読み解くⅢ																				○				
			中国語で表現するⅢ																				○				
			中国語で会話するⅢ																				○				
			中国語プレゼンテーション																					○			

科目区分			授業科目の名称	⑥地域社会における多文化の共生を目指す仕事を志向するモデル								⑦日本語教育現場での仕事を志向するモデル								⑧英語による高度なコミュニケーション能力を要する仕事を志向するモデル							
				1年次		2年次		3年次		4年次		1年次		2年次		3年次		4年次		1年次		2年次		3年次		4年次	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門科目	文化社会科目	一般学芸科目	共同体論	○																○							
			多文化共生論																								
			風土と地理																								
			国際関係論		○							○															
			国際社会と経済										○														
			メディアリテラシー論																								
			現代社会論			○																					
			地域と観光			○																					
			生物と環境																								
			ナショナリズム論						○																		
			視覚文化論						○																		
			Studies in Popular Culture																						○		
			Studies in Language and Society																						○		
		言語学芸科目	音声学																	○							
			英語学概論																	○							
			言語学		○																						
			日本語史概説									○															
			英語意味論・語用論																								
			日本語音韻論											○													
			英語構造論				○																				
			日本語語彙論													○											
			日本語文法論														○										
			日本の文学				○																				
			中国の文学																								
			英語圏の文学																								
		エアライン・ホスピタリティ科目	ホテルビジネス論																								
			ホスピタリティ基礎論																								
			ホスピタリティスキル論																								
			エアラインサービス論																								
			エアラインビジネス論																								
		学芸員科目	ミュージアムへの招待																								
			ミュージアムコレクション論																								
			博物館資料保存論																								
			ディスプレイ論																								
			生涯学習論																								
			ミュージアムマネジメント論																								
			博物館情報・メディア論																								
			博物館教育論																								
			博物館実習																								
		日本語教員科目	日本語教授法Ⅰ													○											
			日本語教授法Ⅱ														○										
			日本語教授法Ⅲ														○										
			日本語教育実習演習															○									
		英語基礎科目	Speaking & Writing a																	○							
			Reading a																	●							
			TOEIC a									○															
			Communicative English Grammar																	○							
			Speaking & Writing b																		○						
			Reading b																		●						
			TOEIC b																								
			Drama										○														
			Japanese Society and Culture											●								●					
			Academic Reading & Listening																								
			Academic Writing Workshop																								
			Debate																								
			Presentation																								
		地域言語 英語	Topic Studies Ⅰa																								
			Topic Studies Ⅰb																								
			Discussion a																								
			Topic Studies Ⅱa																								
			Discussion b																								
			Topic Studies Ⅱb																								
			Advanced Academic Writing Workshop a																								
			Lecture a																								
			Film Making																								
			Business English a																								
			Topic Studies Ⅲa																								
			Advanced Academic Writing Workshop b																								
			Lecture b																								
			Business English b																								
			Topic Studies Ⅲb																								
			Comprehensive Studies a																								
			Comprehensive Studies b																								
		諸言語	諸言語輪講	●								●								●							
		地域言語 中国語	中国語で読み解くⅠ																								
			中国語で表現するⅠ																								
			中国語で会話するⅠ																								
			中国語で読み解くⅡ																								
			中国語で表現するⅡ																								
			中国語で会話するⅡ																								
			中国語で読み解くⅢ																								
			中国語で表現するⅢ																								
			中国語で会話するⅢ																								
			中国語プレゼンテーション																								

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			①新時代のメディアに関わる仕事を志向するモデル								②国際社会と地域をつなぐ仕事を志向するモデル							
					必修	選択必修	選択	1年次		2年次		3年次		4年次		1年次		2年次		3年次		4年次	
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
	科目	スペイン語	スペイン語文法Ⅰ	1		1																	
			スペイン語表現	1		1																	
			スペイン語会話Ⅰ	1		1																	
			スペイン語文法Ⅱ	2			1																
			スペイン語読解	2			1																
			スペイン語会話Ⅱ	2			1																
			スペイン語圏社会購読（南欧）	2			1																
			スペイン語圏社会購読（ラテンアメリカ）	2			1																
			スペイン語文章構成	2			1																
			スペイン語プレゼンテーション	3			2																
		インドネシア語・マレー語	インドネシア語文法	1		1																	
			インドネシア語表現Ⅰ	1		1																	
			インドネシア語会話Ⅰ	1		1																	
			総合インドネシア語	2			1																
			インドネシア語表現Ⅱ	2			1																
			インドネシア語会話Ⅱ	2			1																
			総合マレー語	2			1																
			実践インドネシア語	2			1																
			旅行インドネシア語	2			1																
			インドネシア語・マレー語プレゼンテーション	3			2																
	ゼミ・卒業研究		初年次ゼミナール	1	2			●								●							
			基礎ゼミナール	1	2				●								●						
			基礎演習Ⅰ	2	2					●								●					
			基礎演習Ⅱ	2	2						●								●				
			文化演習Ⅰ	3	2							●								●			
			文化演習Ⅱ	3	2								●								●		
			卒業研究Ⅰ	4	2									●								●	
			卒業研究Ⅱ	4	2										●								●
履修単位数（専門科目）								14	15	17	16	16	10	2	2	13	16	16	19	14	10	2	2
								92単位								92単位							

科目区分			授業科目の名称	③国際貢献・ボランティアに関わる仕事を志向するモデル								④日本文化の発信と国際交流に関わる仕事を志向するモデル								⑤ヒトとAIの関係を取りもち整える人材系の仕事を志向するモデル							
				1年次		2年次		3年次		4年次		1年次		2年次		3年次		4年次		1年次		2年次		3年次		4年次	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
	科目	スペイン語	スペイン語文法Ⅰ		◇																						
			スペイン語表現		◇																						
			スペイン語会話Ⅰ		◇																						
			スペイン語文法Ⅱ			○																					
			スペイン語読解			○																					
			スペイン語会話Ⅱ			○																					
			スペイン語圏社会購読（南欧）				○																				
			スペイン語圏社会購読（ラテンアメリカ）				○																				
			スペイン語文章構成				○																				
			スペイン語プレゼンテーション					○																			
		インドネシア語・マレー語	インドネシア語文法									◇															
			インドネシア語表現Ⅰ									◇															
			インドネシア語会話Ⅰ									◇															
			総合インドネシア語										○														
			インドネシア語表現Ⅱ										○														
			インドネシア語会話Ⅱ										○														
			総合マレー語											○													
			実践インドネシア語											○													
			旅行インドネシア語											○													
			インドネシア語・マレー語プレゼンテーション												○												
	ゼミ・卒業研究		初年次ゼミナール	●								●								●							
			基礎ゼミナール		●								●								●						
			基礎演習Ⅰ			●								●								●					
			基礎演習Ⅱ				●								●								●				
			文化演習Ⅰ					●								●								●			
			文化演習Ⅱ						●								●								●		
			卒業研究Ⅰ							●								●								●	
			卒業研究Ⅱ								●								●								●
履修単位数（専門科目）				15	14	18	15	14	10	2	2	12	15	16	17	16	12	2	2	15	14	16	17	14	12	2	2
				92単位								92単位								92単位							

科目区分			授業科目の名称	⑥地域社会における多文化の共生を目指す仕事を志向するモデル								⑦日本語教育現場での仕事を志向するモデル								⑧英語による高度なコミュニケーション能力を要する仕事を志向するモデル							
				1年次		2年次		3年次		4年次		1年次		2年次		3年次		4年次		1年次		2年次		3年次		4年次	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
	科目	スペイン語	スペイン語文法Ⅰ		◇																◇						
			スペイン語表現		◇																◇						
			スペイン語会話Ⅰ		◇																◇						
			スペイン語文法Ⅱ			○																					
			スペイン語読解			○																					
			スペイン語会話Ⅱ			○																					
			スペイン語圏社会購読（南欧）				○																				
			スペイン語圏社会購読（ラテンアメリカ）				○																				
			スペイン語文章構成				○																				
			スペイン語プレゼンテーション					○																			
		インドネシア語・マレー語	インドネシア語文法																								
			インドネシア語表現Ⅰ																								
			インドネシア語会話Ⅰ																								
			総合インドネシア語											○								○					
			インドネシア語表現Ⅱ											○								○					
			インドネシア語会話Ⅱ											○								○					
			総合マレー語												○								○				
			実践インドネシア語												○								○				
			旅行インドネシア語												○								○				
			インドネシア語・マレー語プレゼンテーション													○								○			
	ゼミ・卒業研究		初年次ゼミナール	●								●								●							
			基礎ゼミナール		●								●								●						
			基礎演習Ⅰ			●								●								●					
			基礎演習Ⅱ				●								●								●				
			文化演習Ⅰ					●								●								●			
			文化演習Ⅱ						●								●								●		
			卒業研究Ⅰ							●								●								●	
			卒業研究Ⅱ								●								●								●
履修単位数（専門科目）				13	14	16	21	14	10	2	2	9	15	18	15	18	10	5	2	14	9	15	14	14	18	4	4
				92単位								92単位								92単位							

設置の趣旨等

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択必修	単位数 選択	①新時代のメディアに関わる仕事を志向するモデル								②国際社会と地域をつなぐ仕事を志向するモデル							
							1年次		2年次		3年次		4年次		1年次		2年次		3年次		4年次	
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目	人文科学系	人間の探究	1			2																
		文学から学ぶ	1			2																
		歴史に学ぶ	1			2										○						
		心理学	2			2			○													
	社会科学系	法学入門	1			2																
		世界の政治	1			2									○							
		日本国憲法	1			2																
		経済学入門	2			2			○													
		経営学入門	2			2				○							○					
	自然・科学技術系	住まいとデザイン	1			2	○															
		食品機能学	1			2		○								○						
		人体の構造と機能	2			2											○					
		公衆衛生学	2			2																
		科学技術教養	3			2					○							○				
	英語系	基礎英語Ⅰa	1	1			●								●							
		基礎英語Ⅱa	1	1				●								●						
	外国語系	韓国語Ⅰ	1			1																
		韓国語Ⅱa	2			1																
		韓国語Ⅱb	2			1																
		韓国語Ⅲa	2			1																
		韓国語Ⅲb	2			1																
	日本語系	日本語表現Ⅰ	1			1	○								○							
		日本語表現Ⅱ	1			1		○								○						
		コミュニケーションⅠ	2			1											○					
	数理・情報系	情報リテラシーⅠ	1	1			●								●							
		情報リテラシーⅡ	1	1				●								●						
	キャリアデザイン系	キャリアデザインⅠ	1	1			●								●							
		キャリアデザインⅡ	1	1				●								●						
		エンプロイメントデザインⅠ	1			1																
		エンプロイメントデザインⅡ	2			1																
		インターンシップ	3			2																
		ビジネス実務	3			2													○			
	スポーツ系	スポーツ科学実習Ⅰ	1			1									○							
		スポーツ科学実習Ⅱ	1			1																
		スポーツと健康	2			2																
	地域志向系	地域と私	1			2									○							
		北河内を知る	1			2		○														
		ソーシャル・イノベーション実務総論	1			2										○						
		摂南大学PBLプロジェクトⅠ	2			2																
		摂南大学PBLプロジェクトⅡ	2			2											○					
		地域貢献実践演習	3			2																
	共通基礎系	大学教養入門	1			2	○									○						
		大学教養実践	1			2																
		数的能力開発Ⅰ	2			1				○												
		就職実践基礎	2			1				○								○				
		時事問題Ⅰ	2			2			○								○					
		時事問題Ⅱ	2			2				○								○				
	教養特別系	教養特別講義Ⅰ	1・2・3・4			2	○2単位								○2単位							
		教養特別講義Ⅱ	1・2・3・4			2																
		教養特別講義Ⅲ	1・2・3・4			2																
		教養特別講義Ⅳ	1・2・3・4			2																
		教養特別講義Ⅴ	1・2・3・4			2																
	外国人留学生対象科目	日本事情FⅠ	1・2・3・4			2																
		日本事情FⅡ	1・2・3・4			2																
		日本語読解FⅠ	1・2・3・4			1																
		日本語読解FⅡ	1・2・3・4			1																
		日本語文法FⅠ	1・2・3・4			1																
		日本語文法FⅡ	1・2・3・4			1																
		日本語表現作文FⅠ	1・2・3・4			1																
		日本語表現作文FⅡ	1・2・3・4			1																
		日本語総合FⅠ	1・2・3・4			1																
		日本語総合FⅡ	1・2・3・4			1																
		専門日本語FⅠ	1・2・3・4			1																
		専門日本語FⅡ	1・2・3・4			1																
		日本語会話FⅠ	1・2・3・4			1																
		日本語会話FⅡ	1・2・3・4			1																
	帰国学生対象科目	日本事情RⅠ	1・2・3・4			2																
		日本事情RⅡ	1・2・3・4			2																
		日本語読解R	1・2・3・4			1																
		日本語文法R	1・2・3・4			1																
		日本語表現作文R	1・2・3・4			1																
		日本語総合R	1・2・3・4			1																
		専門日本語R	1・2・3・4			1																
		日本語会話R	1・2・3・4			1																
履修単位数（教養科目）							10	8	6	6	2	0	0	0	11	8	7	4	0	2	0	0
							32単位								32単位							
履修総単位数							24	23	23	22	18	10	2	2	24	24	23	23	14	12	2	2
							124単位								124単位							

科目区分		授業科目の名称	③国際貢献・ボランティアに関わる仕事を志向するモデル								④日本文化の発信と国際交流に関わる仕事を志向するモデル								⑤ヒトとAIの関係を取りもち整える人材系の仕事を志向するモデル							
			1年次		2年次		3年次		4年次		1年次		2年次		3年次		4年次		1年次		2年次		3年次		4年次	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目	人文科学系	人間の探究																	○							
		文学から学ぶ									○															
		歴史に学ぶ		○																○						
		心理学			○								○								○					
	社会科学系	法学入門																								
		世界の政治									○															
		日本国憲法										○								○						
		経済学入門				○								○								○				
		経営学入門				○								○								○				
	自然・科学技術系	住まいとデザイン																								
		食品機能学		○								○								○						
		人体の構造と機能				○																○				
		公衆衛生学												○												
		科学技術教養																								
	英語系	基礎英語Ⅰa		●								●								●						
		基礎英語Ⅱa				●								●								●				
	外国語系	韓国語Ⅰ										○														
		韓国語Ⅱa												○												
		韓国語Ⅱb												○												
		韓国語Ⅲa													○											
		韓国語Ⅲb													○											
	日本語系	日本語表現Ⅰ		○								○								○						
		日本語表現Ⅱ				○								○								○				
		コミュニケーションⅠ																								
	数理・情報系	情報リテラシーⅠ		●								●								●						
		情報リテラシーⅡ				●								●								●				
	キャリアデザイン系	キャリアデザインⅠ		●								●								●						
		キャリアデザインⅡ				●								●								●				
		エンプロイメントデザインⅠ																		○						
		エンプロイメントデザインⅡ																								
		インターンシップ																								
		ビジネス実務																								
	スポーツ系	スポーツ科学実習Ⅰ		○								○								○						
		スポーツ科学実習Ⅱ																								
		スポーツと健康																								
	地域志向系	地域と私																								
		北河内を知る																								
		ソーシャル・イノベーション実務総論		○																						
		摂南大学PBLプロジェクトⅠ																								
		摂南大学PBLプロジェクトⅡ																		○						
		地域貢献実践演習				○																				
	共通基礎系	大学教養入門		○																						
		大学教養実践																								
		数的能力開発Ⅰ																				○				
		就職実践基礎				○																○				
		時事問題Ⅰ				○								○						○						
		時事問題Ⅱ				○																○				
	教養特別系	教養特別講義Ⅰ	○2単位								○2単位								○2単位							
		教養特別講義Ⅱ																								
		教養特別講義Ⅲ																								
		教養特別講義Ⅳ																								
		教養特別講義Ⅴ																								
	外国人留学生対象科目	日本事情FⅠ																								
		日本事情FⅡ																								
		日本語読解FⅠ																								
		日本語読解FⅡ																								
		日本語文法FⅠ																								
		日本語文法FⅡ																								
		日本語表現作文FⅠ																								
		日本語表現作文FⅡ																								
		日本語総合FⅠ																								
		日本語総合FⅡ																								
		専門日本語FⅠ																								
		専門日本語FⅡ																								
		日本語会話FⅠ																								
		日本語会話FⅡ																								
	帰国学生対象科目	日本事情RⅠ																								
		日本事情RⅡ																								
		日本語読解R																								
		日本語文法R																								
		日本語表現作文R																								
		日本語総合R																								
		専門日本語R																								
		日本語会話R																								
履修単位数（教養科目）			9	10	6	5	2	0	0	0	11	9	8	4	0	0	0	0	9	9	8	6	0	0	0	0
			32単位								32単位								32単位							
履修総単位数			24	24	24	20	16	12	2	2	23	24	24	21	16	12	2	2	24	23	24	23	14	12	2	2
			124単位								124単位								124単位							

科目区分		授業科目の名称	⑥地域社会における多文化の共生を目指す仕事を志向するモデル								⑦日本語教育現場での仕事を志向するモデル								⑧英語による高度なコミュニケーション能力を要する仕事を志向するモデル							
			1年次		2年次		3年次		4年次		1年次		2年次		3年次		4年次		1年次		2年次		3年次		4年次	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目	人文科学系	人間の探究									○															
		文学から学ぶ	○																○							
		歴史に学ぶ		○																○						
		心理学				○																				
	社会科学系	法学入門									○															
		世界の政治																								
		日本国憲法		○																○						
		経済学入門																				○				
		経営学入門																								
	自然・科学技術系	住まいとデザイン																								
		食品機能学										○								○						
		人体の構造と機能																								
		公衆衛生学			○																					
		科学技術教養					○																			
	英語系	基礎英語Ⅰa		●								●								●						
		基礎英語Ⅱa				●								●								●				
	外国語系	韓国語Ⅰ																								
		韓国語Ⅱa																								
		韓国語Ⅱb																								
		韓国語Ⅲa																								
		韓国語Ⅲb																								
	日本語系	日本語表現Ⅰ		○								○								○						
		日本語表現Ⅱ				○								○								○				
		コミュニケーションⅠ																								
	数理・情報系	情報リテラシーⅠ		●								●								●						
		情報リテラシーⅡ				●								●								●				
	キャリアデザイン系	キャリアデザインⅠ		●								●								●						
		キャリアデザインⅡ				●								●								●				
		エンプロイメントデザインⅠ																								
		エンプロイメントデザインⅡ																								
		インターンシップ																								
		ビジネス実務																								
	スポーツ系	スポーツ科学実習Ⅰ		○								○								○						
		スポーツ科学実習Ⅱ																								
		スポーツと健康																								
	地域志向系	地域と私										○														
		北河内を知る																		○						
		ソーシャル・イノベーション実務総論		○																						
		摂南大学PBLプロジェクトⅠ				○								○												
		摂南大学PBLプロジェクトⅡ																								
		地域貢献実践演習																								
	共通基礎系	大学教養入門	○									○														
		大学教養実践																		○						
		数的能力開発Ⅰ				○																				
		就職実践基礎				○																				
		時事問題Ⅰ										○										○				
		時事問題Ⅱ				○																				
	教養特別系	教養特別講義Ⅰ	○2単位								○2単位								○2単位							
		教養特別講義Ⅱ																								
		教養特別講義Ⅲ																								
		教養特別講義Ⅳ																								
		教養特別講義Ⅴ																								
	外国人留学生対象科目	日本事情FⅠ																								
		日本事情FⅡ																								
		日本語読解FⅠ																								
		日本語読解FⅡ																								
		日本語文法FⅠ																								
		日本語文法FⅡ																								
		日本語表現作文FⅠ																								
		日本語表現作文FⅡ																								
		日本語総合FⅠ																								
		日本語総合FⅡ																								
		専門日本語FⅠ																								
		専門日本語FⅡ																								
		日本語会話FⅠ																								
		日本語会話FⅡ																								
	帰国学生対象科目	日本事情RⅠ																								
		日本事情RⅡ																								
		日本語読解R																								
		日本語文法R																								
		日本語表現作文R																								
		日本語総合R																								
		専門日本語R																								
		日本語会話R																								
履修単位数（教養科目）			10	10	7	3	2	0	0	0	15	8	5	4	0	0	0	0	10	14	6	2	0	0	0	0
			32単位								32単位								32単位							
履修総単位数			23	24	23	24	16	10	2	2	24	23	23	19	18	10	5	2	24	23	21	16	14	18	4	4
			124単位								124単位								124単位							

※教養特別講義は1年次前期、実習・演習科目は3年次後期で履修するとして算定

■3年次編入後の履修モデル

（専門科目40単位と教養科目20単位の計60単位を読替認定と仮定）

国際学部　国際学科

●：必修科目　◇：選択必修科目　○：選択科目

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択必修	単位数 選択	①新時代のメディアに関わる仕事を志向するモデル 3年次 前期	①新時代のメディアに関わる仕事を志向するモデル 3年次 後期	①新時代のメディアに関わる仕事を志向するモデル 4年次 前期	①新時代のメディアに関わる仕事を志向するモデル 4年次 後期	②国際社会と地域をつなぐ仕事を志向するモデル 3年次 前期	②国際社会と地域をつなぐ仕事を志向するモデル 3年次 後期	②国際社会と地域をつなぐ仕事を志向するモデル 4年次 前期	②国際社会と地域をつなぐ仕事を志向するモデル 4年次 後期	③国際貢献・ボランティアに関わる仕事を志向するモデル 3年次 前期	③国際貢献・ボランティアに関わる仕事を志向するモデル 3年次 後期	③国際貢献・ボランティアに関わる仕事を志向するモデル 4年次 前期	③国際貢献・ボランティアに関わる仕事を志向するモデル 4年次 後期	④日本文化の発信と国際交流に関わる仕事を志向するモデル 3年次 前期	④日本文化の発信と国際交流に関わる仕事を志向するモデル 3年次 後期	④日本文化の発信と国際交流に関わる仕事を志向するモデル 4年次 前期	④日本文化の発信と国際交流に関わる仕事を志向するモデル 4年次 後期	⑤ヒトとAIの関係を取りもち整える人材系の仕事を志向するモデル 3年次 前期	⑤ヒトとAIの関係を取りもち整える人材系の仕事を志向するモデル 3年次 後期	⑤ヒトとAIの関係を取りもち整える人材系の仕事を志向するモデル 4年次 前期	⑤ヒトとAIの関係を取りもち整える人材系の仕事を志向するモデル 4年次 後期	⑥地域社会における多文化の共生を目指す仕事を志向するモデル 3年次 前期	⑥地域社会における多文化の共生を目指す仕事を志向するモデル 3年次 後期	⑥地域社会における多文化の共生を目指す仕事を志向するモデル 4年次 前期	⑥地域社会における多文化の共生を目指す仕事を志向するモデル 4年次 後期	⑦日本語教育現場での仕事を志向するモデル 3年次 前期	⑦日本語教育現場での仕事を志向するモデル 3年次 後期	⑦日本語教育現場での仕事を志向するモデル 4年次 前期	⑦日本語教育現場での仕事を志向するモデル 4年次 後期	⑧英語による高度なコミュニケーション能力を要する仕事を志向するモデル 3年次 前期	⑧英語による高度なコミュニケーション能力を要する仕事を志向するモデル 3年次 後期	⑧英語による高度なコミュニケーション能力を要する仕事を志向するモデル 4年次 前期	⑧英語による高度なコミュニケーション能力を要する仕事を志向するモデル 4年次 後期
協働学習プロジェクト科目	文化構想領域	プロジェクト科目	表象と感性プロジェクト	2		2		◇																											
			歴史学プロジェクト	2		2						◇																							
			地理学プロジェクト	2		2										◇																			
			比較文化プロジェクト	2		2														◇															
			人間存在論プロジェクト	2		2																		◇											
			都市と周縁プロジェクト	2		2																						◇				◇			
			国際社会と日本語プロジェクト	2		2																								◇					
		基幹科目	表象文化論	2		2		◇												◇															
			地域と歴史	2		2						◇				◇																			
			環境と社会	2		2						◇				◇																			
			思想と文化	2		2		◇												◇															
			テクノロジーと人間	2		2																		◇				◇				◇			
			異文化の理解	2		2																		◇				◇					◇		
			多文化社会と日本語	2		2																										◇			
		接続科目	英語圏異文化交流論	2		2		◇																									◇		
			英語圏比較文化論	2		2		◇																									◇		
			中国語と生活文化	2		2						◇												◇											
			中国語圏の言語文化	2		2						◇												◇											
			スペインの言語と文化	2		2										◇												◇							
			ラテンアメリカの言語と文化	2		2										◇												◇							
			インドネシア語と生活文化	2		2														◇												◇			
			インドネシア語と現代文化	2		2														◇												◇			
	国際共生領域	プロジェクト科目	地域研究プロジェクト（英語と諸地域）	2		2			◇																								◇		
			地域研究プロジェクト（東アジア世界）	2		2							◇												◇										
			地域研究プロジェクト（スペイン語と諸地域）	2		2											◇												◇						
			地域研究プロジェクト（東南アジア世界）	2		2															◇										◇				
			海外特別プロジェクトⅠ	2		2																													
		基幹科目	グローバルスタディーズ（英語と諸地域）	2		2			◇																								◇		
			グローバルスタディーズ（東アジア世界）	2		2							◇												◇										
			グローバルスタディーズ（スペイン語と諸地域）	2		2											◇												◇						
			グローバルスタディーズ（東南アジア世界）	2		2															◇										◇				
		接続科目	英語で考える環境問題	2		2			◇																								◇		
			英語で考える社会問題	2		2			◇																								◇		
			中国語を通して見る世界	2		2							◇												◇										
			中国語圏の地域と共生	2		2							◇												◇										
			スペインから世界を見る	2		2											◇												◇						
			ラテンアメリカから世界を見る	2		2											◇												◇						
			インドネシア語で世界を知る	2		2															◇										◇				
			マレー語圏の地域を知る	2		2															◇										◇				
	社会協創領域	プロジェクト科目	言語コミュニケーションプロジェクト	3		2																											◇		◇
			メディアと現代社会プロジェクト	3		2				◇																									
			マイノリティ研究プロジェクト	3		2																													
			地域研究・国際政治プロジェクト	3		2								◇																					
			地域とビジネスプロジェクト	3		2																◇													
			国際貢献・ボランティアプロジェクト	3		2												◇																	
			海外特別プロジェクトⅡ	3		2																													
		基幹科目	ことばと社会	3		2				◇																								◇	
			メディア文化論	3		2				◇																									
			ジェンダーとマイノリティ	3		2								◇																					
			比較政治学	3		2								◇																					
			国際ビジネス論	3		2												◇																	
			国際貢献論	3		2												◇																	
		接続科目	Studies in Media and Communication	3		2				◇																								◇	
			Studies in Hospitality and Tourism	3		2				◇																								◇	
			中国語で読み解く地域社会	3		2								◇																					
			中国語圏から社会を考える	3		2								◇																					
			スペイン語を通して学ぶヨーロッパ社会	3		2												◇																	
			スペイン語を通して学ぶラテンアメリカ社会	3		2												◇																	
			インドネシア語で考える現代社会	3		2														◇															
			マレー語で考える国際社会	3		2														◇															
	実習・演習科目		課題解決型ワークショップ	3		2		◇ 2単位				◇ 2単位				◇ 2単位				◇ 2単位				◇ 2単位				◇ 2単位				◇ 2単位			
			ホスピタリティ実習演習	3		2																													
			海外インターンシップ	①-②-③-④		2																													
			海外実習	①-②-③-④		2																													
			体験型特別実習	①-②-③-④		2																													
	地域文化科目		世界を学ぶ	1	2																														
			日本を学ぶ	1	2																														
			エリアスタディーズ　北アメリカ	1			2																												
			エリアスタディーズ　ラテンアメリカ	1			2																												
			エリアスタディーズ　東アジア	1			2																												
			エリアスタディーズ　西アジア・南アジア	1			2																												
			エリアスタディーズ　東南アジア	1			2																												
			エリアスタディーズ　アフリカ	1			2																												
			エリアスタディーズ　ヨーロッパ	1			2																												
			エリアスタディーズ　オセアニア	1			2																												

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			①新時代のメディアに関わる仕事を志向するモデル				②国際社会と地域をつなぐ仕事を志向するモデル				③国際貢献・ボランティアに関わる仕事を志向するモデル				④日本文化の発信と国際交流に関わる仕事を志向するモデル				⑤ヒトとAIの関係を取りもち整える人材系の仕事を志向するモデル				⑥地域社会における多文化の共生を目指す仕事を志向するモデル				⑦日本語教育現場での仕事を志向するモデル				⑧英語による高度なコミュニケーション能力を要する仕事を志向するモデル			
					必修	選択必修	選択	3年次		4年次		3年次		4年次		3年次		4年次		3年次		4年次		3年次		4年次		3年次		4年次		3年次		4年次		3年次		4年次	
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門科目	文化社会科目	一般学芸科目	共同体論	1			2													○																			
			多文化共生論	1			2					○												○															
			風土と地理	1			2									○												○											
			国際関係論	1			2																																
			国際社会と経済	2			2																																
			メディアリテラシー論	2			2																																
			現代社会論	2			2																																
			地域と観光	2			2																																
			生物と環境	3			2																		○														
			ナショナリズム論	3			2						○				○				○								○										
			視覚文化論	3			2						○				○				○				○				○										
			Studies in Popular Culture	3			2		○																														○
			Studies in Language and Society	3			2		○																														○
		言語学芸科目	音声学	1			2																																
			英語学概論	1			2																																
			言語学	1			2																																
			日本語史概説	1			2																												○				
			英語意味論・語用論	2			2	○																															
			日本語音韻論	2			2																														○			
			英語構造論	2			2		○																															
			日本語語彙論	3			2																														○			
			日本語文法論	3			2																															○		
			日本の文学	2			2																																
			中国の文学	2			2																																
			英語圏の文学	3			2																																○
		エアライン・ホスピタリティ科目	ホテルビジネス論	2			2																																
			ホスピタリティ基礎論	2			2																																
			ホスピタリティスキル論	3			2																																
			エアラインサービス論	2			2																																
			エアラインビジネス論	3			2																																
		学芸員科目	ミュージアムへの招待	1			2																																
			ミュージアムコレクション論	2			2																																
			博物館資料保存論	2			2																																
			ディスプレイ論	2			2																																
			生涯学習論	3			2																																
			ミュージアムマネジメント論	3			2																																
			博物館情報・メディア論	3			2																																
			博物館教育論	3			2																																
			博物館実習	4			3																																
		日本語教員科目	日本語教授法Ⅰ	3			2																													○			
			日本語教授法Ⅱ	3			2																														○		
			日本語教授法Ⅲ	3			2																														○		
			日本語教育実習演習	4			3																																○
		英語基礎科目	Speaking & Writing a	1			1																																
			Reading a	1	1																																		
			TOEIC a	1			1																																
			Communicative English Grammar	1			1																																
			Speaking & Writing b	1			1																																
			Reading b	1	1																																		
			TOEIC b	1			1																																
			Drama	1			1																																
			Japanese Society and Culture	2	1																																		
			Academic Reading & Listening	2			1																																
			Academic Writing Workshop	2			1																																
			Debate	2			1																																
			Presentation	2			1																																
		地域言語 英語	Topic Studies Ⅰa	1			1																																
			Topic Studies Ⅰb	1			1																																
			Discussion a	2			1																																
			Topic Studies Ⅱa	2			1																																
			Discussion b	2			1																																
			Topic Studies Ⅱb	2			1																																
			Advanced Academic Writing Workshop a	3			2																															○		
			Lecture a	3			2																															○		
			Film Making	3			2	○																																
			Business English a	3			2	○																																
			Topic Studies Ⅲa	3			2	○																																
			Advanced Academic Writing Workshop b	3			2																																○
			Lecture b	3			2																																○
			Business English b	3			2																																○
			Topic Studies Ⅲb	3			2																																
			Comprehensive Studies a	4			2																															○	
			Comprehensive Studies b	4			2																																○
		諸言語	諸言語輪講	1	1																																		

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択必修	単位数 選択	①新時代のメディアに関わる仕事を志向するモデル				②国際社会と地域をつなぐ仕事を志向するモデル				③国際貢献・ボランティアに関わる仕事を志向するモデル				④日本文化の発信と国際交流に関わる仕事を志向するモデル				⑤ヒトとAIの関係を取りもち整える人材系の仕事を志向するモデル				⑥地域社会における多文化の共生を目指す仕事を志向するモデル				⑦日本語教育現場での仕事を志向するモデル				⑧英語による高度なコミュニケーション能力を要する仕事を志向するモデル			
								3年次		4年次		3年次		4年次		3年次		4年次		3年次		4年次		3年次		4年次		3年次		4年次		3年次		4年次		3年次		4年次	
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
	言語科目	中国語	中国語で読み解くⅠ	1		1																																	
			中国語で表現するⅠ	1		1																																	
			中国語で会話するⅠ	1		1																																	
			中国語で読み解くⅡ	2			1					○												○															
			中国語で表現するⅡ	2			1					○												○															
			中国語で会話するⅡ	2			1					○												○															
			中国語で読み解くⅢ	2			1						○												○														
			中国語で表現するⅢ	2			1						○												○														
			中国語で会話するⅢ	2			1						○												○														
			中国語プレゼンテーション	3			2							○												○													
		スペイン語	スペイン語文法Ⅰ	1		1																																	
			スペイン語表現	1		1																																	
			スペイン語会話Ⅰ	1		1																																	
			スペイン語文法Ⅱ	2			1									○														○									
			スペイン語読解	2			1									○														○									
			スペイン語会話Ⅱ	2			1									○														○									
			スペイン語圏社会購読（南欧）	2			1										○														○								
			スペイン語圏社会購読（ラテンアメリカ）	2			1										○														○								
			スペイン語文章構成	2			1										○														○								
			スペイン語プレゼンテーション	3			2											○														○							
		インドネシア語・マレー語	インドネシア語文法	1		1																																	
			インドネシア語表現Ⅰ	1		1																																	
			インドネシア語会話Ⅰ	1		1																																	
			総合インドネシア語	2			1																	○										○					
			インドネシア語表現Ⅱ	2			1																	○										○					
			インドネシア語会話Ⅱ	2			1																	○										○					
			総合マレー語	2			1																		○										○				
			実践インドネシア語	2			1																		○										○				
			旅行インドネシア語	2			1																		○										○				
			インドネシア語・マレー語プレゼンテーション	3			2																			○													
	ゼミ・卒業研究		初年次ゼミナール	1	2																																		
			基礎ゼミナール	1	2																																		
			基礎演習Ⅰ	2	2																																		
			基礎演習Ⅱ	2	2																																		
			文化演習Ⅰ	3	2			●				●				●				●				●				●				●				●			
			文化演習Ⅱ	3	2				●				●				●				●				●				●				●				●		
			卒業研究Ⅰ	4	2					●				●				●				●				●				●				●				●	
			卒業研究Ⅱ	4	2						●				●				●				●				●				●				●				●
履修単位数（専門科目）								20	18	12	2	17	19	14	2	17	19	14	2	17	19	14	2	17	19	14	2	17	19	14	2	17	21	19	2	16	22	12	10
								52単位				52単位				52単位				52単位				52単位				52単位				59単位				60単位			

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択必修	単位数 選択	①新時代のメディアに関わる仕事を志向するモデル 3年次 前期	①新時代のメディアに関わる仕事を志向するモデル 3年次 後期	①新時代のメディアに関わる仕事を志向するモデル 4年次 前期	①新時代のメディアに関わる仕事を志向するモデル 4年次 後期	②国際社会と地域をつなぐ仕事を志向するモデル 3年次 前期	②国際社会と地域をつなぐ仕事を志向するモデル 3年次 後期	②国際社会と地域をつなぐ仕事を志向するモデル 4年次 前期	②国際社会と地域をつなぐ仕事を志向するモデル 4年次 後期	③国際貢献・ボランティアに関わる仕事を志向するモデル 3年次 前期	③国際貢献・ボランティアに関わる仕事を志向するモデル 3年次 後期	③国際貢献・ボランティアに関わる仕事を志向するモデル 4年次 前期	③国際貢献・ボランティアに関わる仕事を志向するモデル 4年次 後期	④日本文化の発信と国際交流に関わる仕事を志向するモデル 3年次 前期	④日本文化の発信と国際交流に関わる仕事を志向するモデル 3年次 後期	④日本文化の発信と国際交流に関わる仕事を志向するモデル 4年次 前期	④日本文化の発信と国際交流に関わる仕事を志向するモデル 4年次 後期	⑤ヒトとAIの関係を取りもち整える人材系の仕事を志向するモデル 3年次 前期	⑤ヒトとAIの関係を取りもち整える人材系の仕事を志向するモデル 3年次 後期	⑤ヒトとAIの関係を取りもち整える人材系の仕事を志向するモデル 4年次 前期	⑤ヒトとAIの関係を取りもち整える人材系の仕事を志向するモデル 4年次 後期	⑥地域社会における多文化の共生を目指す仕事を志向するモデル 3年次 前期	⑥地域社会における多文化の共生を目指す仕事を志向するモデル 3年次 後期	⑥地域社会における多文化の共生を目指す仕事を志向するモデル 4年次 前期	⑥地域社会における多文化の共生を目指す仕事を志向するモデル 4年次 後期	⑦日本語教育現場での仕事を志向するモデル 3年次 前期	⑦日本語教育現場での仕事を志向するモデル 3年次 後期	⑦日本語教育現場での仕事を志向するモデル 4年次 前期	⑦日本語教育現場での仕事を志向するモデル 4年次 後期	⑧英語による高度なコミュニケーション能力を要する仕事を志向するモデル 3年次 前期	⑧英語による高度なコミュニケーション能力を要する仕事を志向するモデル 3年次 後期	⑧英語による高度なコミュニケーション能力を要する仕事を志向するモデル 4年次 前期	⑧英語による高度なコミュニケーション能力を要する仕事を志向するモデル 4年次 後期
教養科目	人文科学系	人間の探究	1			2																	○													
		文学から学ぶ	1			2													○																	
		歴史に学ぶ	1			2						○														○									
		心理学	2			2	○								○																○					
	社会科学系	法学入門	1			2													○														○			
		世界の政治	1			2					○												○													
		日本国憲法	1			2										○																○				
		経済学入門	2			2	○																				○									
		経営学入門	2			2																														
	自然・科学技術系	住まいとデザイン	1			2									○																		○			
		食品機能学	1			2		○												○				○												
		人体の構造と機能	2			2					○																○									
		公衆衛生学	2			2																											○			
		科学技術教養	3			2																														
	英語系	基礎英語Ⅰa	1	1																																
		基礎英語Ⅱa	1	1																																
	外国語系	韓国語Ⅰ	1			1																														
		韓国語Ⅱa	2			1																														
		韓国語Ⅱb	2			1																														
		韓国語Ⅲa	2			1																														
		韓国語Ⅲb	2			1																														
	日本語系	日本語表現Ⅰ	1			1																														
		日本語表現Ⅱ	1			1																														
		コミュニケーションⅠ	2			1																														
	数理・情報系	情報リテラシーⅠ	1	1																																
		情報リテラシーⅡ	1	1																																
	キャリアデザイン系	キャリアデザインⅠ	1	1																																
		キャリアデザインⅡ	1	1																																
		エンプロイメントデザインⅠ	1			1																														
		エンプロイメントデザインⅡ	2			1																														
		インターンシップ	3			2																														
		ビジネス実務	3			2																														
	スポーツ系	スポーツ科学実習Ⅰ	1			1																														
		スポーツ科学実習Ⅱ	1			1																														
		スポーツと健康	2			2																														
	地域志向系	地域と私	1			2																														
		北河内を知る	1			2																														
		ソーシャル・イノベーション実務総論	1			2																														
		摂南大学PBLプロジェクトⅠ	2			2																														
		摂南大学PBLプロジェクトⅡ	2			2																														
		地域貢献実践演習	3			2																														
	共通基礎系	大学教養入門	1			2																														
		大学教養実践	1			2																														
		数的能力開発Ⅰ	2			1																														
		就職実践基礎	2			1																														
		時事問題Ⅰ	2			2	○				○				○				○				○				○				○				○	
		時事問題Ⅱ	2			2		○				○				○				○				○				○				○				
	教養特別系	教養特別講義Ⅰ	1-2-3-4			2	○2単位				○2単位				○2単位				○2単位				○2単位				○2単位				○2単位				
		教養特別講義Ⅱ	1-2-3-4			2																														
		教養特別講義Ⅲ	1-2-3-4			2																														
		教養特別講義Ⅳ	1-2-3-4			2																														
		教養特別講義Ⅴ	1-2-3-4			2																														
	外国人留学生対象科目	日本事情FⅠ	1-2-3-4			2																														
		日本事情FⅡ	1-2-3-4			2																														
		日本語読解FⅠ	1-2-3-4			1																														
		日本語読解FⅡ	1-2-3-4			1																														
		日本語文法FⅠ	1-2-3-4			1																														
		日本語文法FⅡ	1-2-3-4			1																														
		日本語表現作文FⅠ	1-2-3-4			1																														
		日本語表現作文FⅡ	1-2-3-4			1																														
		日本語総合FⅠ	1-2-3-4			1																														
		日本語総合FⅡ	1-2-3-4			1																														
		専門日本語FⅠ	1-2-3-4			1																														
		専門日本語FⅡ	1-2-3-4			1																														
		日本語会話FⅠ	1-2-3-4			1																														
		日本語会話FⅡ	1-2-3-4			1																														
	帰国学生対象科目	日本事情RⅠ	1-2-3-4			2																														
		日本事情RⅡ	1-2-3-4			2																														
		日本語読解R	1-2-3-4			1																														
		日本語文法R	1-2-3-4			1																														
		日本語表現作文R	1-2-3-4			1																														
		日本語総合R	1-2-3-4			1																														
		専門日本語R	1-2-3-4			1																														
		日本語会話R	1-2-3-4			1																														
履修単位数（教養科目）							6	4	2	0	6	4	2	0	6	4	2	0	6	4	2	0	6	4	2	0	6	4	2	0	6	4	2	0	8	2	2	0
							12単位				12単位				12単位				12単位				12単位				12単位				12単位				12単位			
履修総単位数							26	22	14	2	23	23	16	2	23	23	16	2	23	23	16	2	23	23	16	2	23	23	16	2	23	25	21	2	24	24	14	10
							64単位				64単位				64単位				64単位				64単位				64単位				71単位				72単位			

※教養特別講義は4年次前期、実習・演習科目は3年次後期で履修するとして算定

■主な実習予定先一覧

「ホスピタリティ実習演習」実習予定先一覧

施設名	所在地	受け入れ人数（人）
ANA ｸﾗｳﾝﾌﾟﾗｻﾞ ﾎﾃﾙ大阪	大阪市北区堂島浜 1-3-1	2～3
ANA 関西空港	大阪府泉南郡田尻町関西空港内	3～5
ANA 中部空港(体験実習 A)	愛知県常滑市セントレア 1-1	10

「海外インターンシップ」実習予定先一覧

施設名	所在地	受け入れ人数（人）
ホリデイツアーズ　ミクロネシア　グアム	353 Chalan San Antonio, Suite 204, Tamuning, Guam, USA	6
パシフィックスターリゾト＆スパ	627B Pale San Vitores Road, Tumon, Guam, USA	10

「海外実習」「海外留学」実習予定先一覧

施設名	所在地	受け入れ人数（人）
アラバマ大学（アメリカ）	Tuscaloosa, Alabama 35487 USA	制限なし
ブリティッシュコロンビア大学（カナダ）	Vancouver, British Columbia V6T 1Z4 Canada	制限なし
サイモンフレイザー大学（カナダ）	515 W Hastings St, Vancouver, British Columbia V6B 5K3 Canada	制限なし
カルガリー大学（カナダ）	2500 University Dr NW, Calgary, Alberta, T2N 1N4 Canada	１０名
フリンダース大学（オーストラリア）	Sturt Road, Bedford Park , South Australia 5042 Australia	制限なし
サザンクロス大学（オーストラリア）	Military Road, East Lismore, New South Wales 2480 Australia	制限なし
オークランド大学（オーストラリア）	SAP Centre, 67 Symonds Street, Auckland, New Zealand	制限なし
ロンドン大学（イギリス）	10 Thornhaugh St, Bloomsbury, London, UK	制限なし
サラゴサ大学（スペイン）	Pedro Cerbuna 12, Zaragoza, España	制限なし
アリカンテ大学（スペイン）	Carretera San Vicente del Raspeig s/n, San Vicente del Raspeig, Alicante, España	制限なし
グアナフアト大学（メキシコ）	Lascuráin de Retana No.5, Colonia Centro, Guanajuato, Estado de Guanajuato, México	制限なし
ストモ博士大学（インドネシア）	Jl. Semolowaru No.84, Menur Pumpungan, Kec. Sukolilo, Kota SBY, Jawa Timur	制限なし
マレーシア国民大学（マレーシア）	UKM Bangi, Selangor	制限なし

施設名	所在地	受け入れ人数（人）
パハン大学（マレーシア）	Lebuhraya Tun Razak, Kampung Melayu Gambang, Gambang, Pahang	制限なし
サンウェイ大学（マレーシア）	Jalan Universiti, Bandar Sunway, Petaling Jaya, Selangor	制限なし
CFF マレーシア（マレーシア）	Jalan Ulu Kimanis, Lingan Baru 89608, Papar, Sabah	制限なし
北京語言大学（中国）	中国北京市海淀区学院路 15 号	制限なし
北京交通大学（中国）	中国北京市海淀区上園村 3 号	制限なし
上海外国語大学（中国）	中国上海市大連西路 550 号	制限なし
臺灣師範大學國語教學中心（台湾）	台灣台北市大安區和平東路一段 129 號	制限なし
淡江大學華語中心（台湾）	台灣台北市大安區金華街 199 巷 5 號	制限なし

Memorandum of Understanding
Between Setsunan University and The University of Alabama

Setsunan University (hereinafter referred to as Setsunan) and The University of Alabama (hereinafter referred to as Alabama) agree upon the following items and regulations pertaining to the one or two-semester program, beginning with the Fall semester of 2002 and continuing for an indefinite period, thereafter.

1) The purpose of the program is to afford Setsunan students the opportunity to improve their English proficiency as well as to provide them with a better understanding of the culture of the people of the United States.

2) Alabama shall accept the program participants on their campus and allow them to enter English classes at Alabama English Language Institute appropriate to their English proficiency.
Additionally, should they meet the University level English proficiency and be granted admission to Alabama, the Setsunan students may enter the University full-time or pursue a combination of part-time English Language Institute and part-time University to equal full-time enrollment.
Setsunan shall notify Alabama of the exact number and names of participating students at least two months in advance of the Fall session of each academic year.

3) Participating students will need to apply for a student visa and Alabama shall prepare the necessary Immigration and Naturalization Service documents for them upon receipt of the appropriate program fee.

4) Participating students are responsible for the following items at their own expense:
The application fee, tuition, transportation, board fees, insurance fees, textbooks and other personal expenses such as telephone bills, linen, etc.
Each student must provide proof of health insurance.

5) Participating students shall be subject to state, county and local laws and comply with the regulations and rules of Alabama.

6) Participating students shall be responsible for their accidents, losses or liabilities during their stay at Alabama.

7) A copy of grade reports for participating students shall be sent directly to Setsunan. After careful assessment of each student's academic performance, credits earned at Alabama shall be incorporated in the student's graduation requirements.

8) This agreement and the program shall continue for an indefinite period but may be terminated by either Setsunan or Alabama by written notice of termination. Such notice must be received by the other party six months prior to the beginning of the Fall semester in which the termination is to become effective.

The University of Alabama

Andrew A. Sorensen
President

Nancy S. Barrett
Provost and Vice President
for Academic Affairs

B. Jane Stanfield
Executive Director
Capstone International Center

DATE: March 11, 2002

Setsunan University

Sennosuke Kuriyama
President

Kanju Haneishi
Dean
School Affairs Department

Jun'ichi Yamamoto
Dean
Faculty of International
Languages and Cultures

DATE: February 6, 2002

UNIVERSIDAD de ZARAGOZA

CONVENIO DE COOPERACIÓN

ENTRE

LA UNIVERSIDAD DE ZARAGOZA

(ESPAÑA)

Y

LA UNIVERSIDAD DE SETSUNAN

(JAPÓN)

De una parte, D.ª M.ª Pilar Zaragoza Fernández, Vicerrectora de Relaciones Institucionales y Comunicación de la Universidad de Zaragoza (España) quien actúa en nombre y representación de la misma en virtud de delegación conferida por Resolución rectoral de 10 de junio de 2008 (BOA nº 86 de 23 de junio), con domicilio social en C/ Pedro Cerbuna, n.º 12 de (50009) Zaragoza.

Y, de otra, el Sr. D. Mitsunori Imai Rector de la Universidad de Setsunan declara que la Universidad de Setsunan es una Institución privada que tiene, entre otros fines, impartir la educación superior a todos los sectores de la sociedad, formar profesionales de alta calidad humanística, científica y tecnológica, bajo las líneas marcadas por el gobierno de Japón, a través de su Secretaría de Educación.

CONSIDERANDO

Que ambas Instituciones se encuentran unidas por una comunidad de intereses y objetivos en el campo académico y cultural.

Que ambas Instituciones desean incrementar su propio desarrollo, para lo cual la colaboración internacional resulta muy eficaz.

Que es deseable establecer un mecanismo coordinador para concretar actuaciones y canalizar las soluciones administrativas y financieras exigidas por la cooperación.

Que el Rector es la autoridad ejecutiva de la Universidad y tendrá su representación legal, asimismo corresponde precisamente al Rector firmar los convenios, acuerdos y contratos que celebre la Universidad.

Que en tal virtud, el Dr. en Estudios Socioculturales Mitsunori Imai fue designado como Rector, según consta en el nombramiento que se le expidió en fecha 20 de octubre de 2007.

En ejercicio de esas atribuciones, la Universidad Setsunan, por conducto del Dr. en Estudios Socioculturales Mitsunori Imai, quien actúa como su Rector, acude a la celebración de este acto jurídico.

Que señala como domicilio legal el ubicado en Ikeda-nakamachi 17 – 8, Neyagawa, Osaka, Japón.

DECLARAN

Que, ambas Instituciones consideran conveniente acrecentar su vinculación académica y establecer y desarrollar sus relaciones dentro de un espíritu de cooperación y buen entendimiento, con el propósito de ofrecer a sus estudiantes los beneficios de un intercambio cultural y, por ello,

ACUERDAN

Establecer un convenio institucional de cooperación de acuerdo con las siguientes cláusulas:

Artículo primero. El propósito de este Acuerdo es proporcionar a los estudiantes de Setsunan la oportunidad de mejorar su manejo del idioma español y profundizar en su conocimiento y entendimiento de la cultura española. Este Acuerdo sólo está dirigido a los estudiantes de Setsunan. En caso de que surja la posibilidad de recibir en Setsunan a los alumnos de la Universidad de Zaragoza interesados en perfeccionar su manejo del idioma japonés se firmará un convenio aparte.

Artículo segundo. La Universidad de Zaragoza aceptará a los estudiantes de Setsunan en su Servicio de Cursos de Español como Lengua Extranjera y les permitirá participar en el curso anual u otros cursos más cortos que ofrece. El coste de la inscripción, las fechas y la duración de los cursos antes mencionadas deberán ser consultados directamente con Cursos de Español como Lengua Extranjera antes de realizar cualquier trámite.

Artículo tercero La Universidad de Setsunan informará a la Universidad de Zaragoza, a través de sus Cursos de Español, del número exacto y los nombres de los estudiantes que quieran participar en los cursos por lo menos dos (2) meses antes de empezar el curso. La decisión final sobre la admisión estará determinada por la Universidad de Zaragoza, a través de sus Cursos de Español.

. **Artículo cuarto:** Cada estudiante deberá poseer un pasaporte en regla y la visa adecuada para el período de su estancia, así como cumplir con todos los requisitos de migración para los estudiantes extranjeros en España. Una vez realizada la matrícula la Universidad de Zaragoza, a través de sus Cursos de Español, entregará la documentación reglamentaria con la que podrán solicitar la visa correspondiente.

Artículo quinto. La eventual devolución de pago por concepto de inscripciones se hará como marca la normativa del Servicio de Cursos de Español.

Artículo sexto. Las partes establecen que el coste del hospedaje y alimentación de los estudiantes correrán a cargo del estudiante. La Universidad de Zaragoza, a través de sus Cursos de Español, apoyará a los estudiantes de la Universidad de Setsunan para encontrar un alojamiento adecuado.

Artículo séptimo. Cada estudiante será responsable de cubrir sus gastos de transporte hasta y desde la Universidad de Zaragoza y todos sus gastos personales.

Artículo octavo. Los estudiantes de la Universidad de Setsunan serán responsables de contratar un seguro médico internacional por el período de su estancia en la Universidad de Zaragoza.

Artículo noveno. Los estudiantes de la Universidad de Setsunan estarán sujetos a los estatutos, leyes y normas de la Universidad de Zaragoza y a las leyes locales y nacionales de España.

Artículo décimo. Este Acuerdo será vigente por un periodo de cuatro (4) años a partir de su firma por los representantes de ambas instituciones. Podrá renovarse automáticamente por períodos adicionales de cuatro (4) años.
Si alguna de las partes desea terminar con el Acuerdo, deberá notificarlo por escrito a la otra institución con un (1) año de anticipación a la fecha de terminación.

Y, en prueba de conformidad con lo estipulado, se suscribe el presente acuerdo de cooperación en el lugar y fecha indicados.

En Zaragoza a 1 de octubre de 2008
PD/
LA VICERRECTORA DE RELACIONES INSTITUCIONALES Y COMUNICACIÓN
(Resolución Rectoral de 10-06-08 BOA de 23-06)

Mª PILAR ZARAGOZA FERNÁNDEZ

En Osaka a 24 de diciembre de 2008
EL RECTOR DE LA UNIVERSIDAD DE SETSUNAN

DR. MITSUNORI IMAI

NOTA KESEPAHAMAN
ANTARA
UNIVERSITAS DR. SOETOMO
DAN
UNIVERSITAS SETSUNAN

Universitas Setsunan (untuk selanjutnya disebut sebagai Setsunan) dan Universitas Dr.Soetomo (untuk selanjutnya disebut UNITOMO) telah mengadakan persetujuan dalam rangka kerjasama untuk mencapai hasil yang sebaik-baiknya bagi kedua lembaga dalam mengembangkan program Setsunan di Unitomo atas butir-butir di bawah ini :

1. Program ini bertujuan memberikan kesempatan pada mahasiswa Setsunan untuk memperbaiki kecakapan berbahasa Indonesia dan memberikan pemahaman yang lebih baik tentang budaya Indonesia.
2. Mahasiswa Setsunan diijinkan memasuki semua kelas bahasa Indonesia yang sesuai dengan tingkat kecakapan Bahasa Indonesia yang dimilikinya dan juga diijinkan menghadiri perkuliahan di kampus jika mereka memenuhi tingkat kecakapan Bahasa Indonesia yang sesuai.
3. Program studi dijadwalkan selama 14 (empat belas) minggu per semester.
4. Setsunan akan memberi UNITOMO jumlah dan nama mahasiswa Setsunan yang mengikuti program ini selambat-lambatnya dua bulan sebelum program dimulai.
5. UNITOMO akan membantu mahasiswa Setsunan untuk pengurusan visa dan menjamin keamanan tempat tinggalnya. Tetapi semua biaya dan tanggung jawab keuangan ditanggung oleh mahasiswa Setsunan.
6. Mahasiswa Setsunan bertanggung jawab atas butir-butir pembiayaan berikut : biaya pengurusan visa, uang kuliah, buku teks, biaya tempat tinggal, makanan, biaya asuransi, biaya telpon pribadi, dan kebutuhan-kebutuhan pribadi lainnya.
7. Mahasiswa Setsunan harus mentaati semua peraturan dan kebiasaan yang diterapkan UNITOMO dan lingkungan sekitar di tempat mereka tinggal.
8. Mahasiswa Setsunan harus bertanggung jawab atas biaya kecelakaan, kehilangan, atau hutang yang terjadi selama mereka berada di UNITOMO. UNITOMO akan berusaha sekuat mungkin menjamin keselamatan dan memberikan bantuan yang diperlukan ketika mereka menghadapi masalah.
9. UNITOMO akan memberikan catatan akademik kepada setiap mahasiswa Setsunan setelah mereka menyelesaikan programnya. Setelah penilaian untuk setiap catatan akademik mahasiswa diterima, maka angka kredit yang didapatkan di UNITOMO akan dimasukkan ke dalam syarat kelulusan mahasiswa.
10. Perjanjian dan program yang telah disetujui, secara otomatis akan berlanjut sampai Setsunan atau UNITOMO memberi informasi pada lembaga lain tentang berakhirnya program secara tertulis. Pemberitahuan harus diterima oleh lembaga lain 6 (enam) bulan sebelum program secara efektif dihentikan.

Surabaya, Indonesia
Tertanggal : 19 FEB 2009

ULUL ALBAB
Rektor Universitas Dr.Soetomo

Neyagawa, Jepang
Tertanggal : 2009. 2. 5

MITSUNORI IMAI
Rektor Universitas Setsunan

MEMORANDUM OF UNDERSTANDING
BETWEEN
DR. SOETOMO UNIVERSITY
AND
SETSUNAN UNIVERSITY

Setsunan University (hereafter referred to as Setsunan) and Dr. Soetomo University (hereafter referred to as UNITOMO) have agreed upon the following items to cooperate to achieve successful outcomes for both parties by developing Setsunan programs at UNITOMO as follows:

1. These programs aim at affording Setsunan students an opportunity to improve their Indonesian proficiency as well as to provide them with a better understanding of Indonesian culture.
2. Setsunan students shall be allowed to enter all Indonesian language classes appropriate to their Indonesian proficiency levels and also be allowed to attend lectures on campus if they meet the appropriate level of Indonesian proficiency.
3. The study programs will be in periods of 14 weeks per semester.
4. Setsunan shall notify UNITOMO of the exact number and names of the Setsunan students who attend the programs at least two months before their commencement in the programs.
5. UNITOMO shall help the Setsunan students to acquire the visa application and guarantee to secure their individual homestays. But the fees and any financial responsibility of these will be on the Setsunan students.
6. Setsunan students are responsible for the following items at their own expenses: visa application fee, tuition, textbooks, transportation, homestay fees, food, insurance fees, personal telephone bills, and other personal needs.
7. Setsunan students have to comply with the regulations and rules applicable to UNITOMO and the surroundings where they reside.
8. Setsunan students shall be responsible for the expenses of any accidents, losses or liabilities that happen to them during their stay in UNITOMO. UNITOMO shall make utmost efforts for their safety and provide necessary help to them in case they incur such problems.
9. UNITOMO shall provide each student and Setsunan with their academic record after the program is finished. After careful assessment of each student's academic

record, credits earned at UNITOMO shall be incorporated into the student's graduation requirements.

10. This agreement and the programs, having been agreed upon, shall automatically continue until either UNITOMO or Setsunan inform the other party of its termination by written notice. Such notice must be received by the other party six months prior to the beginning of the term in which the termination is to become effective.

Surabaya, Indonesia
Dated, 19 FEB 2009

ULUL ALBAB
Rector of Dr. Soetomo University

Neyagawa, Japan
Dated, 2009.2.5

Mitsunori IMAI
President of Setsunan University

北京语言大学与日本摄南大学汉语培训协议书

为促进中日双方的学术交流与教育合作，北京语言大学与日本摄南大学本着平等互利的精神，经过友好协商和认真讨论，就摄南大学学生到北京语言大学进修汉语一事达成如下协议：

一、摄南大学每年选派一定数量的学生到北京语言大学的汉语进修学院学习汉语及中国文化课程，期限短期为一个月，长期为一年或半年。

二、北京语言大学根据摄南大学选派学生的实际汉语水平以插班的方式将学生安排到不同的班级学习。

三、北京语言大学对摄南大学派遣来的学生在办理入境及居留手续等方面给予必要的协助。

四、北京语言大学将优先安排摄南大学派遣学生在校内居住。

五、摄南大学派遣学生在北京语言大学学习所发生的一切费用，包括报名费、学费、食宿费、交通费、保险费等均由学生自理。

六、摄南大学派遣学生在北京语言大学学习期间应遵守中国法律和北京语言大学的有关规章制度。

七、学习期间，摄南大学派遣学生如发生事故或损失，由当事人负一切责任。

八、北京语言大学在摄南大学派遣学生学习期满后负责将学生的成绩单以及有关学业证明寄送摄南大学作为摄南大学承认学生所修学分的凭证。

九、摄南大学派遣学生在留学期间不能中途退学就读北京语言大学。

十、本协议自签字之日起生效。有关本协议未涉及的事项，经北京语言大学和摄南大学双方协商后决定。

十一、本协议之内容，在北京语言大学和摄南大学双方取得共识的情况下，可随时进行修改。

十二、本协议不规定有效期。协议双方如无书面意见，本协议则自动延长。如一方希望终止协议，只需于希望终止日期的前六个月，向对方提交书面通知，便可终止本协议。

中华人民共和国
北京语言大学
校长

2010年11月5日

日本国
摄南大学
校长

2010年10月25日

○学校法人常翔学園就業規則

第1章　総則

(趣旨)

第1条　学校法人常翔学園(以下「学園」という)に勤務する専任の職員の服務規律および待遇に関する事項については、この就業規則(以下「規則」という)に定めるところによる。

2　特任の職員、嘱託の職員、客員の職員、非常勤の職員および臨時要員に関する就業規則は、別に定める。

3　広島国際大学に勤務する専任の職員の服務規律および待遇に関する事項については、広島国際大学就業規則に定める。

4　常翔啓光学園中学校・高等学校に勤務する専任の教育職員の服務規律および待遇に関する事項については、常翔啓光学園中学校・高等学校就業規則に定める。

(定義)

第2条　この規則において専任の職員(以下「職員」という)とは、教育職員、研究職員および技術職員(以下「教育系職員」という)、ならびに事務職員、医療職員、技能職員および用務員(以下「事務系職員」という)をいう。

(適用除外)

第3条　職員のうちつぎに掲げる者については、この規則に定める勤務時間、休憩時間および休日に関する規定を適用しない。

イ　学園が設置する学校の長

ロ　監視または断続的勤務に従事する者として労働基準監督署の許可を受けた者

(遵守義務)

第4条　職員は、この規則を遵守し、理事会の決定および理事長、学校長その他上長の職務上の指示および命令に従い、学園の秩序を維持するとともに、互いに協力してその職責を遂行し教育および研究の目的達成に努めなければならない。

第2章　任免

(試用期間)

第5条　新たに職員として採用された者には、6カ月の試用期間を置く。ただし、理事長が特に必要がないと認めた場合は、この限りでない。

2　前項の試用期間は、勤続期間に算入する。

3　試用期間中において、職員として適格性を欠くと認められたとき、理事長は理事会の議を経て雇用契約を解約することができる。

4　前項の解約が、採用後14日を超えて引き続き雇用されている者に対して行われるときは、30日前に予告するか30日分の平均賃金を支給する。

(休職)

第6条　職員がつぎの各号のいずれかに該当するとき、理事長は休職を命じることができる。

イ　つぎの期間、第23条の2に定める病気休暇を取得したとき

勤続3年以下の者　3カ月

勤続3年を超える者　6カ月

勤続5年を超える者　10カ月

勤続10年を超える者　12カ月

ロ　公職に就き業務の遂行に支障があると認められたとき

ハ　刑事事件に関し起訴されたとき

ニ　やむを得ない事情により休職を願い出て許可されたとき

ホ　やむを得ない業務上の都合があるとき

ヘ　業務遂行に支障があると認められたとき

2　病気休暇を取得した者が出勤し、同一または類似の原因により再び病気休暇を取得した場合において、その出勤期間が1年未満のときは、前後の病気休暇取得期間を通算する。

3　第1項ホ号およびヘ号の適用については、理事会の議を経るものとする。

4　第1項ホ号の適用については、当該職員が加入する労働組合の意見を聴くものとする。

(休職期間)

第7条　休職の期間は、つぎのとおりとする。

イ　前条第1項イ号の場合　1年以内(結核性疾患の場合は2年以内)。ただし、理事会は、傷病の回復状況その他の情状を考慮し、1年を限度として期間を延長することができる。

ロ　前条第1項ロ号の場合　休職理由が継続する期間

ハ　前条第1項ハ号の場合　休職理由が継続する期間

ニ　前条第1項ニ号の場合　休職を許可された期間

ホ　前条第1項ホ号の場合　1年以内

ヘ　前条第1項ヘ号の場合　1年以内

(休職期間中の身分等)

第8条　休職期間中は、職員としての身分を保有するが、職務に従事することはできない。

2　休職期間中の給与は、給与規定に定める。

3　休職期間は、退職年金規定その他特に定めるもののほか、勤続期間に算入しない。

(復職)

第9条　休職の理由が消滅したとき、理事長は、速やかに復職を命じる。ただし、第6条第1項ハ号に該当する場合は、復職を命じないことがある。

(退職)

第10条　職員がつぎの各号のいずれかに該当するときは、当然に退職するものとする。

イ　定年に達した年の年度末(3月31日)

ロ　死亡したとき

ハ　退職を願い出て受理されたとき

ニ　休職期間が満了しても復職を命じられない場合で、期間満了後30日を経過したとき。ただし、第6条第1項ホ号による休職の場合を除く。

(退職願)

第11条　職員は、退職しようとするとき、退職希望日の14日前までに理事長に退職願を提出しなければならない。

(定年)

第12条　定年年齢は、満64歳とする。

2　前項にかかわらず、別に定める基準に該当する者については、この規則に定める専任の職員以外の職員として、1年間、再雇用することができる。

(解雇)

第13条　職員がつぎの各号のいずれかに該当するとき、理事長は、理事会の議を経て30日前に予告するか30日分の平均賃金を支給して解雇することができる。

イ　勤務成績が悪く、職員としての適格性を欠くと認められたとき

ロ　心身の故障のため、業務に堪えないと認められたとき

ハ　やむを得ない業務上の都合があるとき

2　前項の適用については、あらかじめ当該職員が加入する労働組合の意見を聴くものとする。

(離職者の義務)

第14条　職員が退職するときまたは解雇されるときは、つぎに掲げることを守らなければならない。

イ　上長の指示に従い、速やかに業務上の書類とともに後任者に文書により事務引継ぎを行うこと

ロ　職員証明書、私立学校教職員共済加入者証その他求められた書類を速やかに返却すること

ハ　貸出図書その他学園の貸与物品または貸付金その他学園に対する債務を速やかに完済すること

2　退職し、または解雇された者は、職務上知り得た事項について秘密を守らなければならない。

(配置転換等)

第15条　理事長は、業務の都合により職種または勤務場所の変更を命じることができる。

第3章　勤務

(勤務時間)

第16条　事務職員および医療職員の所定勤務時間は、1日について7時間、1週間について38時間30分とする。

2　技能職員および用務員の所定勤務時間は、1週当たりの勤務時間が40時間を超えない範囲で毎年度当初に理事長が定める。

3　前2項にかかわらず、所定勤務時間は、毎月1日を基準日とする1カ月単位の変形労働時間制とし、1カ月ごとの勤務時間および各日の始業、終業時刻を事前に決定し通知する。

4　事務系職員の管理職(部長、室長、センター長および課長)には前3項を適用しない。

5　教育系職員の勤務時間は、別に定める専任教員の授業担当時間に関する規定による授業担当責任時間を含め、つぎのとおりとする。

イ　大阪工業大学　9時から17時

ロ　摂南大学　9時から17時

ハ　常翔学園高等学校および常翔学園中学校　8時30分から16時30分

6　前項にかかわらず、教育系職員は、学校長の承認を得て、授業担当など業務の都合により4週間を平均した1週当たりの実働時間が38時間30分を超えない範囲で勤務時間を変更することができる。

7　教育系職員は、毎年度勤務割表を学校長に提出し、承認を得なければならない。

8　学校長は、業務の都合により第3項および第5項に定める時間帯の始業および終業の時刻を変更することができる。

(校外研修日)

第17条　教育系職員が勤務の日に学外で研修しようとするとき、または第31条により承認を得た学外での兼職に従事しようとするときは、あらかじめ学校長に届け出なければならない。ただし、やむを得ない理由によりあらかじめ届け出ることができなかったときは、出勤簿の押印をもって事後に承認を求めることができる。

2　理事長は、授業に支障のない時期において事務系職員に出勤を要しない校外研修日を与えることができ、その適用については、事務系職員の校外研修日に関する内規に定める。

3　校外研修日は、勤務したものとみなす。

(休憩時間)

第18条　事務系職員の休憩時間は、11時30分から12時30分までとする。

2　教育系職員の休憩時間は、授業間隔時および昼食時を合計した1時間とする。

3　理事長は、業務の都合により第1項に定める時間帯の開始および終了時刻を変更することができる。

(休日)

第19条　職員の休日は、つぎのとおりとする。

イ　日曜日(法定休日)

ロ　国民の祝日に関する法律に規定する休日

ハ　12月29日から翌年1月3日まで

ニ　学園創立記念日(10月30日)

2　事務系職員については、2週のうち1回の土曜日を休日とする。

(休日振替)

第20条　上長は、業務の都合により、前条の休日をあらかじめ定めた他の日に振り替えることができる。

2　前項の振替を行うにあたっては、振替休日を指定し、前日までに当該職員に通知するものとする。

(時間外勤務および休日勤務)

第21条　上長は、業務の都合により勤務時間を超え、または休日に勤務を命じることができる。

2　前項の時間外勤務および休日勤務において、労働組合と協定し労働基準監督署に届け出たときは、1日の実働時間が8時間を超える時間外勤務、または労働基準法第35条に定める休日の勤

務を命じることができる。

(災害対策等による勤務)

第22条　災害その他避けることのできない理由によって臨時の必要があるとき、理事長、学校長は、職員の勤務時間を延長し、または休日に勤務させることがある。

(年次有給休暇)

第23条　採用初年度の職員には、採用された月によって、当該年度内につぎのとおり年次有給休暇(以下「年休」という)を与える。1月以降に採用された職員には、その年度内に年休を与えない。

4月～9月採用　10日

10月～12月採用　5日

2　採用2年度目以降の職員には、前年度における勤務月数により当該年度内につぎのとおり年休を与える。

11カ月以上　20日

11カ月未満　19日

10カ月未満　18日

9カ月未満　17日

8カ月未満　16日

7カ月未満　15日

6カ月未満　14日

5カ月未満　13日

4カ月未満　12日

3　前項の勤務月数の算出において、第24条第1項、第26条、第26条の2および第42条に該当する場合は、出勤したものとみなす。

4　当該年度中受けることができなかった年休は、1年に限り20日を限度として次年度に繰り越すことができる。

5　年休の単位は1日または半日とし、半日年休は、当該出勤日の前半または後半に必要勤務時間の半分の時間について勤務する。

6　年休を受けようとするときは、あらかじめ所定の様式により上長に請求しなければならない。ただし、やむを得ない理由によりあらかじめ請求できなかったときは、その理由を付して事後に承認を求めることができる。

7　職員が請求した時季に年休を与えることが業務の正常な運営を妨げるときは、上長は、他の時季に変更させることができる。

(病気休暇)

第23条の2　職員が業務上によらない傷病のため連続して7日以上の療養を必要とし、勤務しないことがやむを得ないと認められるときは、第6条に定める期間の範囲内で、必要最小限度の期間について病気休暇を与える。

2　病気休暇を受けようとするときは、あらかじめ所定の様式に病気であることを証明する医師

の診断書を添えて理事長に請求しなければならない。ただし、やむを得ない理由によりあらかじめ請求できなかったときは、その理由を付して事後に請求することができる。

3　病気休暇から復職する際には、医師の診断書を添えて職場復帰願を提出するものとする。

4　病気休暇期間中の給与は、給与規定に定める。

(復職支援)

第23条の3　前条の病気休暇による療養期間が1カ月を超えたとき、必要に応じて理事長は円滑な職場復帰を支援するための措置(以下「復職支援」という)を講じることができる。

2　復職支援に関する手続その他必要な事項については、復職支援に関する取扱要項に定める。

(産前産後休暇)

第23条の4　職員が出産するとき、法令に従いつぎのとおり産前産後休暇を与える。

イ　女性職員が6週間(多胎妊娠の場合は14週間)以内に出産予定のとき　出産の日までの申し出た期間

ロ　女性職員が出産したとき　出産の日の翌日から8週間を経過する日までの期間(産後6週間を経過した者が就業を申し出た場合において医師が支障がないと認めた業務に就く期間を除く)

2　産前産後休暇の期間は、勤続期間に算入し、給与は給与規定に定める。

(特別休暇)

第24条　職員には、つぎに掲げる特別休暇を与える。

イ　慶弔休暇

a　職員の父母、子または配偶者が死亡したとき　5日間のうち必要な日数

b　職員の祖父母、兄弟姉妹または配偶者の父母が死亡したとき　3日間のうち必要な日数

c　職員が結婚するとき　挙式の日を含む連続する5日間のうち必要な日数

ロ　生理休暇

女性職員で生理日の就業が著しく困難なとき　必要日数

ハ　削除

ニ　通院休暇

女性職員が、母子保健法の規定による保健指導または健康診査を受けるとき　1回につき1日以内で必要と認める時間

妊娠23週まで　4週に1回

妊娠24週から35週まで　2週に1回

妊娠36週から出産まで　1週に1回

ただし、医師等の特別の指示があった場合は、この限りでない。

ホ　看護休暇

小学校就学の始期に達するまでの子を養育する職員が、病気または負傷したその子の世話をするとき、以下の範囲で申し出た日数

a　小学校就学前の子が1人であれば年5日

b　小学校就学前の子が2人以上であれば年10日

ヘ　介護休暇

要介護状態にある家族の介護をする職員が、その家族の世話をするとき、以下の範囲で申し出た日数

a　要介護状態の家族が1人であれば年5日

b　要介護状態の家族が2人以上であれば年10日

ト　災害休暇

地震、水害、火災その他の災害または交通機関の事故等により出勤することが著しく困難であると認められるとき　理事長が必要と認める期間

チ　公用休暇

a　選挙権その他の公民としての権利を行使するとき　理事長が必要と認める期間

b　裁判員、証人、鑑定人、参考人等として官公署等へ出頭するとき　理事長が必要と認める期間

リ　永年勤続休暇

第35条イ号に基づく表彰を受けたとき

15年勤続表彰　3日以内

30年勤続表彰　5日以内

2　特別休暇を受けようとするときは、つぎのとおりとする。

イ　あらかじめ所定の様式により理事長に請求しなければならない。ただし、やむを得ない理由によりあらかじめ請求できなかったときは、その理由を付して事後に承認を求めることができる。

ロ　前項の特別休暇のうち、慶弔休暇、生理休暇、看護休暇、介護休暇、災害休暇および公用休暇については、半日単位で取得できるものとし、半日休暇の場合は、当該出勤日の前半または後半に必要勤務時間の半分の時間について勤務する。

3　前項により特別休暇の請求があった場合、理事長は、必要により証明書類の提出を求めることができる。

(特別休暇期間中の給与等)

第25条　特別休暇の期間は、勤続期間に算入する。

2　特別休暇の期間は、給与規定により特に定められた場合を除き、給与を支給する。

(育児休業)

第26条　職員の育児休業、育児のための所定外勤務の免除、育児短時間勤務ならびに時間外勤務および深夜業の制限等については、育児休業規定に定める。

(介護休業)

第26条の2　職員の介護休業、介護短時間勤務、所定外勤務の免除ならびに時間外勤務および深夜業の制限等については、介護休業規定に定める。

(妊娠中および出産後の就業)

第27条　妊娠中の職員から申出があったときは、他の軽易な業務に転換させる。

2　妊娠中の職員から申出があったときは、時間外勤務および休日勤務をさせない。

3　妊娠中および出産後1年以内の女性職員が、母子保健法の規定に基づく保健指導または健康診査に基づく指導事項を守るため、申出があったときは、第16条第3項または第5項に定める勤務時間帯の始業および終業の時刻を変更するなど必要な措置を講じるものとする。

第4章　服務規律

(出退勤)

第28条　職員は、出退勤の際、遅滞なく所定の方法により出退勤の事実を記録しなければならない。

(欠勤)

第29条　職員が欠勤しようとするときは、あらかじめ理事長に欠勤届を提出しなければならない。ただし、やむを得ない事情によりあらかじめ提出できなかったときは、遅滞なく提出しなければならない。

(身上の届出)

第30条　職員は、履歴事項、住所、家族の異動等身上に関する異動があったときは、速やかに理事長に届けなければならない。

(兼職)

第31条　職員は、学園以外の職務に従事しようとするときは、兼職に関する取扱要項の定めるところにより、あらかじめ学校長の承認を得なければならない。

2　教育系職員が、非常勤講師として学園以外の職務に従事するときは、学園が設置する各学校での授業担当時間数の3分の1を超えてはならない。

(禁止事項)

第32条　職員は、つぎに掲げる行為をしてはならない。

イ　職務上の地位を利用して金品を受領し、または自己の利益を図ること

ロ　職務上の権限を越えて、または権限を濫用して、専断的な行為をすること

ハ　職務上知り得た秘密を漏らし、または学園の不利益となるおそれのある事項を他に告げること

ニ　その他、学園の行動規範に反する行為をすること

第5章　給与、退職金

(給与)

第33条　給与については、給与規定に定める。

(退職金)

第34条　2004年3月31日以前に採用された者に適用する退職金は、退職年金規定に定める。

2　2004年4月1日以降に採用された者に適用する退職金は、退職金規定に定める。

第6章　表彰、懲戒

(表彰)

第35条　職員がつぎの各号のいずれかに該当するとき、理事長は、表彰することができる。

イ　永年誠実に勤務したとき

ロ　業務に誠実で他の模範となるとき

ハ　業務で功績のあったとき
ニ　国家または社会的に功績があり、学園の名誉となるべき行為のあったとき
ホ　学園の災害を未然に防止し、または非常の際功労のあったとき
ヘ　その他前各号に準ずる表彰に値する行為のあったとき

2　前項の施行につき必要な事項は、表彰内規に定める。

(懲戒の理由)

第36条　職員がつぎの各号のいずれかに該当するとき、理事長は、懲戒処分をすることができる。
イ　正当な理由なく無届け欠勤が14日以上に及んだとき
ロ　出勤が常でなく勤務成績が著しく悪いとき
ハ　重要な履歴を偽ったとき
ニ　第31条に定める承認を受けずに学園以外における職務に従事したとき
ホ　素行不良で、職員としての体面を汚し、または刑事上の罪に該当するような行為をしたとき
ヘ　しばしば懲戒処分を受けたにもかかわらず、改めないとき
ト　学園の経営、教育方針に反した行為により、学園の名誉を傷つけ、または学園に迷惑を及ぼしたとき
チ　人権侵害の防止に関する規定第2条に定める人権侵害行為により、職場の秩序を乱し学園の職員または学生・生徒の、人権を侵害したとき
リ　第4条に定める遵守義務および第32条に定める禁止事項に違反したとき

(懲戒の種類)

第37条　懲戒は、譴責、減給、出勤停止、降格、停職、諭旨退職および懲戒解雇とし、その方法は、つぎのとおりとする。
イ　譴責は、始末書をとり将来を戒める。
ロ　減給は、始末書をとり、給与の一部を一定期間減額する。この場合、1回の違反行為に対して、平均賃金の1日分の半額を超えず、総額が1賃金支払期における賃金の総額の10分の1を超えないものとする。
ハ　出勤停止は、始末書をとり、1カ月以内の期間を定めて出勤を停止し職務に従事させない。出勤停止期間中の給与は、支給しない。
ニ　降格は、始末書をとり、任用規定に定める降任、役職の解任のいずれかを行う。ただし、懲戒事由により、両方を併せて行うことがある。
ホ　停職は、始末書をとり、1年以内の期間を定めて出勤を停止し職務に従事させない。停職期間中は、職員としての身分を保有するが、給与は支給しない。
ヘ　諭旨退職は、本人を説諭の上退職届を提出させる。これに応じない場合は、30日前に予告するか、30日分以上の平均賃金を支払って解雇する。
ト　懲戒解雇は、予告期間を設けないで即時解雇し、退職金を支給しないこととし、労働基準監督署の認定を得た場合は、予告手当も支給しない。

2　職員が学園に損害を与えたときは、懲戒されることによって損害の賠償を免れることはでき

ない。

(懲戒の手続)

第38条　職員が第36条に定める懲戒の理由に該当すると認められるとき、理事長は、その都度、懲戒委員会を設ける。

2　理事長は、前項による懲戒委員会の答申を踏まえて、理事会の議を経て懲戒処分を決定する。ただし、懲戒の種類の適用については、当該職員が加入する労働組合の意見を聴くものとする。

3　懲戒委員会については、懲戒委員会規定に定める。

第7章　安全衛生

(保安)

第39条　職員は、防火・防災・防犯に努め、学生生徒・職員の人身および学園の財産の保護および安全保持に努めなければならない。

(健康診断)

第40条　職員は、毎年定期に学園が実施する健康診断を受けなければならない。

(就業の禁止)

第41条　職員が法定伝染病、精神障害または勤務することにより病状が悪化するおそれのある疾病にかかったとき、理事長は、医師の意見を聴き就業を禁止することができる。

2　職員は、家族または同居人が法定伝染病にかかったとき、またはその疑いがあるときは、直ちにその旨を理事長に届け出てその指示を受けなければならない。

第8章　災害補償

(業務上の傷病)

第42条　業務上もしくは通勤により負傷し、または疾病にかかり、療養のために勤務することができない場合で、労働者災害補償保険法(以下「労災法」という)による認定をうけたときは、公傷病休暇とする。

2　第24条第2項および同条第3項の規定は、公傷病休暇の場合について準用する。

3　公傷病休暇の原因となる傷病が治癒したときは、速やかに復職しなければならない。

(法律に基づく補償)

第43条　公傷病休暇期間中は、労働基準法および労災法の定めによる補償を行う。

(公傷病休暇中の給与等)

第44条　公傷病休暇の期間は、勤続期間に算入する。

2　公傷病休暇期間中の給与は、給与規定に定める。

(労災認定に準じた取扱い)

第45条　傷病が労災法による業務上傷病としての認定が得られなかった場合であっても、業務上の傷病と認めることが妥当と理事会が判断した場合は、前3条に準じた取扱いをすることができる。

第9章　その他

(規則の改廃)

第46条　この規則の改廃は、労働組合の意見を聴き、理事会の議を経て理事長が行う。

付　則

1　この規則は、昭和24年4月25日から施行する。

2　この改正規則は、2019年4月1日から施行し、改正後の第6条第2項および第23条の2は、施行日以降に開始する病気休暇に適用する。

3　この規則に解釈上または運用上の疑義を生じた場合、理事会がこれを解明する。

○任用規定

第1章　総則

(目的)

第1条　この規定は、学園に勤務する職員の任用に関する基準と手続を定め、もって任用の公正を図ることを目的とする。

(任用の原則)

第2条　任用にあたっては、採用試験、勤務の成績、職務能力もしくは技能、健康状態その他の実証または認定された事実に基づいて、公正に取り扱わなければならない。

(定義)

第3条　この規定において任用とは、採用、格付、昇任、降任、転任および転換をいう。

2　採用とは、つぎの各号のいずれかに該当するものをいう。

イ　職員でない者を新たに職員に任命すること

ロ　定年に達し退職した者を改めて職員に任命すること

ハ　第7条第1項各号の職員を同条第1項の他の号の職員に任命すること

3　格付とは、採用した専任の職員について職種別の職階または資格を決定することをいう。

4　昇任とは、専任の職員について第8条第2項に定める職種を変更しないで、現に任用している職階または資格から上位の職階または資格に進めることをいい、降任とは現に任用している職階または資格から下位の職階または資格に変更することをいう。

5　転任とは、専任の職員の職種等を変更して格付することをいう。

6　転換とは、労働契約法第18条ならびに同法の特例に関する法律に基づき、有期雇用の職員を期間の定めのない労働契約(以下「無期労働契約」という)の職員として任用することをいう。

(任用の計画)

第4条　学校長は、あらかじめ教育系職員の任用計画を立案し、理事長の承認を得なければならない。

2　事務系職員の任用計画は、総務部長がこれを立案し、理事長の承認を得なければならない。

3　臨時要員の任用計画は、学園本部においては総務部長が、各設置学校においては事務局長(中学校および高等学校においては事務長)が、原則として承認された臨時要員人件費予算の範囲内で計画しなければならない。

(任用の決定)

第5条　職員の任用は、理事会の定めるところにより理事長が決定する。

(任用の発令)

第6条　理事長は、任用を決定したとき、告示もしくは本人への辞令交付を行う。

2　前項にかかわらず、非常勤講師に委嘱する授業担当科目および時間数は学校長が通知する。

第2章　職員の区分

(職員の区分)

第7条　職員の区分は、つぎのとおりとする。

イ　専任の職員

ロ　特任の職員

ハ　嘱託の職員
ニ　客員の職員
ホ　非常勤の職員
ヘ　臨時要員

2　前項ロ号からヘ号の職員のうち、無期労働契約に転換した者については、無期雇用の職員として任用する。

3　学園以外に本務を有する者は、専任の職員に採用することができない。

(専任の職員)

第8条　専任の職員は、兼職を許可されまたは特に認められたもののほかは、その勤務時間および職務能力を教育・研究および学校運営の目的達成のために尽くさなければならない。

2　専任の職員は、教育系職員および事務系職員に分け、それぞれの職種はつぎのとおりとする。

イ　教育系職員の職種
　　教育職員、研究職員、技術職員
ロ　事務系職員の職種
　　事務職員、医療職員、技能職員(運転手、工作員)、用務員(校員)

3　教育系職員には、つぎのとおり職階または資格を設け、任用の際に格付ける。

イ　教育職員の職階
　　大学院教授、大学院准教授、大学院講師
　　大学教授、大学准教授、大学講師
　　高等学校教諭、中学校教諭
ロ　研究職員の資格　特別研究員、研究員1級、研究員2級
ハ　技術職員の資格　技師1級、技師2級、技師3級

4　事務系職員のうち事務職員および医療職員を、つぎのとおり区分し、資格を設定して任用の際に格付ける。

イ　事務職員

区分		資格
管理職		参事、副参事
一般職	総合職系列	主幹、主事、主事補
	専任職系列	専任職1級、専任職2級 専任職3級、専任職4級
	エントリー系列	書記

ロ　医療職員
　　看護師1級、看護師2級、看護師3級

5　前項の系列および任用の基準等については、事務職員任用基準および医療職員任用基準に定める。

(特任の職員)

第9条　特任の職員は、専任の教育系職員に代わってそれに準ずる職務遂行が期待できるとき、雇用期間を付して教育職員または技術職員として採用する。

2　特任の職員には、つぎのとおり職階を設け、任用の際に格付ける。

イ　教育職員の職階

大学院特任教授、大学院特任准教授、大学院特任講師、大学院特任助教、大学院特任助手
大学特任教授、大学特任准教授、大学特任講師、大学特任助教、大学特任助手、高等学校特任教諭、中学校特任教諭

ロ　技術職員の職階
特任技師

3　特任の職員の採用の基準、手続等については、この規定によるほか、特任教員規定および特任教諭規定に定める。

(嘱託の職員)

第10条　嘱託の職員は、専任の事務系職員に代わってそれに準じる職務遂行が期待できるとき、事務系職員として雇用期間を付して採用する。

2　嘱託の事務系職員の職種は、つぎのとおりとする。
嘱託職員(事務職員、看護師、大阪工業大学ピアサポーター、高等学校実習助手、工作員、運転手、校員、校員補)

3　前2項のほか、校医、弁護士、弁理士等特定の専門領域について業務を委嘱する者を業務嘱託として採用することができる。

4　嘱託の職員の採用の基準、手続等については、この規定によるほか、嘱託職員就業規則および広島国際大学嘱託職員就業規則に定める。

(客員の職員)

第11条　客員の職員は、教育の充実または学術研究・共同研究の推進あるいは大学運営に対して貢献が期待できるとき、雇用期間を付して教育職員または技術職員として採用する。

2　客員の職員には、つぎのとおり職階を設け、任用の際に格付ける。

イ　教育職員の職階
大学院客員教授、大学院客員准教授、大学院客員講師
大学客員教授、大学客員准教授、大学客員講師

ロ　技術職員の職階
客員技師

3　客員の職員の採用の基準、手続等については、この規定によるほか、客員教員規定に定める。

(非常勤の職員)

第12条　非常勤の職員は、教育職員とし、学園が設置する各学校の非常勤講師として採用する。

2　非常勤講師は、つぎの各号のいずれかに該当するときに採用する。

イ　授業計画上、他の教育職員をもって充てることが困難なとき

ロ　専攻分野等から、専任の職員が得がたいとき

ハ　専任の教員に欠員が生じて授業計画に支障を来すとき

3　非常勤講師の採用の基準、手続等については、非常勤講師任用規定または広島国際大学非常勤講師任用規定に定める。

4　第1項の非常勤講師のほか、必要に応じて、ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)、ポスト・ドクター(PD)、テクニカル・サポーター(TS)およびスチューデント・アシスタント(SA)を採用することができる。

5　前項の職員の採用の基準、手続等については、それぞれ別に定める要項によるものとする。

(臨時要員)

第13条　臨時要員は、つぎの各号のいずれかに該当するときに日数を限って採用するものとする。
イ　緊急かつ臨時の業務を処理する必要が生じたとき
ロ　業務の繁忙期にあたり、専任および嘱託の職員のみで処理することが困難であるとき
ハ　特殊な業務で、専任および嘱託の職員では処理できないとき
ニ　臨時に欠員が生じ、または業務を担当する者が欠けたとき
2　臨時要員の採用手続等については、臨時要員に関する内規および広島国際大学臨時要員に関する内規に定める。
(無期雇用の職員)
第13条の2　無期雇用の職員の職種、職階、採用の基準および手続等は、雇用期間の定めを除いて転換前と同じとする。
(雇用期間)
第14条　特任の職員の雇用期間については、特任教員規定および特任教諭規定に定める。
2　嘱託の職員、客員の職員、非常勤の職員および臨時要員の雇用期間は1年以内とする。ただし、年度の途中で採用された者については、当該年度末までとし、年度を超えることはできない。
3　前項の者を翌年度更新の手続を行って再度採用することを妨げない。
4　学園の学生を嘱託の職員として採用する場合は、年度を超えた雇用期間を設けることができることとし、これについては、嘱託職員就業規則、広島国際大学嘱託職員就業規則および高等学校実習助手内規に定める。

第3章　採用

(採用の基準)
第15条　職員として採用される者は、職種および職階または資格ごとに求められる基準を充足するとともに、私立の教育事業である学園にふさわしい識見を備えている者でなければならない。
2　職種および職階または資格の基準は、各大学・大学院の教員選考基準(規定)、任用基準等に定める。
(募集の方法)
第16条　職員の募集は、原則として公募とし、各学校のホームページ、一般新聞、学会誌等に掲載するなど適切な方法により学内外に告示するものとする。
2　前項にかかわらず、つぎの各号のいずれかに該当するときは、公募によらないことがある。
イ　大学・大学院の設置および学部・学科・研究科・専攻・課程の新増設に関する教員組織を構成するとき
ロ　専攻分野、特定の業務等の関係で人材が極めて得にくいとき
ハ　その他やむを得ないと理事長が認めたとき
(選考の方法)
第17条　選考は、資格審査を行ったうえで総合的に行う。
2　選考に必要な書類は、つぎのとおりとする。
イ　履歴書
ロ　教育・研究業績書(教育系職員に限る)
ハ　教育に対する抱負レポート(教育系職員に限る)
ニ　職務経歴書
ホ　健康診断書(適性または職務遂行能力を判断するうえで合理的かつ客観的にその必要がみ

とめられる場合のみ)
ヘ　最終学校の卒業(見込)証明書および学業成績証明書
ト　教員免許状等職務に必要な資格取得を証明するもの
3　前項にかかわらず、採用職種等によっては書類を追加または省略することがある。
(資格審査)
第18条　資格審査とは、本人の経歴等から判断される能力が、当該職種、職階または資格に適合するかを審査することをいう。
2　教育系職員の採用候補者の資格審査は、所定の審査機関等の意見を聴き、学校長が行う。
3　事務系職員採用候補者の資格審査は、所定の審査機関等の意見を聴き、理事長が行う。
4　資格審査は、つぎの各号の一以上を併せて行うものとする。
イ　書類審査
ロ　面接試験
ハ　筆記試験
ニ　適性検査
ホ　実技試験、模擬授業
第19条　削除
(採用の決定)
第20条　職員の採用は、資格審査を経た候補者のうちから、つぎの各号に基づいて総合的に決定する。
イ　この規定その他所定の手続に従って選考されたか
ロ　法令および学園規定に定める基準に合致しているか
ハ　本人の能力、適性、健康状態等が学園の勤務に耐えられるか
ニ　人格・識見等が教育事業の職員にふさわしいか
ホ　学園の目的、建学の精神、運営方針から見て適任か
第4章　昇任・降任・転任・転換
(昇任)
第21条　専任の職員で、現に任用している職階または資格より上位の職階または資格に求められる基準に達した者については、これを昇任させることができる。
2　資格および職階の基準は、各大学・大学院の教員選考基準(規定)、任用基準等に定める。
(昇任の選考)
第22条　選考は、昇任候補者について資格審査を行ったうえ、総合的に行う。
2　教育系職員の昇任候補者の資格審査は、所定の審査機関等の意見を聴き、学校長が行う。
3　事務系職員の昇任候補者の資格審査は、所定の審査機関等の意見を聴き、理事長が行う。
4　資格審査は、つぎの各号の一以上を併せて行うものとする。
イ　教育・研究・大学運営に係る業績評価(教育系職員)
ロ　人事考課(事務系職員)
ハ　筆記試験
ニ　面接試験
ホ　実技試験
ヘ　その他職務遂行能力を客観的に判断できる資料

5　必要により健康診断を行うことがある。

(昇任の決定)

第23条　昇任は、資格審査を経た候補者のうちから第20条の定めを準用して総合的に決定する。

(特別昇任)

第24条　専任の職員が生命を賭して職務を遂行し、そのために危篤となり、または心身障害者となるに至ったとき、理事長は学校長等の申請に基づき前3条によらないで昇任させることがある。

2　現に任用されている職階または資格から上位の職階または資格に任用されるに必要な経過年数は不足するが、当該職階または資格に要求される基準を十分に充足し、かつ勤務成績が優秀な者について、理事長は、学校長等の申請に基づき特別に昇任させることがある。

(降任)

第25条　専任の職員が現に任用されている職階または資格の基準を真に充足していないと判断されるとき、理事長は、学校長等の申請に基づき降任させることがある。

(転任)

第26条　業務の都合により、理事長は、学校長等の意見を聴いて職員の職種変更を命じることがある。

(転換)

第27条　有期雇用の職員の労働契約が更新され、労働契約法第18条ならびに同法の特例に関する法律に定める通算年数を超えたとき、当該職員から申込みがあった場合は、無期労働契約に転換するものとする。

第5章　雑則

(規定の改廃)

第28条　この規定の改廃は、理事会の議を経て理事長が行う。

付　則

1　この規定は、昭和50年4月1日から施行する。

2　この改正規定は、2021年4月1日から施行する。

3　改正前の付則第3項の適用については、なお従前の例による。

○特任教員規定

(趣旨)

第1条　この規定は、任用規定第9条に定める特任の職員(以下「特任教員」という)の資格、雇用期間、給与等について定める。

2　前項にかかわらず、高等学校特任教諭および中学校特任教諭については、特任教諭規定に定める。

(定義)

第2条　特任教員は、雇用期間を定めて任用する者であって、本学園が設置する大学において、専任教員と同様に専ら教育・研究・大学運営に従事する者、または特に任じられた職務を行う者をいう。

(資格)

第3条　特任の教育職員は各大学・大学院の教員選考基準(規定)に定める大学教員の資格を、特任の技術職員は技術職員任用基準に定める資格を有し、かつ、心身共に健全な者でなければならない。

2　当該年度の4月1日において満64歳以上となる者を特任教員に採用することはできない。ただし、学園を定年退職した者を引き続き雇用するとき、および学長の申請に基づき理事長が特に認めたときは、この限りでない。

3　前項ただし書きの場合であっても、当該年度の4月1日において満70歳以上となる者を採用することはできない。

(雇用期間)

第4条　特任教員の雇用期間は、5年とする。ただし、年度の途中で採用する場合は、採用初年度を含めて5年度を超えて雇用することはできない。

2　教育遂行上の必要性があり、学長の申請に基づき理事長が認めた場合は、5年以内で別途雇用期間を設定する。

3　前2項にかかわらず、雇用期間は、労働基準法第14条に定める1回の労働契約期間の上限を超えることはできない。

4　定年後の再雇用に関する規定に基づき、学園を定年退職した者を引き続き特任教員として雇用する場合の雇用期間は、1年とする。

5　各設置大学の教育研究上特に必要と認められる場合は、通算10年(特任技師は5年)を限度に2回まで雇用契約(以下「契約」という)を更新することができる。

6　前項の更新は、つぎの基準により判断する。

イ　勤務成績および勤務態度

ロ　勤務に耐えうる心身の状態

ハ　職務を遂行する能力

ニ　教育研究上の業績

ホ　大学運営上の貢献度

ヘ　担当科目のカリキュラム編成上の必要性

ト　従事している職務の量的・人的必要性

チ　学園の経営状況

7　第5項にかかわらず、つぎの各号のすべてに該当し、かつ理事長が特に認めた場合は、10年(特任技師は5年)および2回を超えて契約を更新することがある。

イ　過去10年(特任技師は5年)の勤務成績が極めて優秀であること

ロ　教育研究上特に必要であり、かつ余人をもって替えがたいと認められること

ハ　心身ともに健康であること

(雇用期間の定めのない特任教員への転換)

第4条の2　前条に定める雇用期間が通算して10年(特任技師は5年)を超えた場合、現に契約している雇用期間が満了する日までに、当該満了する日の翌日を始期とする期間の定めのない契約の締結を申し出ることができる。

2　前項にかかわらず、契約と契約の間に労働契約法第18条第2項に定める空白期間が同項の定める期間以上にあるとき、空白期間以前の契約は、通算の雇用期間に算入しない。

3　第1項の申出は、所定の様式によるものとし、現に契約している雇用期間が満了する3カ月前までに理事長に提出しなければならない。

4　所定の要件を備えた前項の申出があったとき、当該特任教員を雇用期間の定めのない特任教員(以下「無期雇用特任教員」という)として採用する。

(無期雇用特任教員の労働条件)

第4条の3　無期雇用特任教員の労働条件は、雇用期間の定めを除いて従前のとおりとする。

2　前項にかかわらず、無期雇用特任教員が担当する授業科目、担当時間数および担当曜日時限(以下「授業科目」という)については、前年度と同じ授業科目等が保証されるものではなく、当該年度のカリキュラム編成や学生数等に基づき、毎年度学長が決定する。

3　無期雇用特任教員として採用するとき、授業科目等以外の労働条件は、労働契約法第7条の定めるところによる。

4　期間の定めのない契約期間中の労働条件の変更は、労働契約法第10条の定めるところによる。

(無期雇用特任教員の解雇)

第4条の4　無期雇用特任教員が、第4条の6第2項各号のいずれかに該当する場合は、理事長は、30日前に予告するか30日分の平均賃金を支給して解雇することができる。

(無期雇用特任教員の定年等)

第4条の5　無期雇用特任教員の定年年齢は満64歳とし、定年年齢に達した年度末に退職するものとする。

2　前項にかかわらず、無期雇用特任教員に採用された年度の4月1日時点で満64歳以上となる者の定年年齢は満70歳とし、定年年齢に達した年度末に退職するものとする。

3　第1項により定年退職となった無期雇用特任教員の定年後の再雇用については、学校法人常翔学園就業規則第12条第2項(広島国際大学に採用された者にあっては、広島国際大学就業規則第12条第2項)を準用する。

(雇用契約の解約)

第4条の6　特任教員が、雇用期間の満了前に退職しようとする場合は、病気等やむを得ない事情があるときを除き、原則として2カ月前までに書面により申し出なければならない。

2　特任教員が、つぎの各号のいずれかに該当する場合は、雇用期間中であっても雇用契約を解約することがある。

イ　採用時に提出した書類の記載に偽りがあるとき
ロ　心身の故障により、職務に耐え得ないと認められるとき
ハ　勤務成績が悪く、教員としての適格性を欠くと認められたとき
ニ　学校法人常翔学園就業規則に定める懲戒の理由に該当する行為があったとき
ホ　学園の経営上やむを得ない理由があるとき

(就業規則等規定の適用・準用)

第5条　特任教員には、学校法人常翔学園就業規則のうち、第5条、第11条から第13条、第33条および第34条(広島国際大学に採用された者にあっては、広島国際大学就業規則のうち、第5条、第11条から第13条、第35条および第36条)を除き、これを準用する。

2　前項にかかわらず、学校法人常翔学園就業規則第16条から第27条および第31条(広島国際大学就業規則にあっては、第16条から第29条および第33条)までに定める勤務については、任じられる職務に応じて個別に設定し労働契約において定める。

3　特任教員には、特に定めのあるものを除いて、学園の規定を適用または準用する。

(支給する給与)

第6条　特任教員には、本俸(ライフプラン拠出金を含む。以下同じ)、役職手当、通勤手当および学内出講料を支給する。

(本俸)

第7条　本俸は年俸(ライフプラン拠出金を含む。以下同じ)とし、別表第1特任教員年俸表および別表第2または別表第3の年俸適用基準により支給する。ただし、学校長の申請にもとづき理事長が特に認めたときは、別途年俸額を定めることができる。

2　年俸のうち、年間330,000円(月額27,500円)をライフプラン拠出金とする。

3　特任教員はライフプラン拠出金を学園が指定する確定拠出年金の掛金として拠出することができる。

4　その他のライフプラン拠出金に関することは、ライフプラン拠出金規定に定める。

(役職手当)

第8条　役職手当は、学園の役職を命じられた者に、役職手当支給規定(広島国際大学に勤務する者については、広島国際大学役職手当支給規定)により支給する。

(通勤手当)

第9条　通勤手当は、学園に勤務するために交通機関等を利用し経費を要する者に、通勤手当支給規定(広島国際大学に勤務する者については、広島国際大学通勤手当支給規定)により支給する。

(学内出講料)

第10条　特任の教育職員には、別表第4学内出講料支給基準に基づき学内出講料を支給する。

(授業担当責任時間)

第11条　特任教員のうち別表第1特任教員年俸表1号俸適用者(技術職員を除く)には、専任教員の授業担当時間に関する規定を準用して授業担当責任時間を設定する。

2　前項にかかわらず、学校長は、教育研究の遂行上これを準用せず、別途、職務を命じることができる。

(規定の改廃)

第12条　この規定の改廃は、各学校長の意見を聴き、理事長が行う。

付　則

1　この規定は、2010年4月1日から施行する。

2　昭和40年1月16日制定の特任教授規定および昭和40年3月31日制定の特任教授給与内規、1997年3月25日制定の広島国際大学特任教授規定および1997年3月25日制定の広島国際大学特任教授給与内規は、廃止する。

3　この改正規定は、2018年10月1日から施行する。

4　2013年3月31日以前に締結または更新した契約については、当該雇用期間を第4条の2第1項に定める雇用期間の通算に含まない。

別表第1

特任教員年俸表

職階		1号俸	2号俸	3号俸
教育職員	特任教授	9,000,000円	5,500,000円	3,000,000円
	特任准教授	7,000,000円	4,500,000円	2,500,000円
	特任講師	6,000,000円	3,500,000円	2,500,000円
	特任助教	5,500,000円	3,500,000円	2,500,000円
	特任助手	4,000,000円	3,500,000円	2,500,000円
技術職員	特任技師	5,000,000円	3,500,000円	2,500,000円

備考　ライフプラン拠出金年間330,000円(月額27,500円)を含む。

別表第2

特任の教育職員の年俸適用基準

号俸	適用基準
1号俸	専任と同様の職務貢献が期待できる者
2号俸	専任の3分の2以上の職務貢献が期待できる者
3号俸	専任の3分の1以上の職務貢献が期待できる者

注：大学院在学中の者を特任助手に採用する場合の年俸は3号俸を適用する。

別表第3

特任の技術職員の年俸適用基準

職員	適用基準
技術職員	技術職員任用基準に定める技師1級相当者を1号俸、技師2級相当者を2号俸、技師3級相当者を3号俸とする。

別表第4

学内出講料支給基準

対象者	支給基準
1号俸適用者	授業を担当すべき時間については、専任教員の授業担当時間に関する規定を準用し、学内出講料支給規定(広島国際大学に勤務する者については、広島国際大学学内出講料支給規定)により学内出講料を支給する。
2号俸3号俸適用者	週当たりの授業時間数が6時間を超える者に対して、学内出講料支給規定(広島国際大学に勤務する者については、広島国際大学学内出講料支給規定)を準用して学内出講料を支給する。

○摂南大学教員選考基準

(準拠)

第1条　任用規定第8条に定める摂南大学教育職員の職階の任用にあたっては、この選考基準の定めるところによる。

(教授の資格)

第2条　教授に任用することのできる者は、つぎの各号のいずれかに該当し、専攻分野について、本学の教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有する者とする。

イ　大学設置・学校法人審議会において、大学教授の資格があると認められた者

ロ　大学において、教授としての経歴があり、教育研究上の業績が著しいと認められる者

ハ　大学において、5年以上准教授(助教授を含む)としての経歴があり、教育研究上の業績が著しいと認められる者

ニ　博士の学位(外国において授与されたこれに相当する学位を含む)をもち、教育上の識見および研究上の指導能力を有し、かつ、研究上の業績が著しいと認められる者

ホ　研究上の業績が前各号の者に準じ、かつ、教育上の識見および研究上の指導能力を有すると認められる者

ヘ　専門職学位(外国において授与されたこれに相当する学位を含む)をもち、教育上の識見および研究上の指導能力を有し、当該専門職学位の専攻分野に関する実務上の業績があると認められる者

ト　体育・芸術等については、教育の経歴があり、特殊な技能に秀でていると認められる者

チ　専攻分野について、特に優れた知識および経験を有し、教育研究上の能力があると認められる者

(准教授の資格)

第3条　准教授に任用することのできる者は、つぎの各号のいずれかに該当し、専攻分野について、本学の教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有する者とする。

イ　前条に規定する教授となることのできる者

ロ　大学設置・学校法人審議会において、大学准教授(助教授を含む)の資格があると認められた者

ハ　大学において、准教授(助教授を含む)としての経歴があり、教育研究上の業績があると認められる者

ニ　大学において、5年以上専任講師としての経歴があり、教育研究上の業績があると認められる者

ホ　博士の学位または専門職学位(外国において授与されたこれらに相当する学位を含む)をもち、大学において、3年以上専任講師としての経歴があり、研究上もしくは実務上の業績があると認められる者

ヘ　研究上の業績が前各号の者に準じ、かつ、教育上の識見を有すると認められる者

ト　研究所・試験所・調査所等に5年以上在職し、研究上の業績があると認められる者
チ　体育・芸術等については、教育の経歴があり、特殊な技能を有すると認められる者
リ　専攻分野について、優れた知識および経験を有し、教育研究上の能力があると認められる者

(講師の資格)

第4条　講師に任用することのできる者は、つぎの各号のいずれかに該当し、専攻分野について、本学の教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有する者とする。

イ　前条に規定する准教授となることのできる者
ロ　大学設置・学校法人審議会において、大学講師の資格があると認められた者
ハ　大学において、専任講師としての経歴があり、教育研究上の業績があると認められる者
ニ　大学において、5年以上助教としての経歴があり、教育研究上の業績があると認められる者
ホ　修士の学位(外国において授与されたこれに相当する学位を含む)をもち、大学において3年以上助教としての経歴があり、教育研究上の業績があると認められる者
ヘ　博士の学位または専門職学位(外国において授与されたこれらに相当する学位を含む)をもち、教育上の識見を有すると認められる者
ト　博士課程の単位を修得し、研究上の業績が前各号の者に準じ、かつ、教育上の識見を有すると認められる者
チ　体育・芸術等については、特殊な技能をもち、教育上の能力があると認められる者
リ　専攻分野について、知識および経験を有し、教育研究上の能力があると認められる者
ヌ　相当の年令に達し、人格・識見・業績等が前各号と同等以上と認められる者

(助教の資格)

第5条　助教に任用することのできる者は、つぎの各号のいずれかに該当し、専攻分野について、本学の教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有する者とする。

イ　前条に規定する講師となることのできる者
ロ　大学設置・学校法人審議会において、大学助教の資格があると認められた者
ハ　大学において、助教としての経歴がある者
ニ　修士の学位または専門職学位(外国において授与されたこれらに相当する学位を含む)をもち、教育上の能力があると認められる者
ホ　大学の6年制の学部を卒業し、教育上の能力があると認められる者
ヘ　専攻分野について、知識および経験を有し、教育上の能力があると認められる者

(助手の資格)

第6条　助手に任用することのできる者は、つぎの各号のいずれかに該当する者とする。

イ　大学において、助手としての経歴がある者
ロ　学士の学位(外国において授与されたこれに相当する学位を含む)を有する者
ハ　前各号の者に準ずる能力があると認められる者

(基準の改廃)

第7条　この基準の改廃は、大学・大学院運営会議の意見を聴き、学長の承認を得て、理事長が行う。

付　則

1　この基準は、昭和50年4月1日から施行する。

2　この改正基準は、2020年4月1日から施行する。ただし、同日以降に任用する者については、その任用手続時から適用する。

摂南大学寝屋川校地の教室使用実績（令和2年度）〈前期〉

L 国際学部　◆ 他学部

号館	階	教室名	設備等	収容定員 通常	収容定員 試験	月 1	月 2	月 3	月 4	月 5	火 1	火 2	火 3	火 4	火 5	水 1	水 2	水 3	水 4	水 5	木 1	木 2	木 3	木 4	木 5	金 1	金 2	金 3	金 4	金 5	土 1	土 2	土 3	土 4	土 5	教室名
5号館	2階	５２１Ａ	ＡＶ	42	４２		L	◆	◆	◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	L	L	◆	◆	◆	◆					◆	L	◆							５２１Ａ
		５２１Ｂ	ＡＶ	42	４２		L		◆	◆	◆	◆	◆	◆		◆	L	L	L		◆	◆	◆	L		L	◆			◆						５２１Ｂ
		５２２	ＡＶ	141	９４	L	◆	◆	◆	◆	◆	L	L	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	L							５２２
		５２３	ＡＶ	141	９４	◆	◆	◆				◆				L	◆	◆	◆	L	◆	L	◆	◆			◆	L	L							５２３
		５２４	ＡＶ	141	９４	◆	◆		◆	◆	◆	◆	◆			◆		◆	◆	◆		◆		L		L	◆	◆	◆	◆						５２４
		５２５	ＡＶ	108	７２		◆	◆	◆			L	◆	◆		L		L	L		◆	◆	◆	L			◆	◆	◆	◆						５２５
		５２６	ＡＶ	117	７８		◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆			◆		◆	◆		◆	◆		◆		◆	◆		L							５２６
	3階	５３１	ＡＶ	141	９４	◆	◆	◆			◆	◆	◆		◆		◆	◆	◆	◆		◆		◆			◆	◆	◆	◆						５３１
		５３２	ＡＶ	141	９４		◆	◆			◆	◆	L	◆	◆	◆		◆			◆	◆		◆				◆	L	◆						５３２
		５３３Ａ	ＡＶ	42	４２	L	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆			◆	L	◆		◆	◆	◆			L	L	◆		◆						５３３Ａ
		５３３Ｂ	ＡＶ	42	４２		L	◆			◆	◆	L	◆			◆	◆	◆				L	L			◆	◆								５３３Ｂ
		５３４	ＡＶ	141	９４	◆	◆	◆	◆	◆		L	L	◆	◆	◆		◆	◆	L			L	L			◆	L	L							５３４
		５３５	ＡＶ	132	８８	◆	◆	◆	L	◆	◆	L	◆	L			◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆			◆						５３５
		５３６	ＡＶ	141	９４	L	L	◆	◆			L	L	L			L					L	◆	◆		◆	◆	◆	◆							５３６
	4階	５４１Ａ	ＡＶ	42	４２	◆	L				◆	◆	◆	◆			◆	◆	◆		◆		◆			◆	◆	◆								５４１Ａ
		５４１Ｂ	ＡＶ	42	４２	◆		◆	◆		◆		◆				L	◆					◆				◆								５４１Ｂ
		５４２	ＡＶ	141	９４		◆	◆			◆	◆	L	◆		◆	◆	◆		◆	◆			◆		◆	◆	◆	L							５４２
		５４３	ＡＶ	141	９４		◆	◆	◆		◆	◆	◆			L	◆		◆	◆				◆	◆	◆	◆	◆	◆							５４３
		５４４Ａ	ＡＶ	42	４２				◆	◆	◆	◆					◆	◆	L		◆	◆	◆					◆								５４４Ａ
		５４４Ｂ	ＡＶ	42	４２	◆		◆				◆	◆	L			◆						◆				◆	◆								５４４Ｂ
		５４５	ＡＶ	132	８８		◆	L					◆	L				◆				◆	◆	◆		◆	◆	L								５４５
		５４６	ＡＶ	141	９４		◆						L	L										◆		◆	◆									５４６
	5階	５５１	ＡＶ	320	２００	◆	◆	L	◆	◆	◆	◆		◆		◆	◆	◆	◆	◆	L	◆	L	◆		◆	◆	◆	◆							５５１
		５５２	ＡＶ	320	２００	◆	◆	◆		L	L	◆	◆	L		◆		◆				◆	◆	◆		◆	◆		L							５５２
		５５５Ａ	ＡＶ	40	４０	◆	◆	◆				◆	◆				◆							L		◆			L							５５５Ａ
		５５５Ｂ	ＡＶ	40	４０	◆		◆	◆				◆				L					◆	L			L	L	◆	◆							５５５Ｂ
		５５６Ａ	ＡＶ	40	４０	◆		◆			◆	◆	◆	◆			◆		◆		◆		◆	◆		◆	◆									５５６Ａ
		５５６Ｂ	ＡＶ	40	４０	◆							◆			◆	◆										◆									５５６Ｂ
８号館		８４１	ＡＶ	264	１７６	◆	◆			◆	◆	◆		◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆			◆				８４１
		８４２	ＡＶ	498	３３２		◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		◆	◆									◆	◆	◆	◆	◆						８４２
10号館	4階	第５情処		72		L	L		L	L	◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	L	◆		◆		◆												第５情処
		第６情処		20							L	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆		◆	L												第６情処
		第７情処		20			L				L	◆	◆	◆		◆	◆		◆		◆														第７情処
		第８情処	自習室																																第８情処
	5階	第１情処		102			◆		L			L	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		◆	◆				◆	◆	◆	◆						第１情処
		第２情処		102				◆	◆			◆		◆	◆	◆	◆	L	◆	◆	◆	◆	◆	◆			◆	◆	◆	◆						第２情処
		第３情処		102		L			◆		◆		◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		◆		◆			◆	◆								第３情処
		第４情処		72		L	L	◆	◆	◆			◆	◆	◆	◆	◆	L	L	◆	◆	◆	◆	◆			◆	◆	L							第４情処
		１０５１	テレビ	45		◆		◆	◆	◆		◆	◆			◆	L		◆		◆		◆		L	L	◆								１０５１
		１０５２	テレビ	25		L	L	L				◆				L	L	L	L		◆		◆												１０５２
		１０５３	テレビ	45							L					◆	L	◆	◆		◆	L	◆		L	◆	◆	◆							１０５３
		１０５４	テレビ	25		L	L				L	◆	◆			◆	L		L				◆		L	◆	◆								１０５４
		１０５５	テレビ	45								◆	◆	◆		L	L	L	L		◆	L	◆	L		L	L	◆	L						１０５５
		１０５６	テレビ	25								◆					◆	L	L		◆		◆				◆								１０５６
		１０５７	テレビ	45												◆	◆		◆				◆	L		L	L	L							１０５７
		１０５８	テレビ	24													◆		◆				◆			L								１０５８
	6階	１０６１	ＡＶ	139	９０		◆	◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆		◆	◆				L		◆	◆			◆	L							１０６１
		１０６２	ＡＶ	135	８６		◆	◆	◆		◆		L	L			◆				L	L			◆	L	L	◆							１０６２
		１０６３	ＡＶ	135	８６	L	◆	◆	◆	◆	◆					L	L		L			L	◆	◆	◆	L	L								１０６３
		１０６４	ＡＶ	135	８６		◆	◆					◆	◆			◆	◆						◆	◆			L							１０６４
		１０６５	ＡＶ	59	５９	L	◆	◆	◆								◆		◆		◆	L	◆	L		◆	L	L	L				◆			１０６５
		語学ゼミ１	ＡＶ	24	２４	L	L	L	◆	◆	L	◆	◆	◆		◆	◆	◆	L	◆	L	L	L		◆			L							語学ゼミ１
		語学ゼミ２	ＡＶ	24	２４	L	◆	L	◆		L	◆	L	◆		◆			L			L	L			L									語学ゼミ２
		語学ゼミ３	ＡＶ	24	２４	L	L	L			L	◆	L	◆		◆	L	◆	L						L									語学ゼミ３
		語学ゼミ４	ＡＶ	24	２４	L	L	L	L		L	◆				◆						◆	L		L									語学ゼミ４
		語学ゼミ５	ＡＶ	24	２４			◆	◆		L	◆		◆		◆	L																	語学ゼミ５
		語学ゼミ６	ＡＶ	24	２４		L				L					L	L	L	L	◆			L											語学ゼミ６
		語学ゼミ７	ＡＶ	24	２４						L	◆					L						◆											語学ゼミ７
		語学ゼミ８	ＡＶ	24	２４						L	◆	L			◆	L																	語学ゼミ８
		語学ゼミ９	ＡＶ	24	２４											L	L																	語学ゼミ９
		語学ゼミ10	ＡＶ	24	２４		◆	◆					◆				◆	◆	◆			◆	◆				◆	◆							語学ゼミ10
		ＣＡＬＬ４		60		L	L		◆		L		◆	◆		L	◆	L	L					L											ＣＡＬＬ４
	7階	ＣＡＬＬ１		48		L	L	L	L		◆	◆	L	◆		◆	◆		L	L	◆			L		L	◆		L						ＣＡＬＬ１
		ＣＡＬＬ２		60		L	L	◆	◆			◆	L	L		◆	L	L	◆	L			L	L			◆	L	◆							ＣＡＬＬ２
		ＣＡＬＬ３		60		L	L	◆	L		L	◆	L	L		◆	L	L	L				◆	L					L	L						ＣＡＬＬ３
		小スタジオ		80													L		L		◆			L		L									小スタジオ
11号館	2階	１１２１	共通ゼミ	24					◆			◆		◆					◆		◆		◆							◆						１１２１
		１１２２	ＡＶ	126	８４	◆	◆	◆		◆	L	◆	◆			◆	L	◆	◆			◆		L	◆	◆	◆	◆							１１２２
		１１２３	ＡＶ	210	１４０	◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	L			◆	◆	◆	◆						１１２３
		１１２４	ＡＶ	126	８４	◆	◆	◆	◆		◆		◆			◆	◆	◆	L			L		◆		◆	◆								１１２４
		１１２５	共通ゼミ	16					◆	◆							◆				◆		◆												１１２５
		１１２６	共通ゼミ	16					◆												◆		◆												１１２６
	3階	１１３１	共通ゼミ	24					◆					◆			L		◆		◆		◆												１１３１
		１１３２	ＡＶ	126	８４	◆	◆	◆	◆				◆				◆	◆	L	◆		◆	◆	◆		◆	◆	◆							１１３２
		１１３３	ＡＶ	210	１４０	◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆				L			◆	◆			◆	◆	◆	◆							１１３３
		１１３４	ＡＶ	126	８４		◆	◆		◆			◆				◆	◆				◆	L	◆				L							１１３４
		１１３５	共通ゼミ	16					◆			◆					◆		◆		◆		◆												１１３５
		１１３６	共通ゼミ	16					◆					◆					◆		◆		◆												１１３６
	4階	１１４１	共通ゼミ	24					◆								◆	◆	◆		◆		◆												１１４１
		１１４２	ＡＶ	126	８４	◆		◆	◆				◆	◆		◆	◆	◆	◆	◆		◆	◆				L	◆							１１４２
		１１４３	ＡＶ	60	６０	◆		◆	◆	◆			◆	◆			◆		◆			◆	◆	◆		◆	◆								１１４３
		１１４４	ＡＶ	60	６０				◆				◆	◆			L				◆	L	◆	L		L	L								１１４４
		１１４５	ＡＶ	60	６０				◆				◆				L		◆		◆	◆	◆			◆	L	◆							１１４５
		１１４６	ＡＶ	60	６０	◆	◆	◆	◆		◆		◆				◆	◆	◆		L	L	◆			L	L								１１４６
		１１４７	ＡＶ	60	６０	◆	◆	◆			◆	◆	L				◆	◆	◆		◆		◆				◆								１１４７
		１１４８	共通ゼミ	20					◆			◆		◆			L		◆		◆		◆												１１４８
		１１４９	共通ゼミ	25					◆					◆					◆		◆		◆												１１４９
	5階	１１５１	共通ゼミ	24															◆				◆												１１５１
		１１５２	ＡＶ	156	１０４		◆	◆	◆	L	◆	◆	◆	◆		◆		◆	◆	L		◆	◆		◆		◆	◆							１１５２
		１１５３	ＡＶ	120	８０	◆	◆	◆	◆		◆		L	◆			◆	◆	◆			◆		◆	◆			L							１１５３
	6階	１１６１	共通ゼミ	24																															１１６１
12号館	2階	１２２１	ＡＶ	95	６２	◆	◆					L	◆	◆			L	◆	◆	◆		◆		◆		L	L				◆	◆	◆	◆		１２２１
		１２２２	ＡＶ	103	６７	◆	◆					L	◆	◆			◆	◆	◆	◆			◆			L						◆	◆		１２２２
		１２２３	ＡＶ	72			◆					L	◆	◆			L	◆	◆	◆													◆		１２２３
		１２２４	共通ゼミ	24																															１２２４
	3階	１２３１	ＡＶ	255	１７０	◆	◆	L	◆		◆	◆	◆	L		◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆			◆	◆	◆	◆		◆	◆				１２３１
		１２３２	ＡＶ	270	１８０	L	◆		◆		◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		◆	◆	L	L	◆	◆	◆	◆	◆			◆			１２３２
		１２３３	ＡＶ	210	１４０	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆			◆						◆	◆		１２３３
	4階	１２４１	ＡＶ	225	１５０	◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆		◆			L	◆	◆			◆					◆	◆				１２４１
		１２４２	ＡＶ	234	１５６	◆		◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆		◆	◆	◆		◆	◆	◆		◆	◆								１２４２
		１２４３	ＡＶ	237	１５８	◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆		◆	◆	◆			◆	◆	◆			◆		L				◆	◆	◆	１２４３
						1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	

・教室の収容定員と想定す受講人数

受講人数は教室収容

教室規模	部屋数	月 1	月 2	月 3	月 4	月 5	火 1	火 2	火 3	火 4	火 5	水 1	水 2	水 3	水 4	水 5	木 1	木 2	木 3	木 4	木 5	金 1	金 2	金 3	金 4	金 5	土 1	土 2	土 3	土 4	土 5
50人未満	42	15	14	16	20	6	17	24	20	16	1	17	33	16	28	3	21	11	35	5	1	11	20	14	5	4	0	0	0	0	0
		36%	33%	38%	48%	14%	40%	57%	48%	38%	2%	40%	79%	38%	67%	7%	50%	26%	83%	12%	2%	26%	48%	33%	12%	10%	0%	0%	0%	0%	0%
50～99	8	5	5	4	5	1	2	3	7	4	0	0	8	4	7	2	5	6	6	4	0	6	7	2	1	0	1	1	2	2	0
		42%	42%	33%	42%	8%	17%	25%	58%	33%	0%	0%	67%	33%	58%	17%	42%	50%	50%	33%	0%	50%	58%	17%	8%	0%	8%	8%	17%	17%	0%
100～199	26	14	25	23	16	10	15	15	24	16	5	13	18	21	16	11	7	20	13	24	8	15	20	20	13	5	0	0	1	1	0
		54%	96%	88%	62%	38%	58%	58%	92%	62%	19%	50%	69%	81%	62%	42%	27%	77%	50%	92%	31%	58%	77%	77%	50%	19%	0%	0%	4%	4%	0%
200～	12	11	11	10	10	5	12	12	10	12	2	11	8	11	7	4	9	11	10	5	1	12	9	9	9	1	2	5	2	1	1
		92%	92%	83%	83%	42%	100%	100%	83%	100%	17%	92%	67%	92%	58%	33%	75%	92%	83%	42%	8%	100%	75%	75%	75%	8%	17%	42%	17%	8%	8%
計	88	45	55	53	51	22	46	54	61	47	8	41	67	52	58	20	42	48	63	38	10	44	56	45	28	10	3	6	5	4	1
		51%	63%	60%	58%	25%	52%	61%	69%	53%	9%	47%	76%	59%	66%	23%	48%	55%	72%	43%	11%	50%	64%	51%	32%	11%	3%	7%	6%	5%	1%
情報処理	7	3	4	2	5	2	4	5	6	7	4	7	7	6	7	5	4	5	4	5	0	0	4	4	3	2	0	0	0	0	0
		43%	57%	29%	71%	29%	57%	71%	86%	100%	57%	100%	100%	86%	100%	71%	57%	71%	57%	71%	0%	0%	57%	57%	43%	29%	0%	0%	0%	0%	0%
CALL	5	4	4	3	4	0	3	3	4	4	0	4	5	3	5	2	2	0	2	5	1	2	2	2	3	0	0	0	0	0	0
		80%	80%	60%	80%	0%	60%	60%	80%	80%	0%	80%	100%	60%	100%	40%	40%	0%	40%	100%	20%	40%	40%	40%	60%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

摂南大学寝屋川校地の教室使用実績（令和2年度）〈後期〉

L 国際学部　● 他学部

号館	階	教室名	設備等	収容定員 通常	収容定員 試験	月 1	月 2	月 3	月 4	月 5	火 1	火 2	火 3	火 4	火 5	水 1	水 2	水 3	水 4	水 5	木 1	木 2	木 3	木 4	木 5	金 1	金 2	金 3	金 4	金 5	土 1	土 2	土 3	土 4	土 5	教室名
5号館	2階	５２１Ａ	ＡＶ	42	４２			●	●		●		●			●	●		●		●		●	●			●		●							５２１Ａ
		５２１Ｂ	ＡＶ	42	４２		L	L	●	●	●		●	●			L	L	L		●		●	L			●								５２１Ｂ
		５２２	ＡＶ	141	９４	L	●	●	●	●	●	L	L	●	●	●		●	●		●	●	L	L		●	●	●	L						５２２
		５２３	ＡＶ	141	９４	●	●	●			●	●	●		●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	L	●					５２３
		５２４	ＡＶ	141	９４	●		●	●	●	●	●		●	●		L	●	●		●	●		●	●	L	●	●	●	●					５２４
		５２５	ＡＶ	108	７２		●	●	●		●	●	●			●	●	●	●	●		●		L		●	●	●							５２５
		５２６	ＡＶ	117	７８		●	●	●				●			●	●		L	L		●		●		●	●	●	L						５２６
	3階	５３１	ＡＶ	141	９４	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●		●	●						５３１
		５３２	ＡＶ	141	９４			●	●	●		●	●	●	●			●		●	●		●		●	●		●	●						５３２
		５３３Ａ	ＡＶ	42	４２	L		●	●		●	●	●	●		●	●	L	L		●	●	●	L		L	L	●							５３３Ａ
		５３３Ｂ	ＡＶ	42	４２				L		●		L	●			L	L	●				L	L			●	●							５３３Ｂ
		５３４	ＡＶ	141	９４	●			●		●		L	●		●	●						L	L		●	●	L	L		●				５３４
		５３５	ＡＶ	132	８８		●	●	L	●	●	L	●	●									●	●			●	●	●	L					５３５
		５３６	ＡＶ	141	９４	L	L	●	●			L	L						●			L		●		●	●	●							５３６
	4階	５４１Ａ	ＡＶ	42	４２		L	●			●		●	●			●	●	●		●		●	L		●	●	●							５４１Ａ
		５４１Ｂ	ＡＶ	42	４２			●	●		●		●			●	●	●	●							●	L								５４１Ｂ
		５４２	ＡＶ	141	９４		●	L	L		●	●	L			●			●			●		L				●	●						５４２
		５４３	ＡＶ	141	９４	L	L	●	●		●		●	●		L	●	●				●	●	●	●	●	●	●	●	●					５４３
		５４４Ａ	ＡＶ	42	４２		L		●	●	●						L	●	L		●	●	●			L	L	●		●					５４４Ａ
		５４４Ｂ	ＡＶ	42	４２	●		●	L		●	●	●	L		●	●						●				●	●		●					５４４Ｂ
		５４５	ＡＶ	132	８８		●	●	●		●		●				L					●	●			●	●			●					５４５
		５４６	ＡＶ	141	９４		●	●	●			●	L				L				●	L	●	●	●		●	●	●						５４６
	5階	５５１	ＡＶ	320	２００	●	●	●	●	●	●	●	●	L		●	●	●	●		L	●	●	●		●		●	●						５５１
		５５２	ＡＶ	320	２００		●	●	●			●	●	●		●	●					●	●	●		●		●	●						５５２
		５５５Ａ	ＡＶ	40	４０	●		●			●	●	●				●						L				●								５５５Ａ
		５５５Ｂ	ＡＶ	40	４０	●		●	●				●				●	●					L			L	L	●		●					５５５Ｂ
		５５６Ａ	ＡＶ	40	４０	●		●			●		●	●			●				●		●	●		●	●	L		●					５５６Ａ
		５５６Ｂ	ＡＶ	40	４０								●				●										●	L		●					５５６Ｂ
８号館		８４１	ＡＶ	264	１７６	●	●	●	●		●	●	●	●		●		●	●	●		●	●	●		●		●	L						８４１
		８４２	ＡＶ	498	３３２	●	●	●	●	●		●	●	●					●		●	●	L	●	●	●			L						８４２
10号館	4階	第５情処		72		L	L		L		●	●	●	●		●	●	●	L					●					●						第５情処
		第６情処		20			●				L	L	●	●		●	●	●	●			●	●	L		L		●							第６情処
		第７情処		20			L				L	L	L	●		●	●	L	L			●	●			L			L						第７情処
		第８情処	自習室																																第８情処
	5階	第１情処		102			●					●	●	●		●	●	●	●	●		●	●	●	●		●	●	●	●						第１情処
		第２情処		102			●	●	●	●		●	●	●		●	●	●	●			●		●			●		●	●						第２情処
		第３情処		102			●					●	●	●		●	●	L	●	●		●				●	●		●							第３情処
		第４情処		72			●				●	●	●	●		●	●	L	L			L	L	●			●	L	●							第４情処
		１０５１	テレビ	45		●	L	●	●	●		●	●	●				L	●				●	●		L	L	●	L						１０５１
		１０５２	テレビ	25		L	L	L			L	L					L		L				●	●				●							１０５２
		１０５３	テレビ	45									L					●			●	L	●	L		L	L	●							１０５３
		１０５４	テレビ	25		L	L				L	L	●				L		L				L				●		●						１０５４
		１０５５	テレビ	45								●	●			L	L		L		●	L	●	L			L	●	L						１０５５
		１０５６	テレビ	25							L	L					●					●	●												１０５６
		１０５７	テレビ	45												●	L						●	L			L								１０５７
		１０５８	テレビ	24								L					●		●																１０５８
	6階	１０６１	ＡＶ	139	９０	●	●		L			●		L				●			●	●	●	●	●	●	●	L	L						１０６１
		１０６２	ＡＶ	135	８６		●	●	●		L	L		L				●		L			L	L	●	●									１０６２
		１０６３	ＡＶ	135	８６	L	●	●	●	●	●	●		L										●	●	L	L	●							１０６３
		１０６４	ＡＶ	135	８６				●	●			●	●		●							●	●											１０６４
		１０６５	ＡＶ	59	５９	L	●	●	●					●	●		●		●	L	●	L	●	L		●	L	L	●							１０６５
		語学ゼミ１	ＡＶ	24	２４	L	L	L		●	L	●	●	●		L	L	L		●	L	L			●			●							語学ゼミ１
		語学ゼミ２	ＡＶ	24	２４	L	●	L			L	●	L	●		●	●					L	L				L	●							語学ゼミ２
		語学ゼミ３	ＡＶ	24	２４	L	L	L			L	●	L	●		●	L		L	●								●							語学ゼミ３
		語学ゼミ４	ＡＶ	24	２４	L	L	L	L		L	●				●	L					●	L		L	L	L	●							語学ゼミ４
		語学ゼミ５	ＡＶ	24	２４			●	●		L	●		●		●	L	L	●	L				L											語学ゼミ５
		語学ゼミ６	ＡＶ	24	２４		L				L	L				●	L	L	L	●			L												語学ゼミ６
		語学ゼミ７	ＡＶ	24	２４						L	●				L	L						●												語学ゼミ７
		語学ゼミ８	ＡＶ	24	２４						L	L	L			●	L																		語学ゼミ８
		語学ゼミ９	ＡＶ	24	２４						L	L				●	L					●													語学ゼミ９
		語学ゼミ10	ＡＶ	24	２４		●	●	●				●				●	●	●			●	●	●			●	●	●						語学ゼミ10
		ＣＡＬＬ４		60		L	L		●			L	●	●		L	L		●					L											ＣＡＬＬ４
	7階	ＣＡＬＬ１		48		L	L		L		●	L	L	●		●	●		●	L	●			L		●		L							ＣＡＬＬ１
		ＣＡＬＬ２		60		L	L	●	●		L	L	L	L		●	●	L	●			L		L	●			●	L						ＣＡＬＬ２
		ＣＡＬＬ３		60		L	L			●		L	L	●		●	●	●	L			L		L	●				L						ＣＡＬＬ３
		小スタジオ		80				L				L								L				L		L									小スタジオ
11号館	2階	１１２１	共通ゼミ	24								●		●			●					●	●					●							１１２１
		１１２２	ＡＶ	126	８４	●	●	L	●		L	●	●			●	L	●				●			●	L	●	L							１１２２
		１１２３	ＡＶ	210	１４０	●	●	●	●		●	●	●	●		●	●		L		●	●	●	●	●	●		●	●	●					１１２３
		１１２４	ＡＶ	126	８４	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●			●	●	●	L	●	●			●	●							１１２４
		１１２５	共通ゼミ	16																		●	●						●						１１２５
		１１２６	共通ゼミ	16																		●	●						●						１１２６
	3階	１１３１	共通ゼミ	24										●		●	L		●			●	●						●						１１３１
		１１３２	ＡＶ	126	８４	●	●	●	●			●	●			●	L	L	L	●	L	●	●	●		●	●	●							１１３２
		１１３３	ＡＶ	210	１４０	●	●	●	●		●	●	●	●		L	●	●	●	●	●	●		●		●	L	L	L							１１３３
		１１３４	ＡＶ	126	８４	●	●	●	●			●	●			●		●		●		●	●	●			●	●	●	L						１１３４
		１１３５	共通ゼミ	16								●							●			●	●						●						１１３５
		１１３６	共通ゼミ	16										●								●	●						●						１１３６
	4階	１１４１	共通ゼミ	24								●				●	●	●	●			●	●						●						１１４１
		１１４２	ＡＶ	126	８４		●	●	●		●	●					●	●	●				●					●							１１４２
		１１４３	ＡＶ	60	６０	●	●			L	●	●					L	●			●	●													１１４３
		１１４４	ＡＶ	60	６０	●	●	●	●		●	●	L	L			L			●	●	●	●			L	L									１１４４
		１１４５	ＡＶ	60	６０		●		●				●			●	●		●			●	●					●							１１４５
		１１４６	ＡＶ	60	６０	●	●	●	●		●		●				●	●	L			L				L	L								１１４６
		１１４７	ＡＶ	60	６０		●					●	L				●	●			●		●				●								１１４７
		１１４８	共通ゼミ	20								●		●			●					●	●						●						１１４８
		１１４９	共通ゼミ	25								●		●			●					●	●						●						１１４９
	5階	１１５１	共通ゼミ	24															●				●												１１５１
		１１５２	ＡＶ	156	１０４	●	●	●	●		●	●	●	●		●			●						●	●	●		●						１１５２
		１１５３	ＡＶ	120	８０	●	●	●	L				L			●	●	L	●			●		●		●	●	L							１１５３
	6階	１１６１	共通ゼミ	24																															１１６１
12号館	2階	１２２１	ＡＶ	95	６２								●	●						●							●		L						１２２１
		１２２２	ＡＶ	103	６７						●		●	●				L									●								１２２２
		１２２３	ＡＶ	72									●	●			L			●			●							●				１２２３
		１２２４	共通ゼミ	24																															１２２４
	3階	１２３１	ＡＶ	255	１７０		●	L				●	●	●			●				●	●	●	●		●		●	●						１２３１
		１２３２	ＡＶ	270	１８０	●		●			●	●	●	●			●	●	●	●	●	●		●				L							１２３２
		１２３３	ＡＶ	210	１４０		●	●	●		●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●			●								１２３３
	4階	１２４１	ＡＶ	225	１５０			●				●	●	●			●	●	●	●	●			●		●	●								１２４１
		１２４２	ＡＶ	234	１５６						●	●	●	L		●	●	●	●		●			●			●								１２４２
		１２４３	ＡＶ	237	１５８							●	●	L		●	L	●	●		●	●	●	●		L	●								１２４３
						1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	

教室規模	部屋数	月 1	月 2	月 3	月 4	月 5	火 1	火 2	火 3	火 4	火 5	水 1	水 2	水 3	水 4	水 5	木 1	木 2	木 3	木 4	木 5	金 1	金 2	金 3	金 4	金 5	土 1	土 2	土 3	土 4	土 5
50人未満	42	12	12	17	12	4	22	23	20	16	0	17	33	14	22	4	9	21	33	11	2	8	19	19	13	6	0	0	0	0	0
		29%	29%	40%	29%	10%	52%	55%	48%	38%	0%	40%	79%	33%	52%	10%	21%	50%	79%	26%	5%	19%	45%	45%	31%	14%	0%	0%	0%	0%	0%
50～99	8	4	6	3	4	1	3	4	6	4	1	1	7	3	3	4	4	5	5	1	0	3	5	2	2	1	0	0	0	0	0
		57%	86%	43%	57%	14%	43%	57%	86%	57%	14%	14%	100%	43%	43%	57%	57%	71%	71%	14%	0%	43%	71%	29%	29%	14%	0%	0%	0%	0%	0%
100～199	26	15	21	22	24	8	17	19	21	14	5	15	13	14	12	8	8	17	16	20	9	18	22	21	14	8	1	0	0	0	0
		58%	81%	85%	92%	31%	65%	73%	81%	54%	19%	58%	50%	54%	46%	31%	31%	65%	62%	77%	35%	69%	85%	81%	54%	31%	4%	0%	0%	0%	0%
200～	12	6	8	10	7	2	7	12	12	11	0	8	10	8	10	5	10	10	9	12	2	9	5	7	7	1	0	0	0	0	0
		50%	67%	83%	58%	17%	58%	100%	100%	92%	0%	67%	83%	67%	83%	42%	83%	83%	75%	100%	17%	75%	42%	58%	58%	8%	0%	0%	0%	0%	0%
計	88	37	47	52	47	15	49	58	59	45	6	41	63	39	47	21	31	53	62	44	13	38	51	49	36	16	1	0	0	0	0
		42%	53%	59%	53%	17%	56%	66%	67%	51%	7%	47%	72%	44%	53%	24%	35%	60%	70%	50%	15%	43%	58%	56%	41%	18%	1%	0%	0%	0%	0%
情報処理	7	1	7	1	2	1	4	7	7	7	0	7	7	7	7	2	0	6	4	5	1	3	4	3	6	2	0	0	0	0	0
		14%	100%	14%	29%	14%	57%	100%	100%	100%	0%	100%	100%	100%	100%	29%	0%	86%	57%	71%	14%	43%	57%	43%	86%	29%	0%	0%	0%	0%	0%
CALL	5	4	4	2	3	1	2	5	4	4	0	4	5	2	4	2	1	2	2	4	2	1	1	2	2	0	0	0	0	0	0
		80%	80%	40%	60%	20%	40%	100%	80%	80%	0%	80%	100%	40%	80%	40%	20%	40%	40%	80%	40%	20%	20%	40%	40%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

■国際学部 主な購読予定雑誌一覧

【学術雑誌】

タイトル	補足	出版社
BT : 美術手帖 : bijutsu techo : monthly art magazine		美術出版社
アジア研究 : アジア政経学会季刊		
季刊地理学		
季刊民族学		
藝術新潮		新潮社
月刊インドネシア		日本インドネシア協會
月刊みんぱく		
現代思想	臨増含む	
現代中國		
國語國文		
國語と國文學		
史學雑誌		
史林		寶文館
人文地理		
西洋史學		日本西洋史学会
西洋中世研究		西洋中世学会
中国21		
中国研究月報		
地理		
地理学評論		
日本語学		明治書院
日本語教育		日本語教育学会
日本語の研究		日本語学会
日本史研究		
日本歴史	別増含む	
博物館研究		
美學		美学会
美術研究		
美術史		
ヒストリア		
表象 : hyosho : journal of the Association for Studies of Culture and Representation		表象文化論学会
文化人類学		
ユリイカ : 詩と詩論		
理想		理想社
歴史評論		
American anthropologist.		John Wiley & Sons Ltd. (formerly: Blackwell)
American ethnologist		John Wiley & Sons Ltd. (formerly: Blackwell)
American Studies		Mid-America American Studies Association
Applied linguistics		Oxford University Press
Australian traveller : honestly Australian		Australian Traveller Media Pty Ltd
Bijdragen tot de taal-, land- en volkenkunde		Brill Academic Publishers
Dewan budaya		Dewan Bahasa dan Pustaka
Dewan masharakat		Dewan Bahasa dan Pustaka
Drama : one forum many voices		National Drama
ELT journal		Oxford University Press
English language and linguistics		Cambridge University Press
English world-wide : a journal of varieties of English		John Benjamins
Español actual		Arco Libros
Functions of language		John Benjamins Pub
Heidegger studies		Eterna Press
Indonesia		SEAP Publications, Cornell University
The international journal of bilingualism		Sage Publications Ltd.

■国際学部 主な購読予定雑誌一覧

【学術雑誌】

タイトル	補足	出版社
International migration review		Sage Publications Ltd.
Journal of linguistics		Cambridge University Press
Journal of second language writing		Elsevier Science
Journal of the Malaysian Branch of the Royal Asiatic Society		Royal Asiatic Society Malaysian Branch
Jurnal dewan bahasa : jurnal pembinaan dan pengembangan bahasa		Dewan Bahasa dan Pustaka
Language acquisition : a journal of developmental linguistics		Taylor & Francis Limited
Language learning : a quarterly journal of applied linguistics		John Wiley & Sons Ltd. (formerly: Blackwell)
Language teaching		Cambridge University Press
Leviathan : a journal of Melville studies		Johns Hopkins University Press
The Shakespeare quarterly		Johns Hopkins University Press
Signs : journal of women in culture and society		The University of Chicago Press
Studies in second language acquisition		Cambridge University Press
TESOL quarterly		John Wiley & Sons Ltd.
Visible language		Visible Language
汉语学习		漢語学習編輯部
语言研究		華中科技大学中国語言研究所語言研究編輯部
语文研究		語文研究編輯部
世界漢語教学		北京語言大学対外漢語研究中心世界漢語教学編輯部
中國語文		商務印書館

【電子ジャーナル】

タイトル	補足	出版社
Journal of Popular Music Studies		University of California Press
Journal of the International Phonetic Association		Cambridge University Press
Language		Linguistic Society of America
Natural Language and Linguistic Theory		Springer
Southern Cultures		University of North Carolina Press